

平成19年度都市再生プロジェクト推進調査費

「馬天港みなとまちづくり」形成のための基礎調査 【報告書】



平成 20 年 3 月

南 城 市 商 工 会

はじめに

中城湾港馬天地区は沖縄本島東海岸の良港として古くから栄えてきたが、現在では、零細な漁業活動および作業船の基地として利用が中心の港となり、かつての“みなとまち”としての賑わいは失われ、地域活力低下の一因となっている。

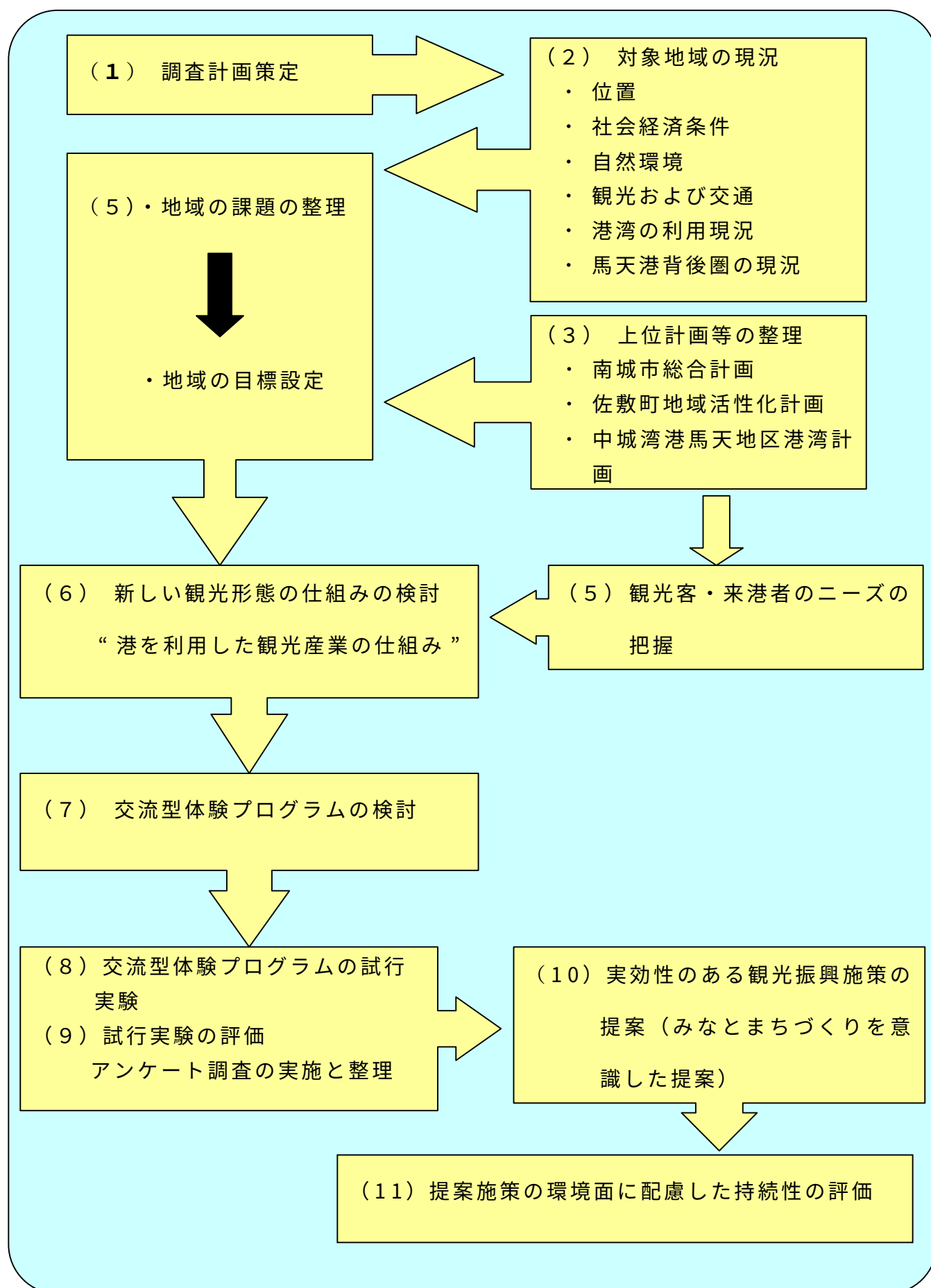
本調査は、地域の活性化を目指し、かつての“みなとまち”としての賑わいを取り戻すべく、中城湾港馬天地区および周辺地域の魅力の発掘により、地域資源を再発見するとともに、その地域資源を活用した交流型体験プログラムを検討する。また、その交流型体験プログラムを試行実験することにより、交流型体験プログラムによる地域の活性化の可能性と施策展開のあり方、そのプログラムを実現するために必要な施設計画を検討し、今後進められる“みなとまちづくり”の展開への基礎調査とするものである。

調査は、次の事項に配慮しながら進めることとした。

- ① 最新・最適な情報を前提とした検討
- ② 本調査以後の事業性・実効性に配慮した交流型体験プログラム作り
- ③ 地域の住民の参加による交流型体験プログラム作りと試行実験
- ④ “みなとまちづくり”へ結びつく展開と必要施設の検討
- ⑤ 地域の人々の参加によりできあがる仕組み作りと施策の検討
- ⑥ 脱車の地域形成と観光開発の可能性

また、本調査は内閣府都市再生本部の都市再生モデル事業として行われるものであり、南城市商工会が、地域の人々の参加と協力の下、上城技術情報株式会社に再委託し実施したものであり、調査の構成は次ページフロー図の通りである。

「馬天港みなとまちづくり」形成のための基礎調査フロー



【 本 編 】

目 次

「馬天港みなとまちづくり」形成のための基礎調査

本編

第1章 対象地域の現況

1. 対象地域の位置	1
2. 南城市の概要	2
3. 面積と人口	3
4. 産業	5
5. 自然環境	9
6. 観光	17
7. 港湾利用状況	20
8. 馬天港背後圏の状況	22

第2章 対象地域の上位計画における位置付け

1. 「地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な構想」	23
2. 「沖縄観光振興基本計画」	27

第3章 観光客、来港客のニーズの把握

1. 地域のニーズ	30
2. 観光客のニーズ	32

第4章 地域の課題と目標の設定

第5章 新しい観光形態の仕組みの検討

第6章 交流型体験プログラムの試行実験

第7章 試行実験の評価

1. 参加者の構成	5 2
2. 体験プログラムの評価	6 1
3. イベント会場の評価	7 0
4. 今後の展望	7 5

第8章 実効性のある観光振興産業の提案

1. みなとまちづくりの視点	8 0
2. みなとまちづくりのゾーニング	8 0
3. みなとまちづくりの方策	8 2
4. 実用化に向けた考慮事項	8 4
5. 実用化の方針	8 4
6. 具体的な取り組み方法の提案	8 6

第9章 環境施策の環境面に配慮した持続性の評価	9 2
-------------------------	-----

参考資料

1. 馬天港みなとまちづくり検討委員会名簿
2. 検討議事録
3. 馬天みなとまつりパンフレット
4. アンケート表
5. アンケート調査結果資料
馬天港の活性化についての意見
まつり参加者が気づいた点

第1章 対象地域の現況

1.1 対象地域の位置

本調査の対象地域は馬天港を中心とした地域である。対象地域は、沖縄県南東部に位置している。また、中城湾の奥に位置しており、比較的穏やかな海域を持つ地域である。

馬
天
港



写真：沖縄県ホームページより



1.2 南城市の概要 （南城市ホームページ、県統計資料より作成）

南城市は、平成 18 年 1 月 1 日、佐敷町・知念村・玉城村・大里村の 1 町 3 村が合併し出来た新しい市であり、那覇都市圏に隣接した地域である。

南城市	旧玉城村	16.87k m ²
	旧佐敷町	10.60k m ²
	旧大里村	12.35k m ²
	旧知念村	9.88k m ²



■ 位置及び交通アクセス

沖縄本島の南部に位置し、那覇市から南東へ約 12 km、那覇空港から 40 分圏内にある市域は、一部の地域は、那覇都市圏に繰りこまれている。



1.3 面積と人口

北部は静穏な中城湾に、東部、南部は太平洋に面し、東西 18 km、南北 8 km に広がる。

面積： 49.70 k m²

人口： 40,548 人（平成 19 年 3 月末現在）

世帯数： 13,414 世帯

急速に進む高齢化：佐敷町 H 1 2 年→H 1 7 年 3.3% 増加
（馬天港は旧佐敷町に属する）

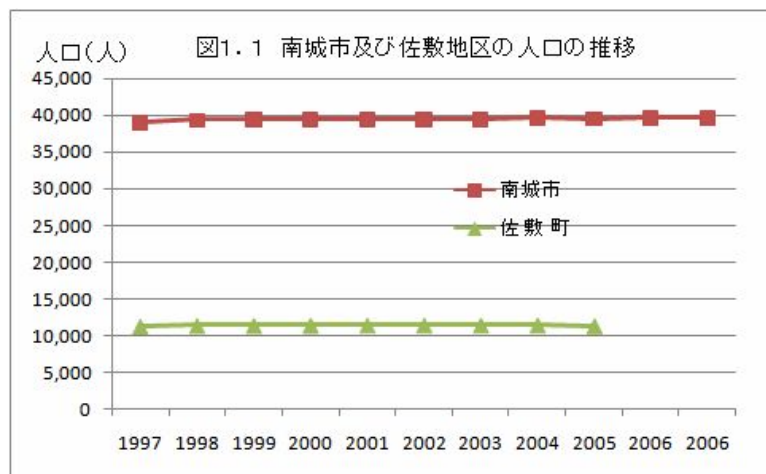
(1) 人口の推移

南城市の人口は沖縄の約 3 % 程度であり、横ばいもしくは微増傾向にある。また、佐敷地区は、南城市の人口のほぼ 30 % に相当している。

表1.1 南城市の人口の推移と佐敷地区の割合

年	南城市	佐敷町	佐敷地区の割合
1997	38,964	11,306	29.02%
1998	39,325	11,418	29.03%
1999	39,439	11,428	28.98%
2000	39,521	11,458	28.99%
2001	39,351	11,472	29.15%
2002	39,521	11,476	29.04%
2003	39,530	11,476	29.03%
2004	39,673	11,480	28.94%
2005	39,536	11,379	28.78%
2006	39,575		
2006	39,651		
佐敷地区の割合の平均値			29.00%

資料：沖縄県企画部統計課



(2) 佐敷の人口分布

南城市の3階級別の人口の5年間の推移を見ると、15歳未満が減少し、65歳以上の高齢者が増加している。65歳以上の人口に占める比率は、この平成12年から17年の間の5年間で16.2%から19.5%と増加しており、急速に高齢化が進んでいることが理解される。また、佐敷地区は、過去の5年間で若年人口の減少と高齢者の増加が南城市では最も大きく、高齢化が特に進んだ地区となっている。

表1.2 南城市の3階級人口の増減（平成12年・17年）

地域	人 口						年 齢 別 割 合 (%)					
	平 成 12 年			平 成 17 年			平 成 12 年			平 成 17 年		
	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上
沖 縄 県	264,279	861,826	182,557	254,203	888,046	218,897	20.2%	65.9%	13.9%	19.4%	67.9%	16.7%
南 城 市	7,500	25,278	6,343	6,709	25,316	7,626	19.2%	64.6%	16.2%	17.1%	64.7%	19.5%
対県割合	2.84%	2.93%	3.47%	2.64%	2.85%	3.48%						
玉 城 村	1,972	6,596	1,748	1,849	6,624	2,095	19.1%	63.9%	16.9%	17.9%	64.2%	20.3%
知 念 村	962	3,891	1,105	810	3,951	1,263	16.1%	65.3%	18.5%	13.6%	66.3%	21.2%
佐 敷 町	2,255	7,267	1,870	1,969	7,220	2,267	19.8%	63.8%	16.4%	17.3%	63.4%	19.9%
大 里 村	2,311	7,524	1,620	2,081	7,521	2,001	20.2%	65.7%	14.1%	18.2%	65.7%	17.5%
地 域	増減(12年から17年)											
	実 数			率 (%)			割 合 の 増 減			平成17年対県人口割合		
	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上	総数	割合	
沖 縄 県	-10,076	26,220	36,340	-3.8%	3.0%	19.9%	-0.8%	2.0%	2.8%	1,361,146	100.00%	
南 城 市	-791	38	1,283	-10.5%	0.2%	20.2%	-2.0%	0.1%	3.3%	39,651	2.91%	
玉 城 村	-123	28	347	-6.2%	0.4%	19.9%	-1.2%	0.3%	3.4%	10,568	0.78%	
知 念 村	-152	60	158	-15.8%	1.5%	14.3%	-2.6%	1.0%	2.7%	6,024	0.44%	
佐 敷 町	-286	-47	397	-12.7%	-0.6%	21.2%	-2.5%	-0.4%	3.5%	11,456	0.84%	
大 里 村	-230	-3	381	-10.0%	0.0%	23.5%	-2.0%	0.0%	3.3%	11,603	0.85%	

資料：平成17年国勢調査

1.4 産業

地域の産業構造は、第3次産業が中心であるが、第1次産業の比率も比較的高い。近年、建設業が衰退する中、2次産業は建設業が中心であり、今後は、建設産業に変わる地域の産業を育てていかねばならない。

(1) 就業人口構成比

南城市の産業別就業者数の構成は、

1次：2次：3次＝12.4：19.3：67.7

と、県の構成比率や、那覇市の構成比率と比較しても、第2次産業の就業者数の割合が高くなっている。2次産業の構成比が高いのは、表1.4に整理したように、建設産業の就業者数の比率が高いためである。

表1.3 南城市の産業別就業者数

市町村	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	産業別割合(%)		
					第1次産業	第2次産業	第3次産業
玉城村	4,673	625	946	3,054	13.4%	20.2%	65.4%
知念村	2,254	412	400	1,434	18.3%	17.7%	63.6%
佐敷町	4,896	451	946	3,489	9.2%	19.3%	71.3%
大里村	5,357	643	1,023	3,657	12.0%	19.1%	68.3%
南城市	17,180	2,131	3,315	11,634	12.4%	19.3%	67.7%
県計	560,477	32,873	91,358	427,738	5.9%	16.3%	76.3%
那覇市	123,747	842	14,486	105,316	0.7%	11.7%	85.1%
恩納村	4,652	804	563	3,197	17.3%	12.1%	68.7%

資料：平成17年国勢調査

表1.4は、南城市の就業人口構成比のうちの主なものを整理したものである。10%前後を占めているのは、農業、建設業、卸売・小売業、医療福祉産業である。沖縄県全体でも建設業の就業人口の比率が高いが、近年、建設業が衰退する中、このような建設業依存の産業構成を変えていくことが求められる。沖縄県でも、リゾート地として有名な恩納村の構成比と比較してみると、観光産業と直接結びつく飲食店・宿泊業の就業人口に大きな違いが有ることが理解される。

つまり、これからの地域の産業として、建設業に変わる産業としては、

- ① 地域の特色である医療福祉産業を活かす工夫
- ② 北部地域と比べて遅れている観光産業への取組
- ③ 地域の一次産業の活用

が必要と思料される。

表1.4 南城市の主な就業人口構成

単位:人、%)

市町村	総数	1次産業		2次産業		3次産業				
		農業	漁業	建設業	製造業	運輸業	卸売・小売業	飲食店・宿泊業	医療、福祉	サービス業(他に分類され)
玉城村	4,673	594	29	632	311	227	685	280	548	670
知念村	2,254	296	116	273	127	126	317	110	221	226
佐敷町	4,896	421	30	597	349	301	899	284	621	640
		8.60%	0.61%	12.19%	7.13%	6.15%	18.36%	5.80%	12.68%	13.07%
大里村	5,357	634	9	576	445	331	904	232	641	725
南城市	17,180	1,945	184	2,078	1,232	985	2,805	906	2,031	2,261
		11.32%	1.07%	12.10%	7.17%	5.73%	16.33%	5.27%	11.82%	13.16%
県計	560,477	29,609	3,110	63,523	27,563	27,080	99,943	45,144	61,690	89,628
		5.28%	0.55%	11.33%	4.92%	4.83%	17.83%	8.05%	11.01%	15.99%
那覇市	123,747	634	197	9,425	5,040	7,012	25,952	11,037	12,531	19,785
		0.51%	0.16%	7.62%	4.07%	5.67%	20.97%	8.92%	10.13%	15.99%
恩納村	4,652	686	116	408	154	104	585	925	320	734
		14.75%	2.49%	8.77%	3.31%	2.24%	12.58%	19.88%	6.88%	15.78%

資料:平成17年国勢調査

(2) 第1次産業

農業就業者数 980人 生産額:569千万円

漁業就業者数 140人

(3) 第2次産業

沖縄県の工業統計によると平成18年の南城市の製造品出荷額は206億円であり、県全体の3.9%となっている。また、佐敷地区の工業出荷額は平成17年で11億円であり、一人当たりの給与支払額は、195.7万円となっている。

表1.5 南城市の工業生産額

	事業所数	従業者数	現金給与総額 (万円)	原材料使用額等 (万円)	製造品出荷額等 (万円)	粗付加価値額 (万円)
県計	1,327	24,467	6,559,106	34,090,324	52,802,537	14,706,109
南城市	59	1,051	256,820	1,364,694	2,063,340	666,436
対県比率(%)	4.4%	4.3%	3.9%	4.0%	3.9%	4.5%

資料:平成18年沖縄県工業統計調査速報

表1.5.2 佐敷町の業中分類別事業所数、従業者数、現金給与総額、原材料使用額等

産業中分類	事業所数	従業者数 (人)	現金給与総額 (万円)	原材料使用額等 (万円)	製造品出荷額等 (万円)	粗付加価値額 (万円)
合計	14	111	21,729	70,564	110,916	38,432
09 食料品製造業	4	61	10,064	44,140	61,921	16,936
14 家具・装飾品製造業	5	9	790	905	1,942	987
25 金属製品製造業	3	29	9,351	24,078	43,412	18,414
30 輸送用機械器具製造業	2	12	X	X	X	X

資料:平成17年沖縄県工業統計調査速報

(4) 第3次産業

南城市の主な3次産業は商業及び医療福祉産業である。表1.6は、南城市の商業の実態を整理したものであり、事業所数、従業員数とも、対県割合は、それぞれ2.32%、1.50%であり、人口割合の約3%以下となっている。また地域の年間商品販売額は、対県割合で、0.92%となっており、地域の消費構造が他地域への依存型となっていることが理解され、地道な地産地消への取組が期待される。

表1.6 商業事業所数、従業員数、年間商品販売額等(平成14年)

	事業所数			従業者数(人)			年間商品 販売額 (万円)	平成14年人口	人口一人当たり 販売額 (万円/人)
	計	法人	個人	計	法人	個人			
沖縄県	20,123	5,640	14,483	108,486	69,543	38,943	249,205.672	1,337,975	186
南城市	466	67	399	1,629	757	872	2,300.092	39,566	58
対県割合	2.32%	1.19%	2.75%	1.50%	1.09%	2.24%	0.92%	2.96%	
玉城村	119	16	103	402	185	217	525.047	10,394	51
知念村	70	6	64	126	21	105	50.254	6,014	8
佐敷町	142	16	126	537	264	273	923.556	11,502	80
大里村	135	29	106	564	287	277	801.235	11,656	69

資料：経済産業省「商業統計表 第2巻 産業編」、県統計課「沖縄県の商業」

調査期日：平成14年6月1日

表1.7は、南城市の宿泊施設数を整理したものである。県全体の宿泊施設の構成は、ホテル・旅館が中心となっているが、南城市の場合には、民宿および団体施設も大きなウエイトを持っている。このような状況は、現代の滞在型観光産業の展開に有利な条件と言えない。

しかし、南城市がリゾート及び観光産業等への取組を推進する場合、那覇市からの近接性を考え、那覇市地域のホテル・旅館等と連携し、海の体験プログラムなどの充実を図ることにより、観光客を吸引することが意図されなければならない。

表1.7 南城市の宿泊施設数

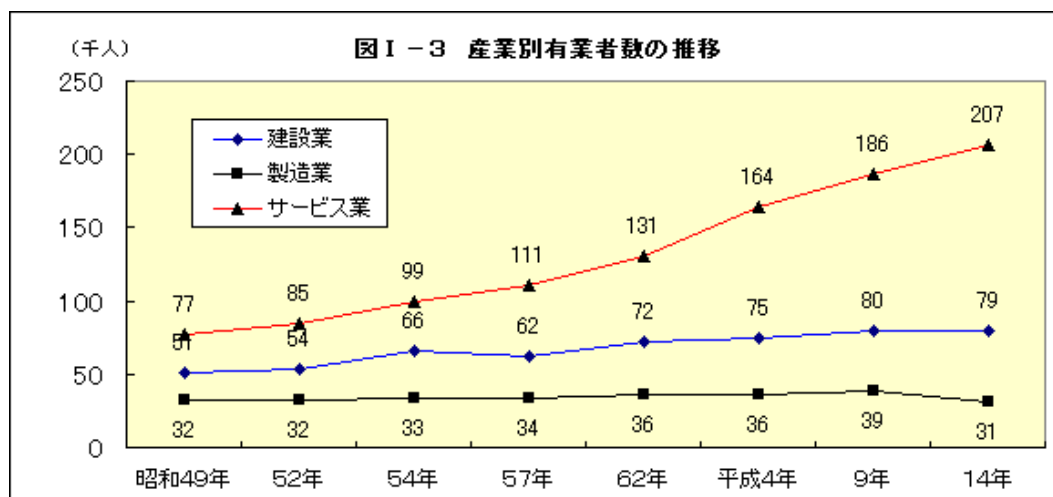
地域	業 態	軒数	客 室 数			収容人 員	宿泊施設構成比率				
			和	洋	計						
沖縄県	ホテル・旅館	314	2,325	23,758	26,083	62,333	30.7%	41.8%	88.8%	80.7%	77.2%
	民宿	406	2,464	713	3,177	8,772	39.7%	44.3%	2.7%	9.8%	10.9%
	ウィークリーマンション	32	17	811	828	1,276	3.1%	0.3%	3.0%	2.6%	1.6%
	団体経営施設	33	229	266	495	2,592	3.2%	4.1%	1.0%	1.5%	3.2%
	その他	237	522	1,215	1,737	5,773	23.2%	9.4%	4.5%	5.4%	7.1%
	合 計	1,022	5,557	26,763	32,320	80,746	100%	100%	100%	100%	100%
南城市	ホテル・旅館	2	54	56	110	426	11.8%	47.4%	69.1%	56.4%	45.3%
	民宿	12	42	18	60	188	70.6%	36.8%	22.2%	30.8%	20.0%
	ウィークリーマンション	1	0	7	7	27	5.9%	0.0%	8.6%	3.6%	2.9%
	団体経営施設	2	18	0	18	300	11.8%	15.8%	0.0%	9.2%	31.9%
	その他	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	合 計	17	114	81	195	941	100%	100%	100%	100%	100%

資料：県観光企画課 「観光要覧 平成18年版」

【県の産業動向：製造業、建設業の有業者数が減少】

沖縄県の就業人口は、サービス業の増加が続き、建設業・製造業は調査開始以来初の減少 傾向を示している。

- ・有業者数を産業別にみると「製造業」は平成9年と比べ8千人減少し、調査開始以来初の減少、建設業も1千人減少



※ H 1 4 年のサービス業は医療福祉、教育学習支援業、複合サービス事業、サービス業（他に分類されないもの）、飲食店宿泊業の合計から飲食店を差し引いた数である。

1.5 自然環境

亜熱帯海洋性気候であり、沿岸域として過ごしやすい地域である。また、中城湾内という条件のため、海域は、穏やかで様々なマリンスポーツの適地である。

(1) 自然条件

① 気候

気候は、黒潮の影響を強く受ける亜熱帯海洋性気候であり、高温・多湿で年間降水量が多くなっている。特に、梅雨期(5月中旬から6月下旬)、台風期(7月から10月)に降水量が多い。

表1.5.1 南城市の気候(2006年)

	降水量	平均気温	最高気温	最低気温
単位	mm	℃	℃	℃
1月	162	16.4	24.1	9.4
2月	133	16.3	23.5	9.7
3月	110	16.5	22.5	10.5
4月	289	19.3	24.9	13.8
5月	311	23.1	28.2	17.3
6月	309	25.1	30.6	18.2
7月	63	27.2	32.5	23.5
8月	128	27.4	32.1	22.1
9月	138	25.8	31.2	19.1
10月	52	24.1	28.9	20.6
11月	87	21.2	26.1	16.1
12月	128	17.7	25.1	11.6
通年	1,910	21.7	32.5	9.4

資料：沖縄気象台ホームページより

② 海象

・潮 位： $H.W. L = D L + 2.1m$

・波 浪：馬天港港外の波浪の出現頻度は表 1.5.2 の通りであり、1 m以下の波高出現率が98%以上であり、静穏な海域である。

表1.5.2 馬天港港外の波高出現頻度

波高(cm)	NNE	NE	ENE	WNW	NW	NNW	N	CALM	合計	頻度
0 ～ 30	100	94	3,552	108	129	105	160	2,811	7,059	55.72%
30 ～ 50	90	119	2,682		8	50	222		3,171	25.03%
50 ～ 100	57	134	1,917			1	120		2,229	17.59%
100 ～ 150	1	9	167				1		178	1.41%
150 ～ 200		1	22						23	0.18%
200 ～ 300			9						9	0.07%
300 ～									0	0.00%
合計	248	357	8,349	108	137	156	503	2,811	12,669	100%
発生率	1.96%	2.82%	65.90%	0.85%	1.08%	1.23%	3.97%	22.19%	100%	

資料:「中城湾港港湾計画業務資料」 中城湾港港湾管理者

沖縄県は「自然環境の保全に関する指針」を定めており、対象地域における陸域と沿岸域の自然の保全に関しては次のように決められている。

凡 例

	評価ランクⅠ(自然環境の厳正な保護を図る区域)
	評価ランクⅡ(自然環境の保護・保全を図る区域)
	評価ランクⅢ(自然環境の保全を図る区域)
	評価ランクⅣ(身近な自然環境の保全を図る区域)
	評価ランクⅤ(緑地環境の創造を図る区域)

⑧ P.24 参照

⑩ P.25 参照

佐敷町

富州町

伊豆市

図 面 番 号		2 6	圏域区分番号	8	
保全性分級区分名		身近な自然環境の保全を図る地域			
圏 域 内 市 町 村 名		与那原町、佐敷町、大里村、西原町			
自然環境	地 形 ・ 地 質	地形分類は、概ね小起伏丘陵である。沿岸よりは丘陵上を刻む浅谷（盆状谷）であり、南東部に埋立地がある。西部に丘陵上を刻む浅谷（盆状谷）がある。沿岸部は海岸低地である。 表層土壌は、灰色台地土壌、埴質未熟土壌が混在し、東部に細粒褐色低地土壌、南西部に塩基系暗赤色土壌、礫質暗赤土土壌、岩石地がある。 表層地質は、内陸部は概ね泥岩（新第三紀～第四紀）である。北部に砂岩（新第三紀～第四紀）、南西部に琉球石灰岩（第四紀）がある。沿岸部は沖積層粘土・シルト・砂・礫（第四紀）である。 特異な地形・地質として、「円錐丘」がある。			
	植 物	現存植生は、畑地雑草群落、チガヤーススキ群落、ナガミボチョウジークスノハカエデ群落が混在し、中央部に造成地（人為裸地）、北部に外国産広葉樹植林がある。全域に市街地が混在する。 植生自然度は、1、2、5、9が混在し、北部に3がある。			
	動 物	貴重な動物として、少なくとも、希少種5種（うち県指定天然記念物1種）の生息推定域である。			
	そ の 他	埋蔵文化財包蔵地「稲福中森御嶽遺跡」、「稲福ハンタ原遺跡」、「与那原遺跡」がある。 地区公園1箇所、都市緑地1箇所、近隣公園2箇所がある。			
社会環境	法 規 制	一部地域が保安林として指定されている。 全域が那覇広域都市計画区域に指定されている。 一部地域を除き騒音規制地域、振動規制地域、悪臭規制地域に指定されている。			
	土 地 利 用	一部地域が地域森林計画区域に定められている。 全域が農業振興地域に指定され、一部地域を除き農用地区域となっている。 土地利用の現況は、内陸部北部は概ね野草地であり、一部に広葉樹林、サトウキビ畑等がある。東部に商業地区、業務地区等がある。西部は概ねサトウキビ畑、一般住宅地区であり、一部に工業地区、商業地区等がある。南部は概ねサトウキビ畑、広葉樹林であり、一部に野草地、一般住宅地区等がある。沿岸部は概ね一般住宅地区である。			
その他	河 川				
	景 眺 観 点	上の森近隣公園（眺望点）がある。			
特 記 事 項					

図 面 番 号		2 6	圏域区分番号	1 0
保全性分級区分名		身近な自然環境の保全を図る区域		
圏 域 内 市 町 村 名		佐敷町、知念村		
自然環境	地形・地質	地形分類は、内陸部は概ね小起伏丘陵であり、丘陵上を刻む浅谷（盆状谷）が混在する。南部に谷底低地がある。沿岸部に海岸低地がある。 表層土壌は、埴質未熟土壌、灰色台地土壌が混在し、一部に細粒褐色低地土壌がある。南西部は細粒灰色低地土壌、灰色台地土壌が混在し、一部に中粒褐色低地土壌がある。沿岸部西部に砂質未熟土壌がある。 表層地質は、概ね泥岩（新第三紀～第四紀）である。北東部に琉球石灰岩（第四紀）、中央部に砂丘砂層石灰質砂（第四紀）がある。沿岸部は沖積層粘土・シルト・砂・礫（第四紀）である。 特異な地形・地質として、「キノコ岩」、「砂嘴」がある。		
	植 物	現存植生は、概ね畑地雑草群落であり、西部にモクマオウ植林、南部にナガミボチョウジークスノハカエデ群落がある。北部はナガミボチョウジークスノハカエデ群落が混在し、北東部にチガヤーススキ群落がある。全域に市街地が混在する。 植生自然度は、概ね2であり、1が混在し、西部に3、南部に9がある。北部は9が混在し、北東部に5がある。 特定植物群落として「富祖崎のハマジンチョウ並びにメヒルギ群落」（県指定天然記念物）がある。		
	動 物	貴重な動物として、少なくとも、希少種4種（うち県指定天然記念物1種）の生息推定域である。		
	そ の 他	埋蔵文化財包蔵地「知名グスク」、「屋比久グスク」がある。 富祖崎公園（地区公園）、佐敷マリーナ（レジャー施設）がある。		
社会環境	法 規 制	北西部沿岸部の一部が保安林として指定されている。 伊原に地滑り防止区域がある。 佐敷町が那覇広域都市計画区域に指定されている。		
	土 地 利 用	一部地域が地域森林計画区域に定められている。 全域が農業振興地域に指定され、一部地域を除き農用地区域となっている。 土地利用の現況は、概ねサトウキビ畑であり、一部に一般住宅地区がある。北部に広葉樹林、運輸流通施設等、東部に野草地、広葉樹林等、西部に公園緑地、温室等、南部に空地、野草地等がある。沿岸部に裸地、空地、工業地区がある。		
その他	河 川	浜崎川、知名大川がある。		
	景 眺 観 点			
特 記 事 項				

2) 沿岸域における自然環境の保全に関する指針

④ 【評価ランクⅡ（自然環境の保護・保全を図る区域）】

⑩、⑪ 【評価ランクⅢ（自然環境の保全を図る区域）】

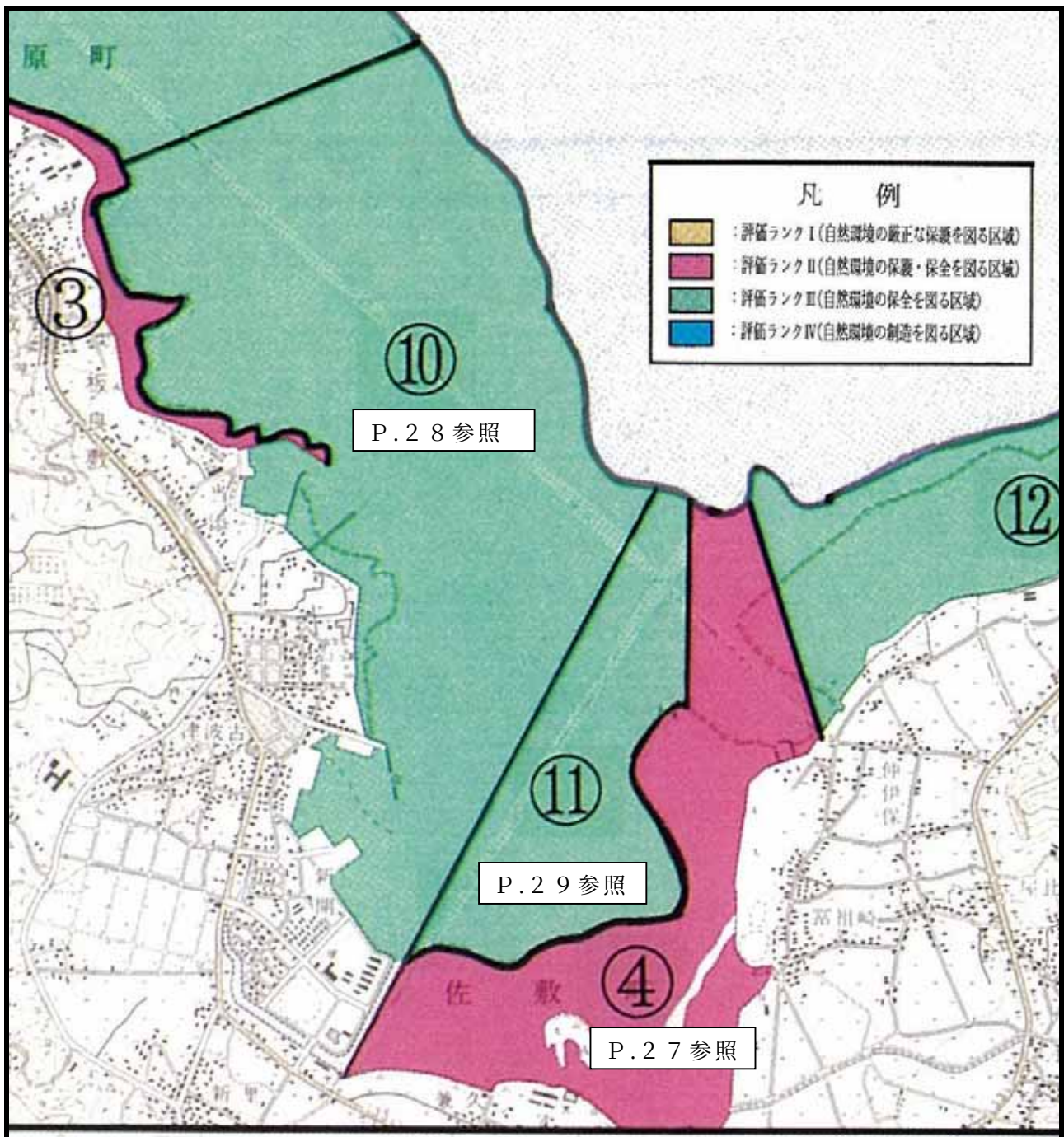


図 面 番 号		2 6	圏域区分番号	4	
保全性分級区分名		自然環境の保護・保全を図る区域			
沿 岸 域 市 町 村 名		佐敷町			
海 域 区 分 情 報		新開埋立地南側護岸から仲伊保北西海岸地先			
自然環境	地形・地質	海底地形分類は、概ね緩斜面であり、北部にサンゴ礁地形がある。 海底地質分類は、概ね砂であり、北部にサンゴがある。			
	藻場・干潟 サンゴ礁	兼久地先に干潟（約38ha）が分布する。			
	動 物	兼久地先に、富祖崎地先でトカゲハゼが確認されている。 兼久地先、富祖崎地先、佐敷の埋立地南の河口部でシオマネキが確認されている。 富祖崎地先でオキナワアナジャコが確認されている。 トカゲハゼ、トビハゼ、オキナワアナジャコ、シオマネキの生息推定域である。			
	植 物	佐敷の埋立地の南の河川河口部にはマングローブ林がある。			
	そ の 他	兼久地先で、COD濃度 0.7 mg/ℓ、DO濃度 6.9 mg/ℓである。			
社会環境	法 規 制	全域が水質環境基準（海域A類型）の指定を受けている。			
	海 域 利 用	全域に共同漁業権第10号が設定されている。一部に区画漁業権第7号（ガサミ）がある。 中城湾港港湾区域（重要港湾、県管理）がある。			
	海岸線利用	佐敷マリーナがある。			
その他	河 川 海岸線形態	1河川流入している。			
	景 観 眺 望 点				
特 記 事 項					
	生サンゴの被度は未調査のため不明である。				

図 面 番 号		2 6	圏域区分番号	1 0	
保全性分級区分名		自然環境の保全を図る区域			
沿岸域市町村名		与那原町、佐敷町			
海 域 区 分 情 報		与那原小学校地先海岸から新開埋立地南側護岸			
自然環境	地形・地質	海底地形分類は、沿岸部はサンゴ礁地形、沖合は平坦面であり、その間は緩斜面である。 海底地質分類は、泥、砂である。			
	藻場・干潟 サ ン ゴ 礁				
	動 物	トカゲハゼ、トビハゼ、オキナワアナジャコ、シオマネキの生息推定域である。			
	植 物				
	そ の 他				
社会環境	法 規 制	全域が水質環境基準（海域 A 類型）の指定を受けている。			
	海 域 利 用	全域に共同漁業権第 1 0 号が設定されている。一部に特別区画漁業権第 1 3 3 号（魚類小割式）が設定されている。 中城湾港港湾区域（重要港湾、県管理）、当添漁港漁港区域（第一種漁港、県管理）がある。			
	海岸線利用				
その他	河 川 海岸線形態	1 河川流入している。 海岸線は、堤防である。			
	景 観 眺 望 点				
特 記 事 項					
	生サンゴの被度は未調査のため不明である。				

図 面 番 号		2 6	圏域区分番号	1 1	
保全性分級区分名		自然環境の保全を図る区域			
沿岸域市町村名		佐敷町			
海 域 区 分 情 報		新開埋立地南側護岸から仲伊保北西海岸の沖合い海域			
自然環境	地形・地質	海底地形分類は、概ね緩傾斜であり、一部にサンゴ礁地形がある。 北部に平坦面がある。 海底地質分類は、概ね泥であり、一部にさんごがある。			
	藻場・干潟 サ ン ゴ 礁				
	動 物	トカゲハゼ、トビハゼ、オキナワアナジャコ、シオマネキの生息 推定域である。			
	植 物				
	そ の 他				
社会環境	法 規 制	全域が水質環境基準（海域 A 類型）の指定を受けている。			
	海 域 利 用	全域に共同漁業県第 1 0 号が設定されている。一部に特別区画漁 業権第 1 2 8 号（魚類小割式）が設定されている。 中城湾港港湾区域（重要港湾、県管理）がある。			
	海岸線利用				
その他	河 川 海岸線形態				
	景 観 眺 望 観 点				
特 記 事 項					
	生サンゴの被度は未調査のため不明である。				

1.6 観光

(1) 沖縄の文化と心のふる里

南城市は、神の島久高島、世界遺産である「斎場御嶽（せーふあうたき）」をはじめ深い歴史を刻んだ多くの「グスク」、東御廻りの文化遺産など貴重な歴史・文化史跡が残されている。また、多くの伝統的な芸能、民俗は学術的にも貴重であり、沖縄の歴史、文化、信仰の原点の地であり、緑豊かな自然環境に囲まれ、離島である久高島は、神の島、琉球民族発祥の地として崇敬されている。



せーふあうたき

表 1.8 入り込み観光客数（10 万人以上）

施設名	H18 年間利用客数
おきなわワールド 文化王国・玉泉洞	1 3 0 . 0 万人
緑の館セーファ	1 6 . 7 万人
南部観光総合案内 センター（糸数壕）	1 3 . 8 万人
軽便駅かりゆし市	2 5 . 0 万人
あざまサンサンビーチ	1 4 . 1 万人
新原ビーチ	2 0 . 0 万人
カフェくるくま	1 3 . 0 万人
合計	2 3 2 . 6 万人

資料：南城市観光文化振興課

(2) 豊富な観光資源

美しい海岸景観や貴重なさんご礁の海を持つ臨海地域にはあざまサンサンビーチ、新原ビーチ、知念岬公園などが点在。また、シュガーホールや玉泉洞、糸数アブチラガマ、ウェルサンピア沖縄のほか、眺望に優れた洒落たカフェや喫茶店も多く、観光資源にも恵まれており、さらに、市民の温厚で飾らない気質は、親切で親しみやすい人情を生み、国内外との交流を促進する上で大きな魅力となっている。



資料：南城市ホームページ

(3) 「いやしと健康」のまちづくり

市では現在、恵まれた地域資源、人々のネットワークを活かし、「いやしと健康」をテーマに、南城市ならではの体験滞在交流型の観光振興と健康づくり事業に取り組んでいる。地域の特色、市の魅力を積極的に情報発信しつつ、人の流れを呼び込み、南城市応援団を全国各地、海外に広げながら、郷土を愛する市民と協働して、「日本一元気な魅力ある南城市づくり」に邁進しているところである。

(4) 地域のイベント



【1月】南城市新春マラソン



【1月】視覚障害者マラソン沖縄大会



【2月】東御廻り国際ジョイアスロンIN南城



【3月】あざまさんさんビーチ海びらき



【6月】奥武島海神祭



【9月】青年芸能フェスタIN南城



【11月】尚巴志ハーフマラソンIN南城市



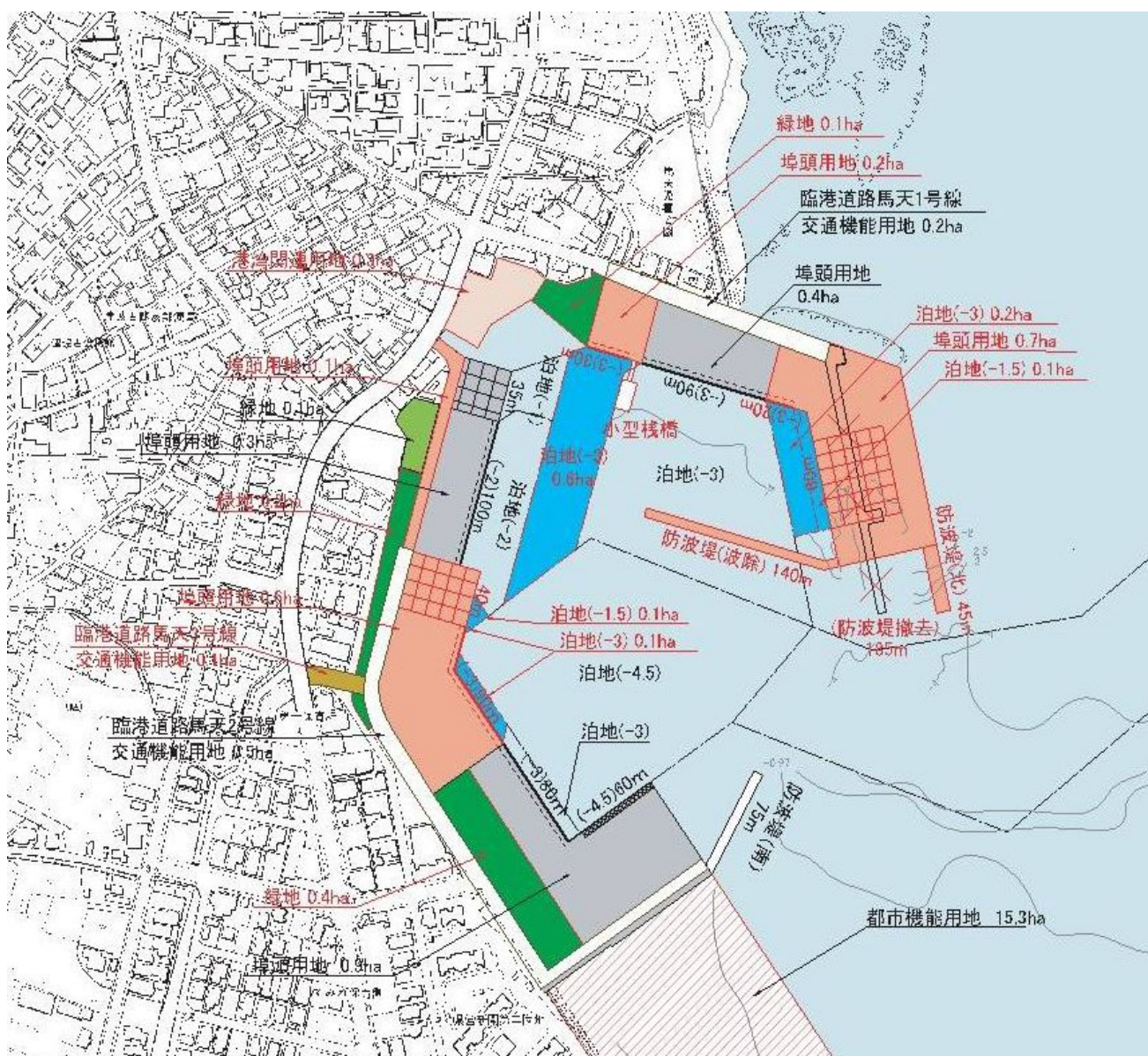
【12月】うふざとヌムーチャーさいIN南城

1.7 港湾の利用現況

馬天港は、現状では、漁船及びP B等の利用と作業船等の碇泊港として利用されており、利用船舶に関する正確な統計データは不明である。

過去には久高島等の離島航路の港湾として、また、東海岸の港湾工事等のために本島南部地域で算出された碎石の積出港として機能した時代も有った。現在は、それらの利用もなく、ストックとして有効活用することが望まれている。

【港湾計画】 馬天地区港湾計画図



沖縄県土木建築部港湾課より

■ 港湾の利用現況

現況の港湾利用は下図の通りである

①



②



③



馬天港背後圏は、商店等が点在する住宅地である。みなとと市民との係わりは、さほど密接でないと推察される。



第2章 対象地域の上位計画における位置づけ

2.1 「地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な構想」（平成19年12月）

平成19年12月に発表された「地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な構想」は、沖縄県の地域活性化のあり方の方向性を示すものである。この考え方は、地域資源を活用した地域産業のイノベーションと観光を結びつけるための観光まちづくりをリンクさせ、地域経済の活性化をはかるというものである。

中小企業主体の地域経済のイノベーション

産学の連携、地域資源の活用と活用を図る企業の支援

観光まちづくり

県のリーディング産業である観光及び観光関連産業

地域経済の
活性化

■基本認識

「地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な構想」（平成19年12月 沖縄県）は、県内産業の現況を、第2次産業は低く（全国27.9%、県12.7%）、第3次産業が高い（全国74.6%、県89.5%）のが特徴で有ると同時に、県内企業に従事する者のうち約90%が中小企業の従業者であり、それらの企業も、従業員19人以下の中小零細企業が全体の約93%となっている。したがって、本県の地域経済活性化並びに自立型経済の構築においては、これら企業の取り組みを支援し活性化することが極めて重要であるとしている。

■地域産業資源活用に応じた考え方

本県観光は順調に推移し、観光関連産業は沖縄県のリーディング産業であり、他の産業への波及効果が高いことから、地域産業資源を活用した魅力ある観光地づくりを行うとともに、観光土産品の商品開発、県産食材の活用促進など、産業間の連携強化の取組を進めているところである。

（中間・・・略・・・）

今後、更に地域経済の活性化・自立化を図るためには、地元・企業等が中心となって様々な地域産業資源を活用し、創意ある事業展開や新規事業・役務の創出を促進し、地域イノベーションの創出や魅力ある地域づくりを目指していく必要がある。

観光産業においては、質の高い沖縄観光の実現に向け、優位性のある地域産業資源を活用した魅力ある観光まちづくりの取組を進めるため、付加価値の高い観光プログラムの開発、ガイド、コーディネーター及びマネージャー等の観光人材の育成、プログラム実施に必要な環境整備などが必要である。

(中間・・・略・・・)

なお、民間主導による地域活性化・自立経済を構築するためには、将来的にこれらの取組を業界団体等が自らの力で行えるような体制を整えることも必要である。

さらに、大学、試験研究機関等や沖縄 TLO の活用によって産学官連携を促進することにより、まだ掘り起こされていない生物・海洋資源等の新たな地域産業資源の発掘を進めるとともに、産業クラスターの更なる拡大やイノベーション創出促進、そしてアジア交流拠点の構築へ繋がる取組へ広げていく。以上のように、地域産業資源を積極的に活用することにより、新事業創出及び既存産業の振興等による雇用が創出され、失業率の改善に寄与するよう、沖縄県では地元中小企業及び関係組合団体・関係行政機関等との協力の下、地域産業資源の活用を進めて行く。

■地域産業資源を用いて行う地域産業資源活用事業を促進することにより、当該地域産業資源に係る地域の経済の活性化を促進する方策

1. 地域産業資源に係る地域の経済の活性化を促進する方策

(1) 地域産業資源の活用を促進するための措置等

- ① 地域産業資源としての有効価値の再認識（新しい地域産業資源の掘り起こし）
- ② 地域産業資源及び地域産業資源活用事業に係る情報や知識の蓄積・共有化
- ③ 地域の主体となるリーダーや事業者を支援育成するマネージャーの育成
- ④ 地域産業資源を活用した調査・研究開発の成果を着実に事業化・製品化へつなげるための支援
- ⑤ 学官連携・産業クラスター形成促進や県内外のネットワークの構築
- ⑥ 地域産業資源を核としたブランド戦略の構築（地域自体や商品・サービスのブランド化促進）及び情報の送受信、並びに情報発信力の向上
- ⑦ 地域産業資源を総合的に活用した観光まちづくり（推進組織の立ち上げ、資源価値の向上、生活環境との調和、来訪者の満足度確保のための取り組み）に対する支援

(2) 既存計画等との連携

- ① 沖縄県観光振興計画
- ② 外客来訪促進計画
- ③ 沖縄県農林水産業振興計画
- ④ 沖縄県産業振興計画
- ⑤ 新沖縄県離島振興計画

2. 現在取り組んでいる施策の状況

(1) 個別地域産業資源に関する施策

《農林水産関連》

- ① グリーン・ツーリズム総合支援事業
- ② モズク安定供給等対策事業
- ③ 養殖魚ブランド化支援事業
- ④ おきなわブランド豚作出事業

- ⑤ うちなー島ヤサイ振興対策事業
- ⑥ さとうきび総合利用実証事業
- ⑦ 森林ツーリズム推進事業

《鉱工業関連》

- ① 中小企業新事業総合支援事業（地域資源発掘支援事業）
- ② 工芸品宣伝普及事業
- ③ バイオベンチャー企業研究開発支援事業
- ④ 沖縄イノベーション創出事業

《観光および複合施策》

- ① 観光まちづくり支援事業
- ② 沖縄における環境保全型観光促進モデル事業
- ③ 離島地域資源活用・産業育成事業（一島一物語事業）
- ④ 沖縄離島振興特別対策事業

（２）関連する施策

本県においては、中小企業の新たな事業活動促進のため「沖縄県事業環境整備構想」を策定している。また、現在、知的財産戦略の制定に向けて部局横断的な取組を進めており、地域ブランド化に資する資源の活用についても積極的に進めていくこととしている。

なお、県内経済の活性化を図るため、以下の中小企業支援施策を実施している。

- ① 融面での支援
- ② 経営指導の強化
- ③ 経営革新の促進
- ④ 企業連携の推進
- ⑤ 技術支援（産学官連携による研究開発支援等）
- ⑥ IT化支援
- ⑦ 人材確保・育成支援
- ⑧ 中小企業の経営資源確保のための総合的支援

＜中小企業地域資源活用プログラム概要＞

経済産業省では、総務省、財務省、厚生労働省、農林水産省及び国土交通省との６省連携のもと、各地域の強みとなり得る地域資源を活用した新商品や新サービスの開発、市場化を促進し、売れる商品づくりや地域発のブランド構築を総合的に支援する「中小企業地域資源活用プログラム」を平成１９年度からスタートしている。

本プログラムでは、地域の特徴ある地域資源を①産地の技術（鉱工業品及びその製造技術）、②農林水産物、③観光資源の３類型に分け、これらを活かした自立的・持続的な成長、それを核とした地域資源の価値向上（ブランド化など）、地域の強みを活かした産業の形成・強化などに資する地域経済の主体である中小企業の創意ある取組を支援することとしている。具体的には、中小企業者が地域資源を活用して行う新商品・新サービスの開発に対する市場調査、商品企画・開発・事業化、販路開拓に必要なノウハウや人的ネットワーク、資金、人材の確保などのサポートを関係省とも連携して総合的に支援していくもの。

今後、地域資源を活用した地域産業発展の核となる新事業を日本全国で年間で200件、5年間で1,000件創出することを目標に掲げ、それぞれの地域に存在する原石を宝石まで磨き上げ、地域経済を元気にすることを目指している。

★中小企業地域資源活用促進法の概要～新法による支援のポイント～

- 地域の「強み」となる地域資源を地域主導で掘り起こす取組を支援
- マーケティング、ブランド戦略に精通した人材・仕掛け人との連携をサポート
- 産学官連携、農工連携など、従来の垣根を越えて地域の力を結集
- 首都圏など大都市、さらには海外市場を視野に入れた取組を支援
- 関係6省（総務省、財務省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省）の協力体制を整備

2.2 「沖縄観光振興基本計画」

「沖縄観光振興基本計画」(平成14年5月)は、平成23年を目標とした沖縄の観光振興について計画したものであり、南城市がある南部地域は次のように位置づけられている。

テーマ：「健康、長寿や歴史文化を活用した観光体験と農林水産業の拠点」

目 標：体験・滞在型交流拠点の形成

■南部圏

(地域特性)

知念から糸満に至る南部海岸地域は、美しい海岸景観に恵まれており、その一部は沖縄戦跡国定公園に指定されている。地域内は平和祈念公園や御獄等の歴史文化遺跡、サボテン公園、玉泉洞、スポーツ・レクリエーション施設等多様な観光・リゾート関連施設が分布しており、代表的な周遊型観光地となっている。玉泉洞一帯が「前川地域」観光振興地域であるほか、知念村の人工ビーチや与那原町、豊見城村の埋立地の一部は、観光・リゾートへの活用が計画されている。また、浦添市には、現在「国立劇場おきなわ」が整備中である。

周辺には慶良間諸島をはじめ、久米島、渡名喜島、粟国島、南・北大東島等特徴ある島々が存在する。慶良間海岸は沖縄海岸国定公園に指定されており、変化に富んだ海岸景観や島々の織りなす美しい景観を有する。久米島は県立自然公園にも指定され、本県を代表する海浜リゾートとしてその歴史は長く、宿泊滞在施設の集積と景観的にも優れたビーチ資源を有する。その他の離島も自然豊かであり、各々が特徴的な島嶼景観を有する。

(地域の基本方向)

南部圏は、地域が持つ特性を活かした「健康、長寿や歴史文化を活用した観光体験と農林水産業の拠点」をテーマに、従来の周遊観光拠点だけでなく体験・滞在型交流拠点をめざす。

南部圏においては、健康、長寿をテーマにした体験・滞在型観光拠点の形成を図り、日帰り型利用から宿泊滞在型利用への拡大を目指すとともに、農林水産業の生産拠点として観光・リゾートとの連携を促進する。

また、地域が持つ歴史文化遺跡を活用し、グスク群を結ぶ琉球歴史観光ルートの開発整備をすすめるとともに、平和祈念公園、平和の礎を中心とした歴史体験平和学習の拠点形成を図る。

さらに、那覇都市圏を含めた糸満市から浦添市までの一帯については、空港、港湾等の施設と連携したショッピング施設や海洋レクリエーション施設等の整備を促進し、エンターテインメント性の高いコスタル・リゾートの形成を図る。

周辺離島においては、ダイビング等のマリンスポーツの一層の活性化を図るとともに、海岸景観等の豊かな自然環境を活かしたグリーンツーリズム、ブルーツーリズム等の体験・滞在型観光に取り組み、受入体制、受入プログラムの整備を進める。さらに、観光客のニーズに応じた離島間の周遊観光の利便性の向上に努める。

沖縄県観光振興基本計画骨子

I 沖縄観光の現状と課題

1 背景 (1) 国民生活の余暇と動向 (2) 沖縄観光・リゾートの現状 (3) 沖縄観光・リゾートの特性 (4) 沖縄観光・リゾートの重要性	2 課題 (1) 変化する旅行形態への対応課題 (2) 新たな旅行受入に向けた整備課題
---	---



II 計画の基本的考え方

(1) 計画策定の意義 (2) 計画の性格 (3) 計画の目標 国際的な海洋性リゾート地の形成や健康保養、体験滞在型観光、コンベンション等の多様なニーズに対応した質の高い滞在型観光・リゾート地の形成	(4) 計画の期間 平成14年度～平成23年度 (5) 目標フレーム ①入域観光客数 650万人 ②観光客一人あたり県内消費額 109,000円
--	--



III 計画の基本方向

(1) 基本姿勢 ①自立化に向けた地域主体の観光振興 ②豊かな資源との共存、新たな資源の発見と活用 (2) 基本方向 ①多様なニーズに対応した質の高い滞在型観光・リゾートづくり ②人、環境に優しいホスピタリティあふれる受入体制づくり ③国際的に通用する美しく快適な観光・リゾートづくり ④アジア・太平洋地域を中心とした国際観光の振興、コンベンションの推進 ⑤地域経済活性化の牽引力となる観光・リゾート産業の育成	
---	--



IV 施策の展開

(1) 発展を遂げてきた沖縄観光のさらなる充実、強化 ①宿泊収容力の拡充と宿泊施設の多様化 ②観光行動の多様化に対応した交通体系の整備 ③観光資源・施設等の魅力の充実、強化 (2) 新たな沖縄観光の魅力づくり ①コンベンションの推進 ②体験・滞在型観光の推進 ③リゾート滞在の推進 (3) リーディング産業としての成長 ①総合産業としての体制づくり ②域内経済効果の向上	④美しい観光・リゾート景観の再生・創出 ⑤観光・リゾート産業に対する理解と意識の向上 ④国際観光の推進 ⑤多様なエンターテインメントづくりの推進 ⑥戦略的な誘致活動の強化 ③観光・リゾート産業における人材育成
---	---

V 圏域別の基本方向

1 沖縄本島／(1) 那覇都市圏 ゲートウェイ・観光都市としてのビジネス・コンベンション・観光リゾートの中心地 1 沖縄本島／(2) 南部圏 健康、長寿や歴史文化を活用した観光体験と農林水産業の拠点 1 沖縄本島／(3) 中部圏 コンベンション都市、長期滞在型交流都市としての都市機能再整備、国際交流拠点形成	1 沖縄本島／(4) 北部圏 沖縄を代表する西海岸リゾート拠点と体験・滞在型観光の強化 2 宮古圏 スポーツ・ウェルネスアイランド 宮古 3 八重山圏 自然や歴史文化環境を活用したエコツーリズム等体験・滞在型観光の推進
---	--

VI 実現化に向けて

(1) 県民の役割 ①思いやりとおもてなし ②観光・リゾート産業への理解 ③「美ら島」づくりへの取り組み (2) 観光・リゾート業界の役割 ①受入体制の整備、顧客サービスの向上 ②人材の育成、確保 ③地域と一体となった観光・リゾートづくり	(3) 市町村の役割 ①地域資源の保全と育成 ②観光関連施設の整備 ③個性を活かした誘客活動の実施 (4) 県の役割 ①県民、観光・リゾート関連産業従事者、市町村の主体的取り組みの支援 ②本県全体の観光・リゾート振興 ③国との連携及び全庁的な連携
--	--

資料：県観光企画課「観光要覧平成18年版」

観光振興計画骨子

観光振興計画作成の基本的考え方

1. 計画の意義・性格
 - (1) 沖縄振興計画に基づき、「多様なニーズに対応した通年・滞在型の質の高い観光・リゾート地の形成」の実現に向けた観光振興施策の基本方向及び具体的施策を定め、国や市町村、関係団体、観光業界との連携により諸施策を戦略的かつ重点的に推進しようとするもの
 - (2) 沖振法第6条に基づく観光の振興に関する計画で、沖縄振興計画における観光・リゾート振興施策の短期の具体的な実施計画
 - (3) 第1次計画(計画期間 平成14年度～平成16年度)の実績や課題を踏まえて、第2次計画(計画期間 平成17年度～平成19年度)を作成
2. 計画の期間
 - (1) 第1次計画 平成14年度～平成16年度(3カ年)
 - (2) 第2次計画 平成17年度～平成19年度(3カ年)
3. 計画の目標
 計画の進捗状況や施策効果等を踏まえ、適切なフォローアップを実施するため、各施策の目標値となる基本的な指標を設定

第2次沖縄県観光振興計画の骨子 (計画期間：平成17年度～19年度)

◆ 沖縄観光の現状と課題

1 入域観光客数 ○好調に推移 H13: 443万人→H16: 515万人(+16%) ○外国人観光客は減少(同20万人→同13万人) 2 観光消費額 ○観光客の県内消費額は減少。H15からやや回復へ H13: 8.5千円 → H16: 7.4千円(見込み) 3 その他 ○リピーター比率の増加(H12: 5.2%→H15: 6.2%) ○レンタカー利用者の増加(H15: 4.1、5%)	1 質の高い沖縄観光の実現 ○付加価値の高い旅行商品の開発・提供 ○地域総体としての魅力の向上 ○コンベンションの誘致強化 2 国際観光の推進 ○誘客・宣伝の強化及び旅行商品の開発 ○受入体制の整備 3 オフシーズン対策の強化 ○イベントの開発、中学校修学旅行の誘致等
---	---

◆ 観光振興の基本方向と施策の展開

【新】＝計画に新たに位置づけた施策

1 国際的海洋性リゾート地の形成 (1) 観光地の魅力の増進 ○観光振興地域及び周辺地域の整備 ○観光・リゾート拠点の創出と新たな展開等 (2) 観光客の移動の円滑化 ○国内外航空路線網の拡充 ○航空運賃の引き下げに係る措置の活用等 (3) 公共施設の整備 ○良好な景観の形成 ○道路、都市公園の整備 ○那覇空港、那覇空港、港湾の整備 ○クルーズ観光の推進等	◆ 観光振興地域の指定(現14地域→18地域) 【新規】 ・金武湾海洋性リゾート地域 ・エアウェイリゾート豊見城地域 ・平久保・野底地域 【拡充】 ・那覇中心市街地・新都心地域 ・宮古島南岸・重平安名リゾート地域 (4) 自然観光資源の保全・活用【新】 ○赤土等流出防止対策の推進 ○多様な野生生物が共生・育成する環境の保全【新】 ○自然公園区域の管理・拡張【新】
2 国民の総合的な健康保養の場の形成と体験・滞在型観光の推進 (1) 健康保養型観光の推進 ○健康保養型観光の推進 ○森林療法(セラピー)の推進【新】等 (2) エコツーリズムの推進 ○エコツーリズムの推進 ○自然体験活動指導者の育成等 (3) グリーンツーリズム等の推進 ○農林漁業体験施設の整備 ○都市・農山漁村交流の推進と人材育成 ○森林体験の推進 (4) 文化交流型観光の推進 ○世界遺産及びその周辺整備 ○沖縄空手交流の推進【新】等 (5) 体験滞在・交流の推進 ○滞在・参加型観光の促進 ○離島観光の推進(沖縄離島地域の情報発信【新】)	4 国内外の観光客受入体制の整備と誘客活動の強化 (1) 観光客受入体制の強化 ○観光人材の育成 ○沖縄観光の情報発信 ○映画等ロケーション受入体制の整備 ○多様なエンターテインメントの創出 ○県民ホスピタリティの向上 ○台風時等の観光客への対応 ○観光統計の充実強化(リピーター外国人調査【新】) ○レンタカー観光への対応 ○パリアフリーのやさしい観光地の形成 ○海外からの観光客の受入体制の整備等 (2) 沖縄の宣伝と観光客の来訪の促進 ○イベントの開催 ○誘客プロモーションの展開(国内、海外) (3) 観光の利便性の増進 ○公共交通船券の発行促進等
3 コンベンション・アイランドの形成 (1) コンベンションの誘致等 ○コンベンション誘致の推進 ○スポーツコンベンションの振興 ○米州開発銀行等年次総会の開催 (2) コンベンション機能及び受入体制の充実 ○コンベンション施設の整備 ○同時通訳者等の育成及び派遣	5 産業間の連携の強化 (1) 沖縄土産品の魅力向上 ○観光土産品のブランド化とマーケティングの強化 ○観光土産品の内容表示の適正化 (2) 県産食材の安定供給体制の強化 ○県産食材の安定供給体制の強化 (3) 観光関連サービス業の育成と連携の強化 ○観光と健康関連サービス業の連携強化等

質の高い沖縄観光の実現

H19目標：入域観光客数 580万人、観光収入 4,800億円

資料：県観光企画課「観光要覧平成18年版」

第3章 観光客・来港者のニーズの把握

3.1 地域のニーズ

地元の人々からは、昔日の馬天港のみなとまちとしての賑わいと景観を取り戻し、地域の活性化を図ることが強く望まれている。

その内容は、

- ・ まちの景観作り
- ・ まちの産物の活用
- ・ 体験型の海のプログラム
- ・ 遊覧船等の運航

等多彩である。

検討会での意見

【まちづくり】

- ・ 馬天港通りのむかしの町並作り、砂利道などにしてみても（復元）
- ・ レトロな街作り
- ・ 馬天港独自の雰囲気、他の地域との差別化
- ・ 南部地域での地理的に位置もよいが、ただの通過点になっている。

【味】

- ・ 海の幸を堪能してもらう
- ・ 海の駅のような、さしみ・天ぷらなど、海産物が集まる街並みになって欲しい。
- ・ （天然の）海水を使った豆腐作りを企画しているグループもある。

【体験型プログラム】

- ・ シーカヤックも素直に体験したい。
- ・ 漕ぐだけの（競争ではない）ハーリー体験をしたいと思っている人も多い
- ・ サバニレース
- ・ 手作りイカダレース
- ・ ハーリーやサバニを使って、久高島まで行ってみる
- ・ 流木を使った工作など、地元「木工芸職人」の体験教室
- ・ 商工会青年部で企画したハーリー大会における「手作りイカダレース」もよい
- ・ 南城市体験プログラム
- ・ 過去にあった地引き網の体験なども老若男女が一体感で楽しめる。

【遊覧船】

- ・ 西原祭りや、中城祭りなどの花火を見る遊覧船（の出港拠点）
- ・ やかた船

3.2 観光客のニーズ

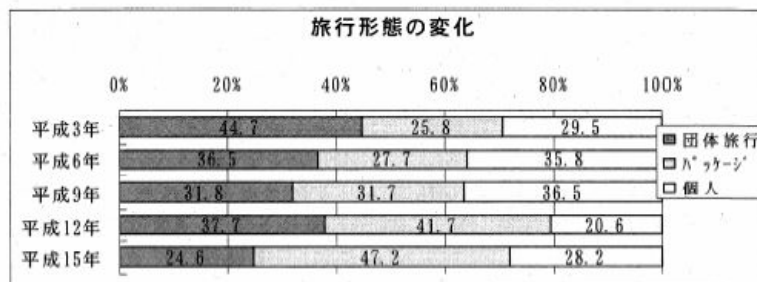
本島南部地域の観光客は、戦跡訪問を含めた周遊観光地域が中心である。しかし、最近の観光客の動向は、

- ・従来のパック旅行でもフリープラン型のように個人にあわせた旅行スタイル
- ・「見る」観光から、「参加・体験」する観光
- ・エコツーリズム、グリーンツーリズム等の新しい旅行スタイル
- ・世界遺産ツアーや健康増進旅行等の目的を特定した旅行

となっており、多様なプログラムの展開と同時に地域の観光地域としての質の向上が求められている。

： 旅行形態

○団体旅行	24.6% (H12=37.7%)
○パッケージ旅行	47.2% (同41.7%)
・観光付きパック旅行	9.4% (同13.3%)
・フリープラン型パック旅行	37.8% (同28.4%)
○個人旅行	28.2% (同20.6%)



①観光地巡り	72.1% (H12=73.7%)
②ショッピング	44.4% (同33.0%)
③海水浴・マリレジャー	34.1% (同45.6%)
④保養・休養	17.6% (同22.2%)
⑤戦跡地参拝	16.3% (同19.8%)

旅行内容別シェアの変化

	昭和58年	昭和62年	平成3年	平成6年	平成9年	平成12年	平成15年
周遊観光性活動	59.5	53.3	42.5	42.5	39.3	93.5	88.4
観光地めぐり	46.8	42.8	38.7	38.8	35.6	73.7	72.1
戦跡地参拝	12.7	10.5	3.8	3.7	3.7	19.8	16.3
保養・海浜レク活動	14.8	20.0	27.3	25.1	27.6	77.1	60.4
海水浴等	12.8	17.0	9.9	8.9	9.1	45.6	34.1
ダイビング	-	-	2.8	3.0	4.1	9.3	8.7
マリレジャー	-	-	6.5	5.4	5.4	-	-
保養・休養	2.0	3.1	8.1	7.8	8.9	22.2	17.6
レクリエーション活動	1.8	3.2	4.6	5.1	4.9	8.5	6.5
ゴルフ	0.8	1.8	3.4	3.7	3.2	4.8	4.1
釣り	0.6	1.0	1.0	1.2	1.4	2.9	1.7
キャンプ	0.4	0.4	0.2	0.2	0.3	0.8	0.7
その他活動	23.9	23.4	25.6	27.1	28.2	71.5	82.7
その他	12.7	10.1	1.7	3.6	4.2	3.9	8.9
ショッピング	7.6	8.3	8.8	7.7	7.1	33.0	44.4
会議出席	2.7	3.9	1.4	1.7	2.3	9.8	6.6
行祭事見学	0.9	1.2	0.5	0.5	0.8	4.0	4.0
研修	-	0.0	3.0	3.6	3.0	-	-
仕事	-	-	5.1	4.2	4.4	8.0	11.0
スポーツ大会	-	-	0.4	1.3	1.1	1.8	1.5
親戚訪問	-	-	4.6	4.5	5.3	11.0	6.3

注：平成9年までは重複回答を旅行内容選択の合計を母数とするパーセンテージに修正、平成12年以降は複数回答

■沖縄観光の課題

① 質の高い沖縄観光の実現 [付加価値を高める]

ア 付加価値の高い旅行商品の開発・提供

- ・ 地域資源や特性を活用した体験・滞在型観光の推進
- ・ 観光資源の発掘・創出、旅行商品・プログラムの開発
- ・ 効果的な誘客プロモーションの展開
- ・ 離島観光の活性化等

イ 地域総体としての魅力の向上

- ・ 受入体制の整備
- ・ 観光インフラの整備（ハード・ソフト）
- ・ 自然環境の保全・再生
- ・ 観光・リゾート地にふさわしい良好な景観の形成
- ・ 産業間連携の強化

ウ コンベンションの誘致強化

- ・ 国際会議、企業インセンティブツアー及びスポーツコンベンションの誘致強化と受入体制の整備
- ・ コンベンション関連施設の拡充、アフターコンベンション対策の強化等

② 国際観光の推進 [国際化を進める]

ア 誘客・宣伝の強化及び旅行商品の開発

- ・ 海外における誘客・宣伝の強化
- ・ 外国人向け旅行商品開発の促進等

イ 受入体制の整備

- ・ 外国語が堪能な人材の利活用の促進、公共交通機関等における外国語表記の充実、国際航空路線網の拡充、国際線旅客ターミナルの整備等

③ オフシーズン対策の強化 [観光ボトム期の底上げ]

- ・ イベントの開発
- ・ 中学生修学旅行の誘致強化
- ・ リゾートウエディングの展開等

資料：県観光企画課「観光要覧 平成18年版」

第4章 地域の課題と目標の設定

地域の課題：観光産業の展開を可能とする“みなとまち”の再生

- ・地域の新たな産業として観光産業及び観光関連産業を興し、地域の産業構造の転換を図る。
 - ・1次産業と結び付いた3次産業（観光産業）の展開
 - ・多くの来訪者を呼び込むまちの景観とサービス（体験型プログラム）の提供
- 第一段階

地元の人々の交流を中心に、定期的なみなとまつのイベント等の開催

第二段階

目標の設定：30人の雇用創出（第一段階のみなとまちづくりの目標）

自立した地域形成には、地域に元気な企業が有ることが不可欠である。沖縄県では、地域経済の活性化・自立化を図るために、地域資源を活用した生産品と地域の観光業を結びつけることにより、地域経済の活性化を図る方針を示している。

対象地域である馬天港周辺は、一次産業比率が高い地域であり、海の幸も豊富な所である。また、過去のみなとまちとして賑わったまちとしての歴史がある。したがって、馬天港をストックとして活用した地域の活性化が、地域の人々の要望であると同時に課題でもある。

このような課題に対し、具体的な目標設定が必要であり、今回の目標は、最終的に地域経済の振興であり、それは就業者の増加という形で表される。表4.1は、南城市の労働人口及び完全失業率を整理したものである。表から理解されるように観光先進地域の恩納村の完全失業率は7.8%と低いことが解る。ホテル等多数の雇用を可能とする観光産業による就業者の吸収力が、佐敷地区との差となっていると推定される。

馬天港における観光リゾート産業は、長期目標として恩納村並の完全失業率の実現を目指すことが望まれるが、ホテル等の装置型産業には莫大な投資と整備・運営する時間が必要であり、その資金の回収にも20年以上必要である。

今回の馬天港の整備目標は5年程度の短期目標である事、投下資本が不確定なことを考えると、馬天港で新たに興される事業の目標としては、年月の割引分を四分の一投下資本の割引分を二分の一と考え、恩納村との完全失業率の差の八分の一を埋める事が目標として設定される。

目標：恩納村との完全失業率の差の八分の一の解消

$$(12.0 - 7.8) / 8 = 0.525\%$$

$$5564 \text{ 人} \times 0.525\% = 29.2 \text{ 人} \rightarrow 30 \text{ 人}$$

表 1.5.2 より、佐敷町の製造業の一人平均給与：200 万円／人
観光業の原価率 30%

事業実施時の目標売上げ：200 万円／人×30 人÷0.3＝2 億円

表4.1 平成17年南城市の労働人口と失業率

市町村	総数 1)	労働力人口			非労働力 人口	労働力率 (%)	非労働力 率 (%)	完全失業 率 (%)
		総数	就業者	完全失業 者				
玉 城 村	8,719	5,147	4,673	474	3,450	59.0%	39.6%	9.2%
知 念 村	5,214	2,787	2,254	533	2,423	53.5%	46.5%	19.1%
佐 敷 町	9,487	5,564	4,896	668	3,857	58.6%	40.7%	12.0%
大 里 村	9,522	5,828	5,357	471	3,646	61.2%	38.3%	8.1%
南城市	32,942	19,326	17,180	2,146	13,376	58.7%	40.6%	11.1%
県 計	1,106,943	635,849	560,477	75,372	422,417	57.4%	38.2%	11.9%
恩 納 村	8,074	5,044	4,652	392	2,712	62.5%	33.6%	7.8%

資料：17年国勢調査

第5章 新しい観光形態の仕組みの検討

馬天港は、地域の産業拠点として、また離島航路港湾としての歴史を持つ港湾である。現在でも、漁業や石材の積出港、作業船基地として利用されている。しかし、港湾としての昔日の賑わいはない。したがって、馬天港において新しい観光形態を考えると、その基本は

“ 持てる港湾のストックを活かし、交流体験型観光の仕組みを創造する。”

ことが必定である。“馬天港”を拠点とする観光産業を育成し、併せて、みなとを中心としたまちづくりを進めることにより、みなとに、往年の賑わいを取り戻すことが、地域の大きなテーマとなっており、そのためのテーマづくり、道づくり、空間づくりが提案される。

地域の活性化の基本は、地域資源を生かした産業を活性化することであり、その第一歩として、地域のストックである港を利活用した、新しい観光産業の形態・仕組みを検討しなければならない。また、その仕組みとして交流型体験プログラムが提起されていることから、地域の人々が参加できる形で、交流型体験プログラムを活用した仕組みを検討する。

なお、プログラムは、

- ① 自然環境：自然観察や漁業体験
- ② スポーツ：セーリング、シーカヤック、スキューバダイビング等
- ③ シュガーホールでのイベント

等を基本的な項目として検討する。

特に交流型体験プログラムについて、施設利用、シーズン等の条件、住民参加のあり方対外的なキャンペーンなどの方法を検討する。

■ 観光産業の有り方

観光産業の育成のためには、従来の物見遊山的な観光業と基本的に質の異なった観光の展開が求められており、行政・企業だけでなく、地域の人々が主人公となり、観光客等の来訪者と積極的に交流する多種多様なサービスを提供することが必要となっている。このような交流型の観光事業を、地域として、また、事業としてどのように取り組んでいくかが大きな課題である。

当然このような交流型観光事業の展開は、地域のストックと地域の文化、名所、特産物等を活用し、多種多様なサービスを提供することになる。例えば、特産物や地域野菜の直販場を始めとして、各種工房、博物館等、持てる地域の観光資源と体験型のプログラムを、地域の人々の手によりテーマ化し売り出すことであり、その持続性が佐敷地区の活性化に結びつく。

“馬天港”を拠点とした人々の交流を、観光事業として展開するために考えなけれ

ばならないことは、地域の観光産業の振興が、観光地づくり＝地域形成＝“みなとまち”づくりと同意義であるということである。つまり、“馬天港”が、どのような観光拠点として再生されるかが重要となる。また、その延長線上に、馬天港を拠点とした観光地づくりが可能となる。

■ 馬天港を拠点とした観光地づくりの方法

したがって、このような「佐敷地区の観光地づくりの在り方」と「馬天港」の拠点性を結び着ける観光地づくりを進めるため、次のような手順に従って計画・実行していくことを提案する。

- ① 観光地としての“テーマづくり”
- ② 観光地としての“みちづくり”
- ③ 観光地としての“空間づくり”

【テーマづくり】海と遊ぶ交流型体験プログラム

馬天港を拠点とした佐敷地区の観光振興は、島・海・本島を結びつける活動拠点として馬天港を中心とした交流型プログラムを展開することである。それが、地域形成と結びついた観光地づくりとならなければならない。そのための課題として

- ・馬天港を拠点とした佐敷地区で集客し、半日もしくは1日の滞在の出来る観光地づくりを進めること（地域密着性）
- ・馬天港は、観光事業のための港湾ではない。したがって、この馬天港の在り方を、如何に観光業に結びつけるか
- ・多種多様な事業展開による地域の人々の参加と事業

が指摘される。そして、この課題に対処する地域の観光地づくりのテーマが、行政・各種団体・地元企業の実行可能な範囲と支援体制等を踏まえたうえで、地域の人々により、自分達が参加できる内容で考えられなければならない。

馬天港を拠点とする観光のテーマとして例えば、

- ① 神々の海の道　：久高島と“せーふあうたき”を結ぶ海の道
シーカヤック、サバニ、遊覧船
- ② 海のバードサンクチャリー：貴重な海の自然環境である砂嘴、築島を巡る海と陸の回遊路：シーカヤック、サバニ
- ③ リーフの海と魚たち：ダイビング、シュノーケリング
- ④ 海から訪れるビーチ遊び：安座間サンサンビーチとの連携
- ⑤ 満吃！海のレジャーコース　： 遊覧船、ジェットスキー
- ⑥ 佐敷湾の自然観察とサイクリング＆ウォーキング
- ⑦ 海に親しみ、海を味わうまち（テラス堤防とレストラン、浜茶屋）

等が提案される。

【みちづくり】自然環境と共生する海の道

次は、このテーマに沿った“みちづくり”である。みちづくりにはストーリーが必要である。①のテーマであれば、例えば、久高島から“せーふあうたき”にいたる伝説がストーリーとなる。そのストーリーを追いかける海の道、陸の道として

- ・馬天港から久高島までの海の道
- ・佐敷地区の歴史・文化財を訪ねる道

等が整備されることが必要となる。また、観光地のみちづくりの基本は、

- ・人々が安心してゆったりと過ごせる道
- ・歩くことと休むことが対になった道
- ・ドックタイムから普通の人間の時間に戻す道
- ・暑い日差しを避ける木陰の道であり古木と語り合う道
- ・訪問客が、地域に溶け込む楽しみのある道

であることであり、脱車社会をイメージする道として造られねばならない。

この時“馬天港”が、玄関として人々を迎え送り出す空間として活用されることになる。

また、久高島を訪れる人は、“馬天港”を出発及び到着地とするのである。大型バスもマイカーも“馬天港”の外側で駐車しなければならない。後の行動は、すべて馬天港からの出発となる。道は多様である。旅客船、カヌー、ローボート、クルーズ船、高速艇、徒歩、自転車、人力車、水牛車、往年の軌道馬車や軽便鉄道型など、ゆっくりと地域の観光を楽しめる多様な交通手段を利用し、テーマ・ストーリーに沿って遊ぶことになる。一種のパーク＆ライド＋プレイである。

テーマづくりに合わせたみちづくりが進められれば、佐敷地区の観光地づくりは、“馬天港”と結びつくことが可能となる。大型バスでの訪問客も、那覇等の近隣都市圏から訪れる人々も、“馬天港”を起点として、地域に密着した様々なテーマを楽しみ、狭い集落の道も安心して散策できる“みち”を楽しむことができる。そして、最後にその日に取れた魚や地場の野菜、特産品を、お土産として“馬天港”で購入する。

このような道は、地域の人々が自分の得意な分野を活かして、様々な形で観光地づくりに参加する“みち”でもある。訪問客は、漁業者、観光農園、野菜の直販場、焼物工房、手作りケーキの喫茶店等、様々なサービスを提供する地域の人々にたどりつき、そこに交流が生まれる“みち”なのである。

※沖縄本島西海岸のリゾート地域には、ホテルはあっても安心して歩けるストーリーがなく、ショッピングや食事をたのしむ地域・空間が限られた場所にしかない。

※東海岸では、海辺に古くからの集落があり、国道が内陸寄りに整備されている。

※がんじゅー駅、緑の館セーファ、海の館イノー等との連携も必要

【空間づくり】観光産業を育てる空間づくり

陸から海を眺めた沖縄の景観は、非常に美しい。しかし、海から陸を眺めた景観や、

道から町・村を眺めた空間は、景観的に評価されるものではない。ゴミの散乱だけでなく、雑然とした建設資材置場や廃墟等、そして、スカイラインを壊すゴルフ場や建築群。景観だけをとりえても観光地とはいえない。

現代の観光は、名所旧跡を訪れるだけでなく、まちなみや伝統産業等と結びついた地域を楽しむ観光が主流である。人々は、歴史の重みやノスタルジアを感じさせるまちなみを散策し、伝統産業を体験し、そこに住み続ける人が居ることに魅力を感じているのである。

南城市内、佐敷地区に、名所旧跡などがあっても、それと一体の“まち”がなければ、世界遺産を訪ねるだけの一過性の観光地となってしまう。

例えば、宮崎県綾町では照樹林の自然を保護し、地域の一次産業（自然生態系農業）と結びついた観光地として、人口約 10,000 人の村に年間 120 万人が訪れている。愛媛県内子町でも、地域住民が中心となり、大正時代につくられた芝居小屋の保存を中心としたまちなみ保存活動によるまちづくりを進めるとともに、“フレッシュパークからり”を整備し、内子町で生産される農作物だけに限定して販売する特産物直売所、農家のお母さんの味が楽しめる「あぐり亭」等の事業を行うことにより、年間 50 万人以上の観光客を集客している。

確かに戦争で全てを焼かれた沖縄では、残されたまちなみがある訳でない。しかし、みちづくりにあわせて、佐敷地区の歴史と文化を活かした空間づくりが進められ、人々に共感されるまちなみを創り出すことが必要である。

■ 求められるのは長期的な取組

「観光地づくりの手法」（（社）日本観光協会）では、観光地づくりの基本は、次の 7 つの視点を持つことが重要であるとしている。

- ◇ 地域域定着性
- ◇ 発展性
- ◇ 持続性
- ◇ 創造性
- ◇ 先駆性
- ◇ 国際性
- ◇ 景観性

である。しかし、このような 7 つの視点を同時にもちながら観光地づくりは進められるわけではない。日常的な取組みの方向性を、このような視点での評価し、その方向性が確認できれば、10 年、20 年後には、観光地として第 1 歩を歩みだしているであろう。つまり、観光地づくりは、地域の持続する意思、言い換えるならば、地域を引き継ぐ人が存在して成立つ事業である。そして、観光産業は、さほど古い産業ではない。特に沖縄では、地域定着型の観光は、これから取組まれる産業と考えられる。

地域のちいさな取組みでも、継続することで発展が生まれる。そのためには、ものづくりだけでなく、人づくりの視点で観光地づくりに取組むことが重要であろう。

空間づくりも、そこに住み続け、誇りを持てるまちづくりを進めることが重要である。空間づくりは、時間のかかる取組みでもある。しかし、道ができ、訪問者が来訪すれば、人々のまちづくりの意識も変わる。その出発点が、“馬天港”と佐敷の海を活用した観光地づくりであろう。

第6章 交流型体験プログラムの試行実験

平成19年12月9日（日）9時～17時に南城市馬天港及びその周辺地域で表6・1のプログラムを開催した。当日は晴天に恵まれ、市内外から多くの人々が集まり、一日だけではあるが、馬天港にかつての賑わいを取り戻すきっかけづくりとなった。

交流型体験プログラムについて、地域住民、県民、観光客を対象とした試行実験を行い、実験中に、参加者を対象にアンケートを実施した。アンケート調査は、地域住民の参加の可能性、住民生活への影響等について実施した。

表6・1 プログラム試行内容

交流型体験イベント	シーカヤック	陸上で基本操作の練習後、海上散策。 心地よい潮風に吹かれながら、自然と一体になり海上散歩といった感覚を味わえる。
	サイクリング	環境と人にやさしい自転車を活用し、馬天港から仲伊保港までの道のり。途中、自然豊かな浜ジンチョウ公園で自然観察を行う。
	ノルディックウォーキング	サイクリング同様、馬天港から仲伊保港までの道のりを歩 自然を満喫。途中、自然豊かな浜ジンチョウ公園で自然観察を行う。
	自然観察	浜ジンチョウ公園で、鹿谷夫妻による自然教室。公園周辺のマングローブや自然の豊かさを学ぶ。
	遊覧船	遊覧船に乗って、海から眺める馬天港や海の自然を満喫。馬天の新たな魅力を発見。
	釣り大会	馬天港周辺で獲れる海の恵みを実感。
	釣り体験	釣り初心者でも、安心して体験できる教室。
	手作り玩具教室	日本に古くから伝わる「手作り玩具」を玩具の達人から楽しく学ぶ。
交流イベント	ソデイカ解体ショー即売会	ソデイカ、マグロを来場者の前で解体し、即売。
	出店ブース	海産物料理などを販売。
	馬天港の写真展	馬天港が捕鯨基地だった頃の写真や当時の海岸線などの図面を展示。
	ステージショー	・ 尚巴志太鼓 ・ 釣り大会表彰式 ・ 佐敷中学ブラスバンド ・ S S バンド

6・2 プログラム実施内容・写真

① シーカヤック&サイクリング

◆ 規 模

シットオンカヌー	2人乗り	16艇
自転車		32台
午前	シーカヤックスタート	32人
	サイクリングスタート	32人
午後	シーカヤックスタート	32人
	サイクリングスタート	32人
		合計募集人数128人



◆ コース

<午前部>

第1班 往シーカヤック：馬天港9:30講習(10:00発) → 仲伊保港(11:00着)
復サイクリング：仲伊保港(11:00発) → 浜ジンチョウ → 馬天港 (12:30着)

第2班 往サイクリング：馬天港(9:30発) → 浜ジンチョウ → 仲伊保港 (11:00着)
復シーカヤック：仲伊保港11:00講習(11:30発) → 馬天港 (12:30着)

<午後部>

第1班 往シーカヤック：馬天港13:00講習(13:30発) → 仲伊保港(14:30着)
復サイクリング：仲伊保港(14:30発) → 浜ジンチョウ → 馬天港 (16:00着)

第2班 往サイクリング：馬天港(13:00発) → 浜ジンチョウ → 仲伊保港 (14:30着)
復シーカヤック：仲伊保港14:30講習(15:00発) → 馬天港 (16:00着)



その間、 シーカヤック： インストラクター伴走 3人
伴走船 1隻
サイクリング： コース誘導員 3人
自然観察員の説明：1カ所 (各30分)
※自然観察員 (鹿谷ご夫婦予定) 2名配置

② 自然観察とウォーキング

- ： ▼ ノルディックウォーク誘導員のもと約3時間のウォーキングをします。
 ルート 馬天港 9:00 ⇄ 仲伊保 12:00 の海岸線 <①同様自然観察含む>
 (復路については③の仲伊保港発遊覧船を利用)



③ 遊覧船

▼ 中城湾沿岸コース (定員20人)

馬天港発 9:30 ⇄ 馬天港着 15:30 1時間毎 計7回

▼ 馬天港＝仲伊保港コース (定員20人)

馬天港発 9:30 ⇄ 仲伊保港発 10:00

馬天港発 15:30 ⇄ 仲伊保港発 16:00



④ 釣り大会：

▼ 沖釣り



募集人数 18名 遊漁船 3隻

会費：5,000円/人 (乗船,エサ,氷,サビキ4枚代を含む)

時間： 7:00馬天港発 ～ 15:00馬天港着

表彰 優勝、2位、ラッキー7、ぼうず賞(下位2位)

対象魚 なんでも(掛かり釣り)

競技方法 総重量順位



▼ 防波堤上 I 募集人員 20名 会費：200円/人

時間： 9:00 ～ 14:30

表彰 優勝、2位、ラッキー7、ぼうず賞(下位2位)

対象魚 太刀魚

競技方法 長さ順位

護岸など II 募集人員 30名 会費：200円/人

対象魚 ガチュンなどなんでも

競技方法 総重量順位

時間、表彰はIと同じ



⑤ 釣り体験コース：

太刀魚釣り体験コーナー： 時間 11:00～11:30 13:00～13:30

<釣り指導員> 地元釣り愛好家、釣り大会参加者による指導

(競技を11:00と13:00に30分間一時休憩)



⑥ 手作り玩具教室

時間 11:00～17:00 募集人数；多数（実費）



⑦ ソデイカ解体ショー、即売会

時間 11:40～12:00、 13:40～14:00

⑧ 出店ブース

海産物直売および海産物料理など、



⑨ 馬天港の歴史：ある日の馬天港の写真展

⑩ ステージショー

■プログラム

時間	演目
15:00	セレモニー
15:10	尚巴志太鼓
15:30	釣り大会表彰式
15:50	佐敷中学ブラスバンド部
16:10 ~ 17:00	SSバンド



ステージプログラム



釣り大会表彰式



尚巴志太鼓



SSバンド



佐敷中学ブラスバンド部



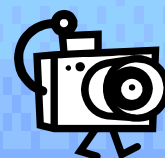
メイン会場



手作り玩具教室



ソデイカ・マグロ解体ショー



馬天港の写真展

ステージプログラム



尚巴志太鼓



釣り大会表彰式



SSバンド



佐敷中学ブラスバンド部

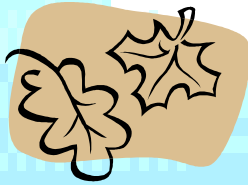
サイクリング



シーカヤック



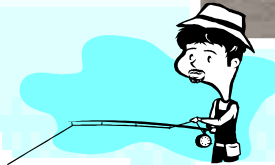
自然觀察







釣り体験



シーカヤック・釣り・マグロ解体ショー

馬天港の魅力体感



来場者の関心を集めたカジキマグロの解体ショー
——南城市馬天港

【南城】市馬天港の活性化と地域の交流促進を目的にした「馬天港みなとまつり」(主催・馬天港みなとまつり実行委員会)が9日、市佐敷津波古の同港を主会場に開かれた。シーカヤック体験やマグロの解体ショーなど多彩な催しが組まれ、港は家族連れなどでにぎわった。

地元協力 祭りにぎわう

かつては大東航路船が往来し、クジラの解体工場などで栄えた馬天港の新たな魅力づくりに取り組もうと、地元・津波古区と佐敷中城漁協、市商工会などが民間レベルで企画した。

来場者は、馬天港と仲伊保とを結んだシーカヤックツアーや釣り大会に親子で参加。遊覧船では海上から佐敷の景観を楽しみ、港町の魅力に触れた。夕方からは、釣り大会の表彰式や津波古区の住民らが出演したコンサートに沸いた。

仲伊保から馬天港までペアでシーカヤックをこいだ馬天小学校六年の山田耕大君(二)と宮城航平(一)が優勝した。

君(二)は「海の上は気持ち良かった」と話した。那覇市から家族五人で釣り大会に参加した新垣繁君(二)は「大きいのを釣って魚拓にしたい」と張り切っていた。

あいさつした古謝景春市長は「佐敷地区はこれから馬天港を中心に活性化していくと思う。行政も手を取り合って漁業振興を図っていきたい」と述べた。



平和の次世代に

恩納村

【恩納】第五十五回村戦没者慰霊祭がこのほど、村恩納の恩霊の塔で行われた。百一人の遺族

馬天港で祭り「海」丸ごと体験 解体ショーも人気

【南城】馬天港みなとまつり、馬天港みなとまつり実行委員会が9日、南城市佐敷の馬天港をメイン会場に開かれた。天気に恵まれ、多くの市民が訪れ、海の豊かさを体験していた。写真。



かつてはにぎわいを見せていた同港周辺の活性化を図ろうと市商工会、佐敷・中城漁協、津波古区、南城市が初めて企画した。

シーカヤックやサンクリング、自然観察など多数の交流型体験プログラムとリデイク、カジキの解体ショーが行われた。釣り大会では、山田・八が優勝した。馬天港由国さんが優勝した。

第7章 試行実験の評価

アンケート結果の整理

「馬天港みなとまちづくり」の企画運営に関し参加者の意見を集約するとともに、馬天港を中心とする市街地の今後の活性化のアイデアを募る目的に来場者にアンケート調査を行った。その結果、来場者は500人程度の参加者が確認されているが、長時間また広域ということもあり、正確な人数は確認できていない。アンケートはまつり当日、体験プログラムの受付で配布、回収したもので、142人からの回答を得られた。

(1) 参加者構成 回答者数142人

	男性	女性	無回答	全体
南城市	60	24	3	87
南城市以外	30	23	2	55
合計	90	47	5	142

(2) 体験プログラムの評価

- シーカヤック・サイクリング体験
- 釣り体験
- ノルディックウォーキング体験
- 遊覧船体験

アンケート結果から全ての体験プログラムにおいて、「非常に良い」又は「良い」との回答が、85%超の数字を得られた。このことから、今回の体験プログラムは参加者から非常に好評で、今後の通年的に取り組む必要がある。

(3) イベント会場の評価

- 出店
- ステージプログラム
- 各所施設

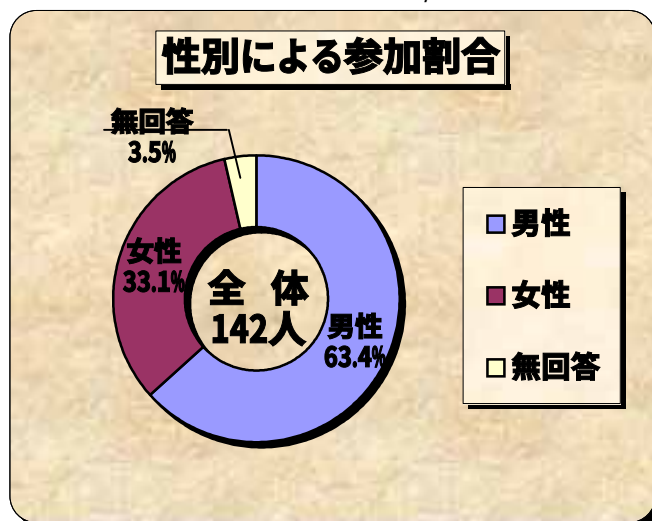
出店の数・品揃えに対し、満足度は40%以下と非常に低く、トイレ施設に対しても不満の声が多かった。一方、ステージプログラムは大変好評であった。今後アンケート結果をもとに、改善策の検討が必要である。

7・1 参加者の構成

(1) 性別による参加割合

- ◇ 回答者の総数142名、男性90名、女性47名。

今回のアンケート調査では、2/3を男性がしめる結果となった。



(課題)

- ◇ 女性も参加でき、親しみやすいような体験プログラムを盛り込む必要がある。

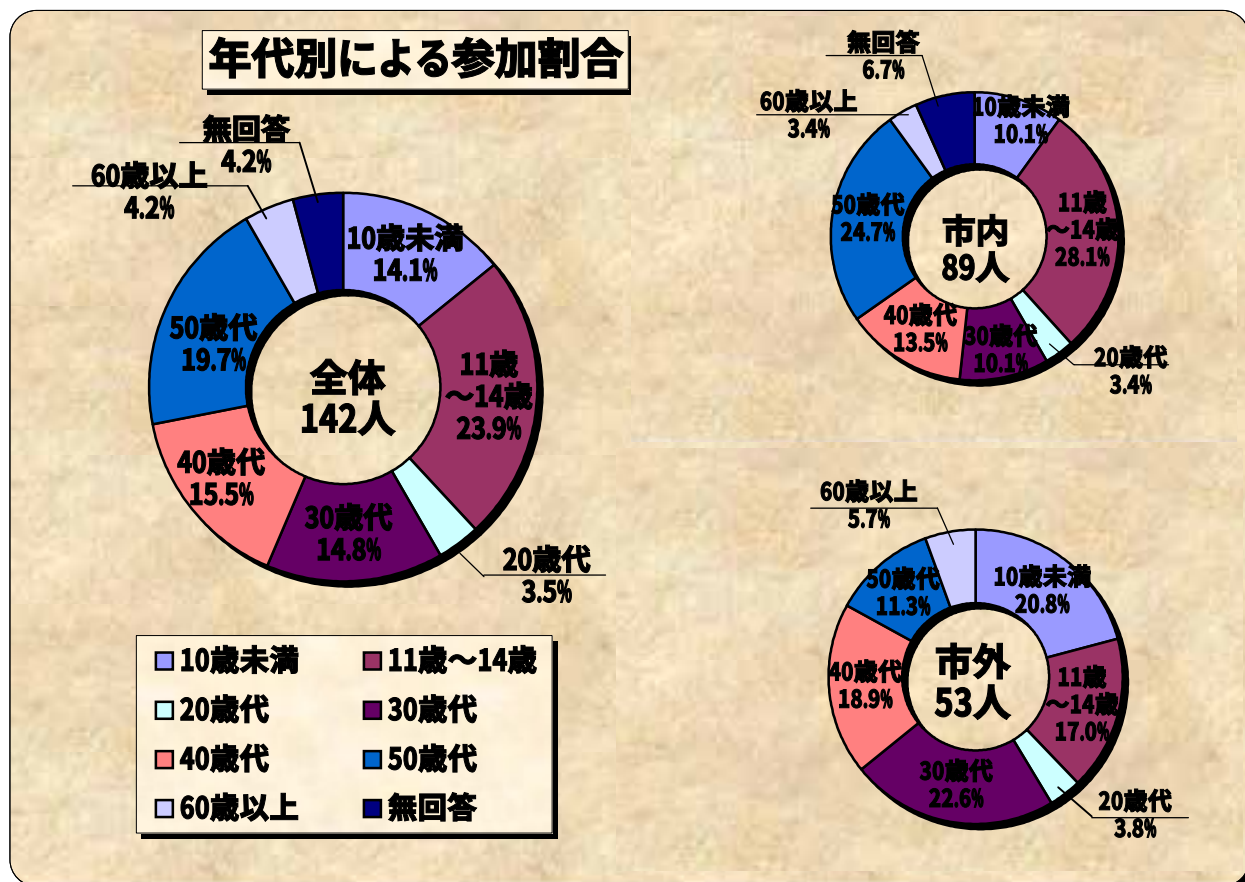
(対策案)

- ① 体験プログラム
 - ・ マリンスポーツ
- ② イベント
 - ・ フリーマーケット開催
 - ・ 体験プログラム参加者へ粗品やクジなど二重に楽しめる構成

	男性	女性	無回答	全体
全体	90	47	5	142

(2) 年齢別による参加割合

- ◇ 全体、市内外でほぼ均等に回答を得ているが、10代後半～20代、60歳以上からの回答が極端に少なくなっている。



(課題)

- ◇ 若年世代や高齢世代を、どう呼び寄せるか課題となる。

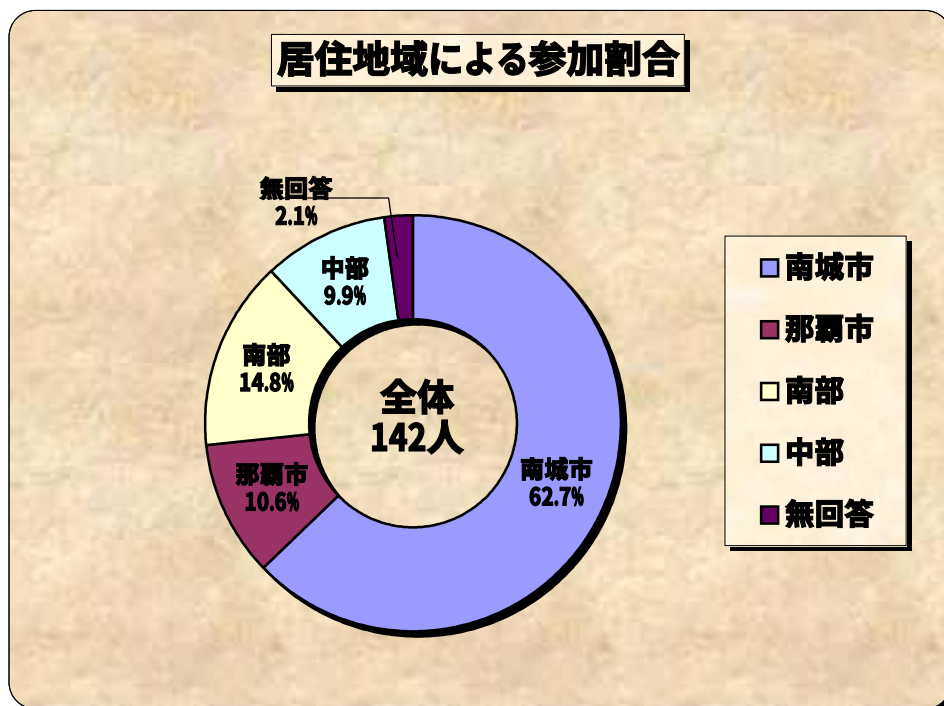
(対策案)

- ① 20歳代以下
- ・ マリンスポーツ
 - ・ 漁体験

	10歳未満	11歳～14歳	15歳～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無回答	全体
全体	20	34	-	5	21	22	28	6	6	142
市内	9	25	-	3	9	12	22	3	6	89
市外	11	9	-	2	12	10	6	3	0	53

(3) 居住地域別による参加割合

- ◇ 南城市からの参加が全体の約60%をしめているが、市外からも各15名前後の回答を得られた。



(課題)

- ◇ 更なる広報活動やイベントを企画し、北部、離島や県外からの観光客などを誘致できるように、検討すべきである。

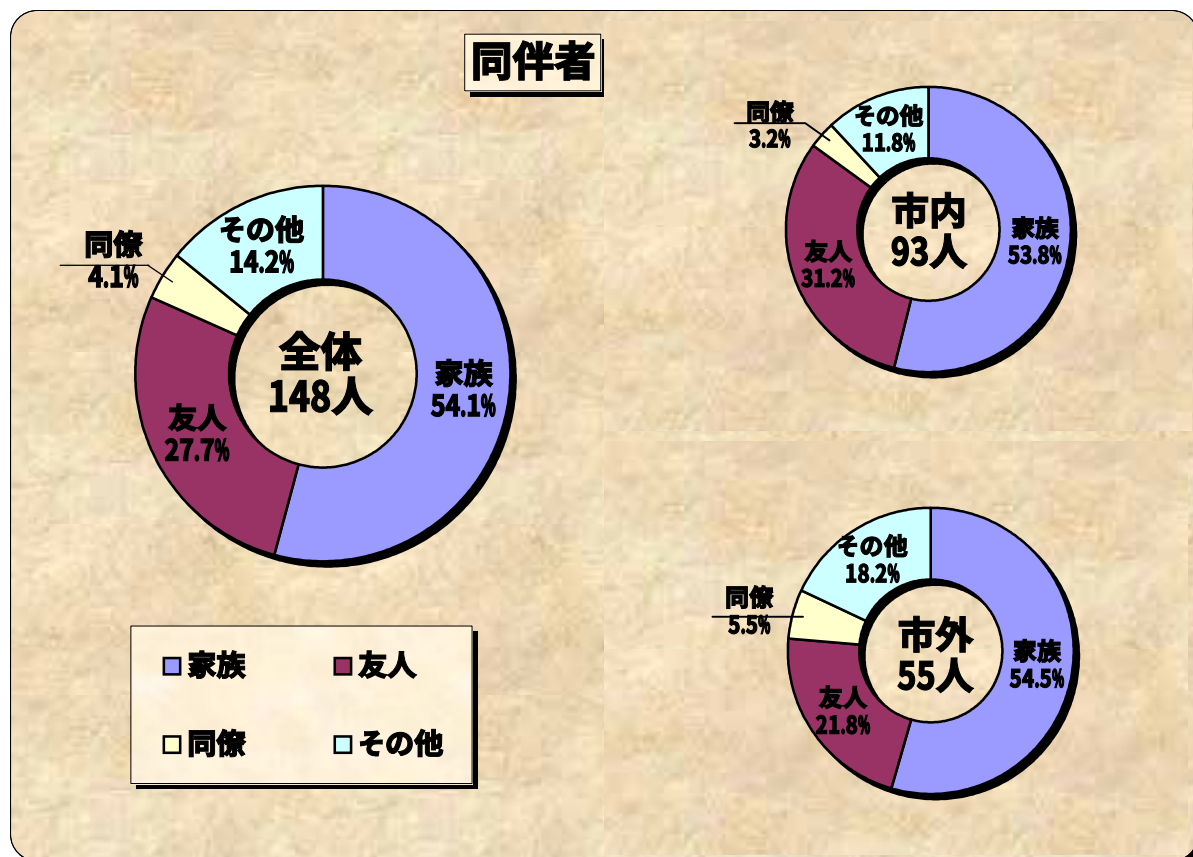
(対策案)

- ・ 馬天港周辺の整備
 - 〔 駐車場
 - 公衆トイレ
 - 遊歩道
 - 休憩所 等
- ・ まつり規模拡大（予算の確保）
- ・ イベント時のタレントの誘致（予算の確保）

	南城市	那覇市	南部	中部	無回答	全体
全 体	89	15	21	14	3	142

(4) 同伴者

- ◇ 市内、外ともに半数以上の人が家族と一緒に回答しており、友人、同僚が続いている。



(課題)

- ◇ このことから、家族向けの体験プログラムや催し物を増やす等、若年層から高齢者までが気軽に参加できる工夫が必要である。

(対策案)

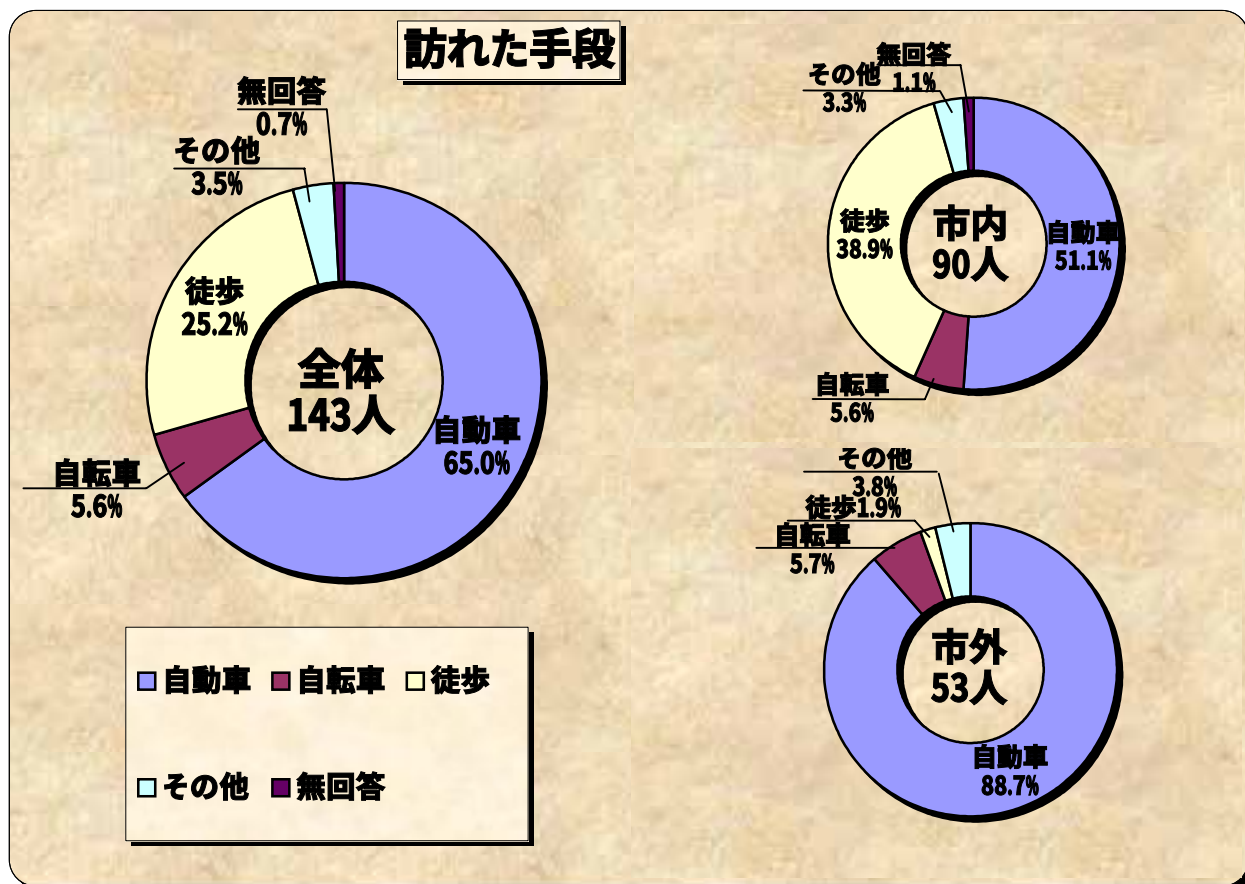
① 体験プログラム

- ・ 漁体験 地元の漁師からの旬の魚や漁法の説明を受け、親子で漁体験。
- ・ ヨット体験 インストラクターの指導のもと、親子でヨット体験。

	家族	友人	同僚	その他	全体
全体	80	41	6	21	148
市内	50	29	3	11	93
市外	30	12	3	10	55

(5) 交通手段

- ◇ 全体で回答者の2/3が自動車での来場となっているが、市外にあっては90%近くにもなる。まつりでは、歩行者専用道路に車両の進入が目立っていた。



(課題)

- ◇ 人々が安心して歩けるよう、安全対策が必要である。

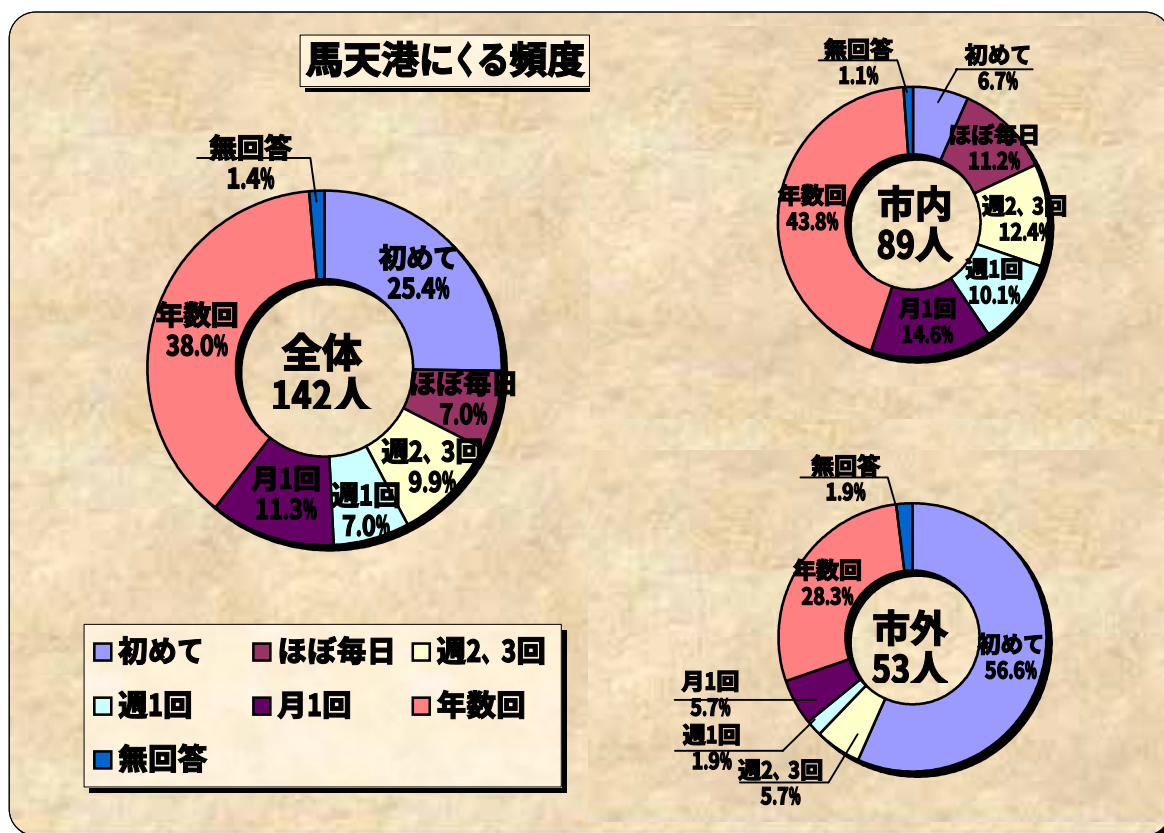
(対策案)

- ・ 駐車場の整備
- ・ 徒歩の来場者に配慮した案内板
- ・ 歩道の確保

	自動車	自転車	徒歩	その他	無回答	全体
全体	93	8	36	5	1	143
市内	46	5	35	3	1	90
市外	47	3	1	2	0	53

(6) 馬天港へくる頻度

- ◇ 市外から訪れた人は半数以上が「始めて」と答えた人が多いものの、全体では1/4の人が最低週1回は訪れているという結果となった。



(課題)

- ◇ 釣人だけでなく、「家族で楽しめる港」とし、休憩または飲食のできるスペースや公園、親水公園等の「交流のできる港」として、港を変えていかなければならない。

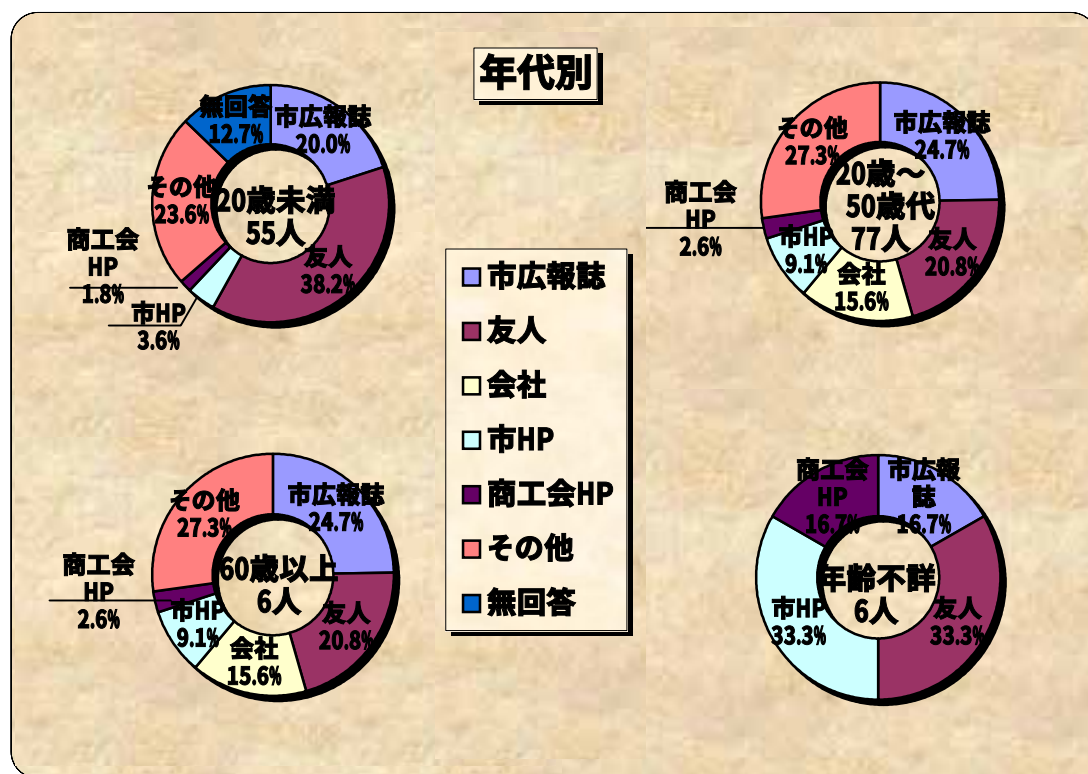
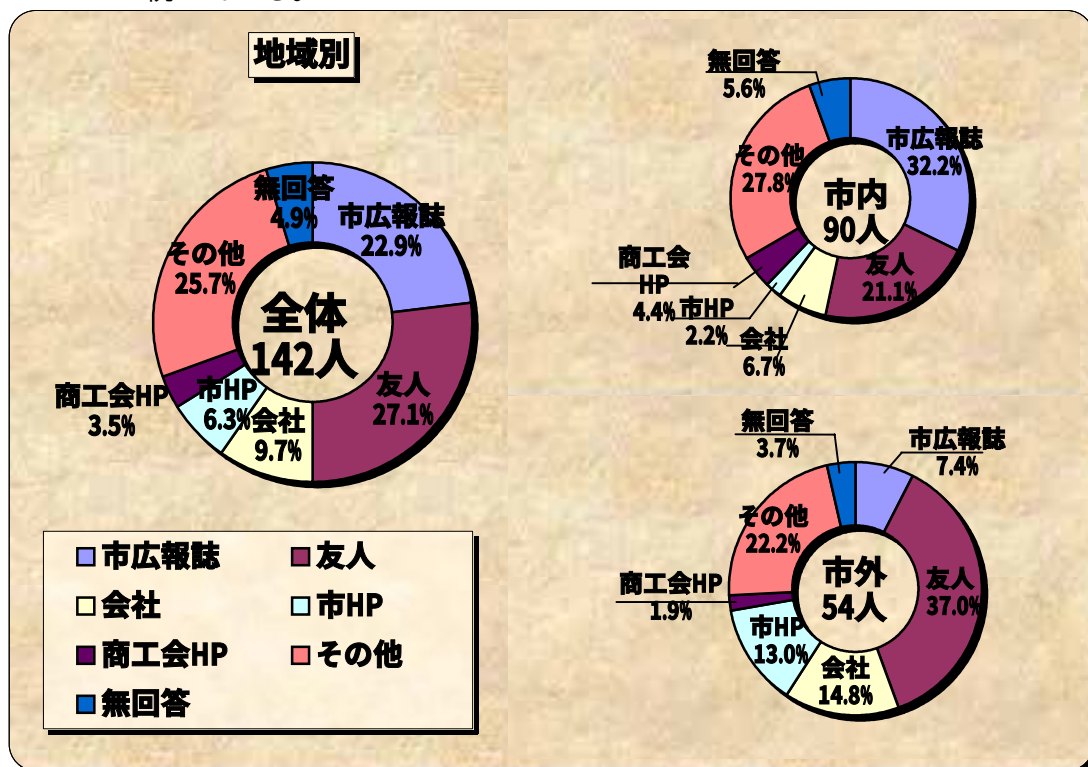
(対策案)

- 馬天港周辺の整備
 - 駐車場・公衆トイレ・遊歩道・休憩所等
- 商業施設
 - 飲食店・物販店・海産物直売店等

	初めて	ほぼ毎日	週2、3回	週1回	月1回	年数回	無回答	全体
全体	36	10	14	10	16	54	2	142
市内	6	10	11	9	13	39	1	89
市外	30	0	3	1	3	15	1	53

(7) 企画の周知

- ◇ 全体、年代別ともにし広報誌、友人からの情報がほぼ半数を占め、続いて会社、市HPと続いている。



(課題)

- ◇ 時間的制約の為、宣伝不足が指摘されていた為、今後どのように周知させるか（宣伝方法）が課題である。

(対策案)

- ・ ポスター、チラシの配布。（市教委・県教委等への依頼）
- ・ イベントポスター(馬天港を題材とした)コンクールの開催。出展作品を展示する。
- ・ TV、ラジオ等への取材の依頼。
- ・ ホテル等へのポスター、チラシの配布により観光客の誘致
- ・ エージェントとの連携

i) 地域別

	市広報誌	友人	会社	市HP	商工会HP	その他	無回答	全体
全体	33	39	14	9	5	37	7	144
市内	29	19	6	2	4	25	5	90
市外	4	20	8	7	1	12	2	54

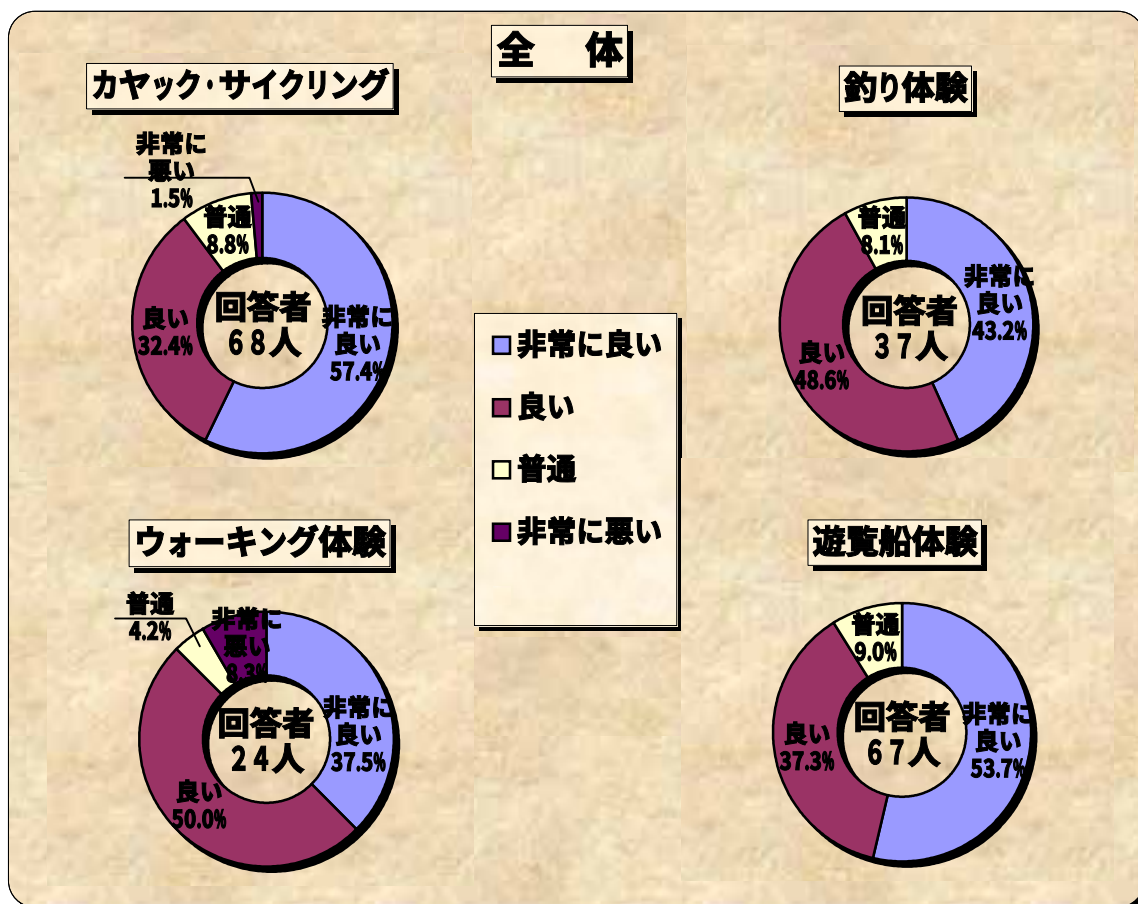
ii) 年代別

	市広報誌	友人	会社	市HP	商工会HP	その他	無回答	全体
全体	33	39	14	9	5	37	7	144
20歳未満	11	21	0	2	1	13	7	55
20～50代	19	16	12	7	2	21	0	77
60歳以上	3	1	0	0	0	2	0	6
年齢不詳	0	1	2	0	2	1	0	6

7・2 体験プログラムの評価

(1) 各体験プログラムの評価

- ◇ 各体験プログラムの回答で無回答が大半をしめるが、これはプログラムを体験できなかったものと予想される。回答を得た中で「非常に良い」、「良い」との回答が、各プログラムとも90%近い値を示しており、参加したプログラムの満足度は高いものである。



(課題)

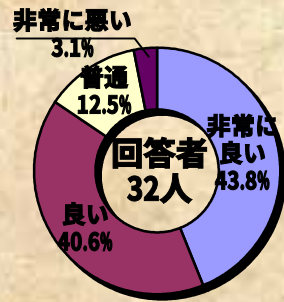
- ◇ 体験プログラムを持続して、地域で取り組むかが大きな課題である。

(対策案)

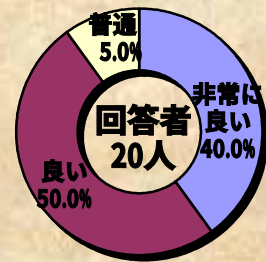
- ① 海のクラブの設立、運営
- ② マリン関係のショップの誘致
- ③ 体験型プログラムを行う施設の整備

20歳未満

カヤック・サイクリング

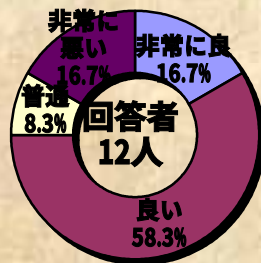


釣り体験

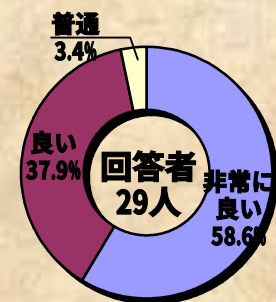


- 非常に良い
- 良い
- 普通
- 非常に悪い

ウォーキング体験

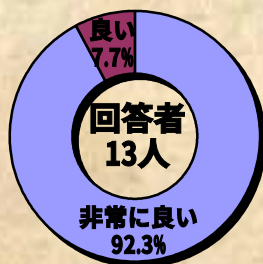


遊覧船体験

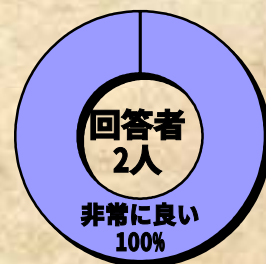


20歳～30歳代

カヤック・サイクリング

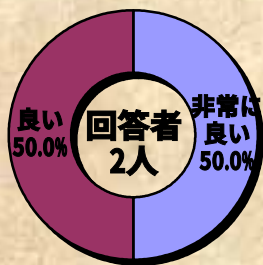


釣り体験

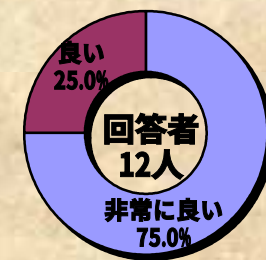


- 非常に良い
- 良い

ウォーキング体験

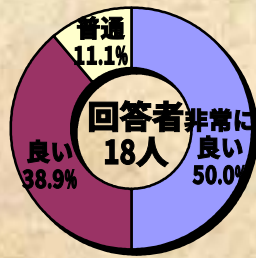


遊覧船体験

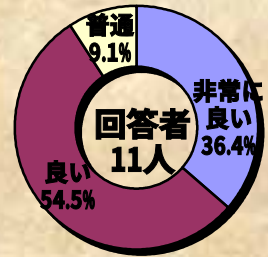


40歳～50歳代

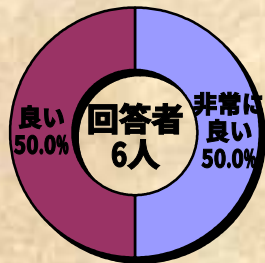
カヤック・サイクリング



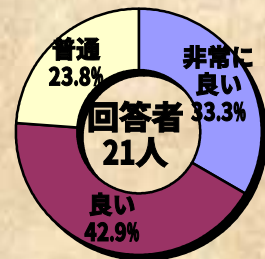
釣り体験



ウォーキング体験



遊覧船体験

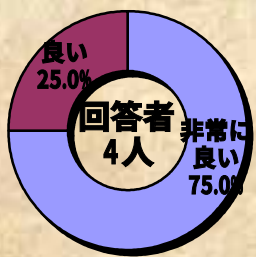


非常に良い

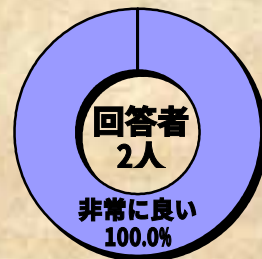
良い

普通

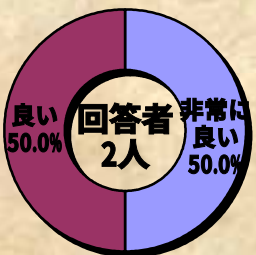
カヤック・サイクリング



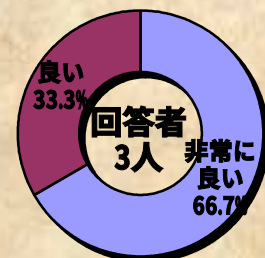
釣り体験



ウォーキング体験



遊覧船体験



非常に良い

良い

i) 全体

	非常に良い	良い	普通	悪い	非常に悪い	無回答	全体
カヤック・サイクリング	39	22	6	0	1	74	142
釣り体験	16	18	3	0	0	105	142
ウォーキング体験	9	12	1	0	2	118	142
遊覧船体験	36	25	6	0	0	75	142

ii) 20歳未満

	非常に良い	良い	普通	悪い	非常に悪い	無回答	全体
カヤック・サイクリング	14	13	4	0	1	22	54
釣り体験	8	10	2	0	0	34	54
ウォーキング体験	2	7	1	0	2	42	54
遊覧船体験	17	11	1	0	0	25	54

iii) 20歳代～30歳代

	非常に良い	良い	普通	悪い	非常に悪い	無回答	全体
カヤック・サイクリング	12	1	0	0	0	13	26
釣り体験	2	0	0	0	0	24	26
ウォーキング体験	1	1	0	0	0	24	26
遊覧船体験	9	3	0	0	0	14	26

iv) 40歳代～50歳代

	非常に良い	良い	普通	悪い	非常に悪い	無回答	全体
カヤック・サイクリング	9	7	2	0	0	32	50
釣り体験	4	6	1	0	0	39	50
ウォーキング体験	3	3	0	0	0	44	50
遊覧船体験	7	9	5	0	0	29	50

v) 60歳以上

	非常に良い	良い	普通	悪い	非常に悪い	無回答	全体
カヤック・サイクリング	3	1	0	0	0	2	6
釣り体験	2	0	0	0	0	4	6
ウォーキング体験	1	1	0	0	0	4	6
遊覧船体験	2	1	0	0	0	3	6

◆体験プログラムの感想

- カヤック・ : いろいろな体験ができて楽しかった。冒険してみたい。
- サイクリング 少し濡れたけど、めったに乗れないのでよかった。
- 自然とふれあってよかった。
- カヤックがきつかった。
- 子供が体験でき満足していました。
- 自然の豊かさや大切さを知る機会になった。
- もっと大勢の人に参加してほしい。
- 始まる時間が分からなく、待ち時間がながかった。

釣り体験： 友達が釣れて、自分も嬉しかった。
太刀魚が一匹釣れたので子供は喜んでいました。

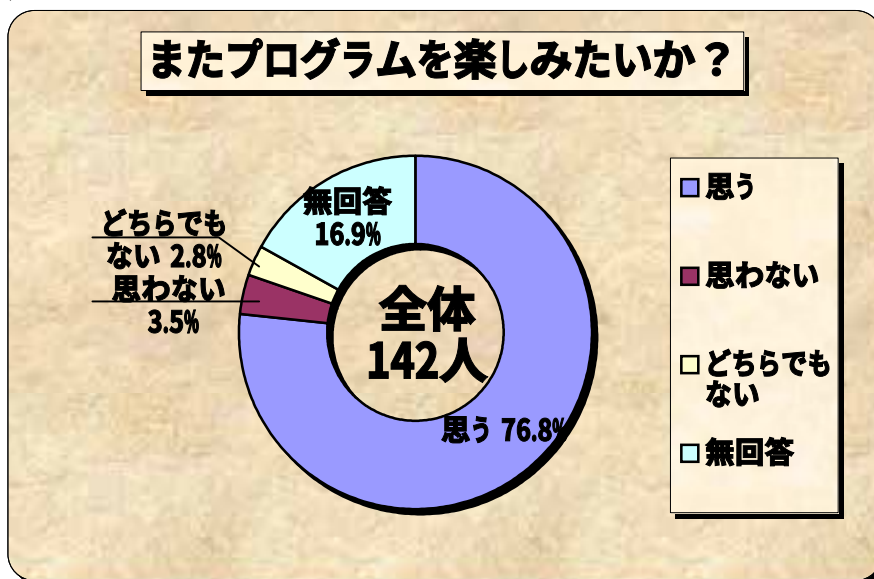
ウォーキング体験： マングローブ やか、Eビ など自然のことも勉強できてよかったです。
ルディックウォーキング 体験はよかった。コースは一工夫必要。豚舎はさけるべき。

遊覧船： ちょっと怖いけど、すごく楽しかった。
揺れたりして楽しかった。またやりたい。
景色が変わらなかった。
また乗りたい。
無料で体験できてよかった。2歳の娘が船上で寝ていました。気持ちよかった
のですね。
沖に見える物などの説明があるといい。
海がきれいで、海から見る馬天もよかった。
初めての体験、海の上からの景色よかった。
揺れると思ったが、揺れないし景色が最高。
距離をもう少し長くしてほしい。
海上から見る陸地、南城市、西原、与那原を見る機会を得てよかった。
海から見た海岸線は白い砂浜が少しだけ。

(2) 体験プログラムの全体評価

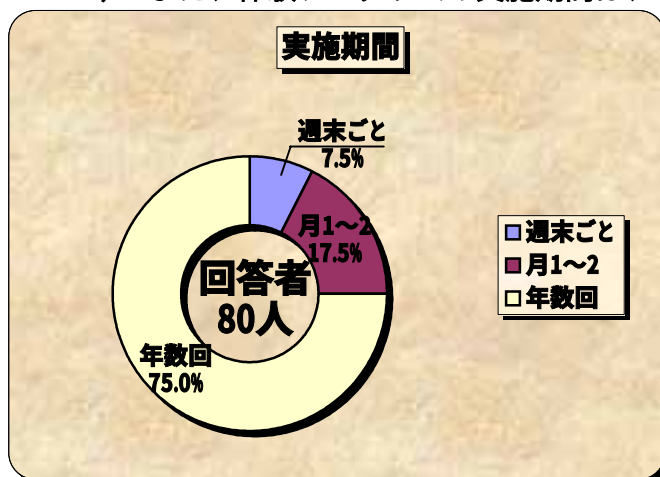
◇ また、体験プログラムをたのしみたいと思うか？という問いかけに90%以上の人
が「思う」と回答。また、実施期間についても年数回との回答が多かった。

i) 楽しかったプログラムを、また楽しみたいと思いますか？



	思う	思わない	どちらでもない	無回答	全体
全体	109	5	4	24	142

ii) また、体験プログラムの実施期間は、いつ頃が良いと思いますか？



◆ 感想

- ・体験したかったが時間が少なかった。
- ・よい規格だったので、もっと広報活動や内容(陸)を活発にしたらいいと思う。
- ・夏場の静かな時期が適当。
- ・ウォーキングがとても楽しかった。
- ・今回の天候＆天気が暑すぎず、寒すぎずよかった。
- ・海ならではの体験を増やしたほうがいい。
- ・子供たちの休みに合わせて。

	週末ごと	月1~2回	年数回	無回答	全体
全体	6	14	60	62	142

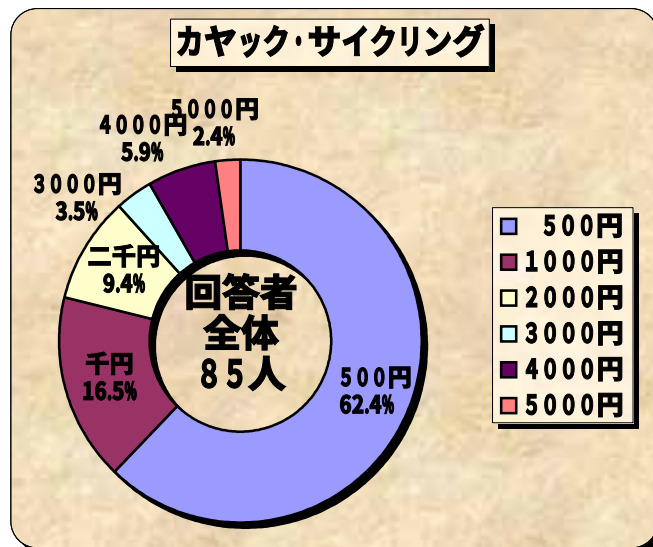
(課題)

◇ 年数回程度の開催が期待されていると考えられ、その集客方法を考える必要がある。

(3) 体験プログラムの費用

i) カヤック・サイクリング

- ◇ 「カヤック・サイクリング体験」の負担額として平均すると、1,100円程度となるが回答額が最も多かったのは五百円であった。



平均額

500	×	53	=	26,500
1,000	×	14	=	14,000
2,000	×	8	=	16,000
3,000	×	3	=	9,000
4,000	×	5	=	20,000
5,000	×	2	=	10,000
				95,500
				85
				95,500 ÷ 85 = 1,124 1,100円

(課題)

- ◇ 将来、この体験プログラムが実用化された場合の金額設定は、維持費や管理費の面からも、慎重に検討しなければならない。
また、サイクリングコースのルートやコース上の整備についても見当の必要がある。

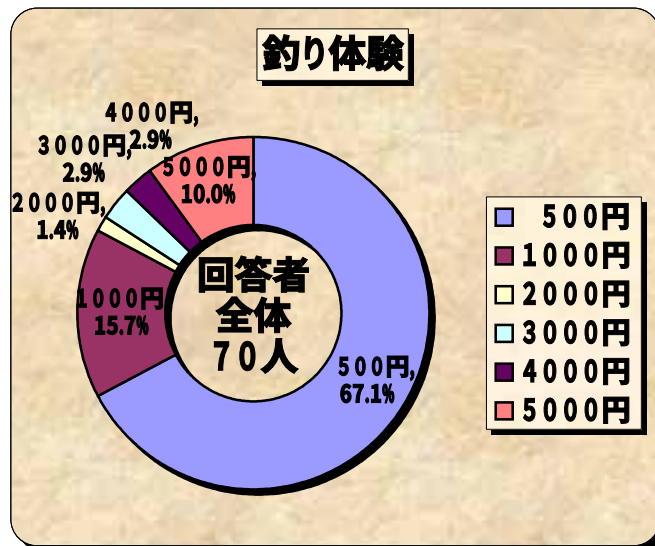
(対策案)

- ・ サイクリングコース（ウォーキングコース）を海岸線に沿って整備し、遊歩道と車道を完全分離

	500円	1000円	2000円	3000円	4000円	5000円	無回答	全体
全体	53	14	8	3	5	2	57	142
20歳未満	23	2	1	0	4	0	24	54
20～50歳代	25	12	6	3	0	1	29	76
60歳以上	2	0	0	0	0	1	3	6
年齢不詳	3	0	1	0	1	0	1	6

ii) 釣り体験

- ◇ 「釣り体験」の負担額として、500円～5,000円まで幅広い物であったが、3,000円以上の回答は沖釣りの金額と考えられるので除外し、平均を算出。その結果600円程度となる。アンケートは磯釣りとは沖釣りを区別がなかった為、正確な金額は出せていない。

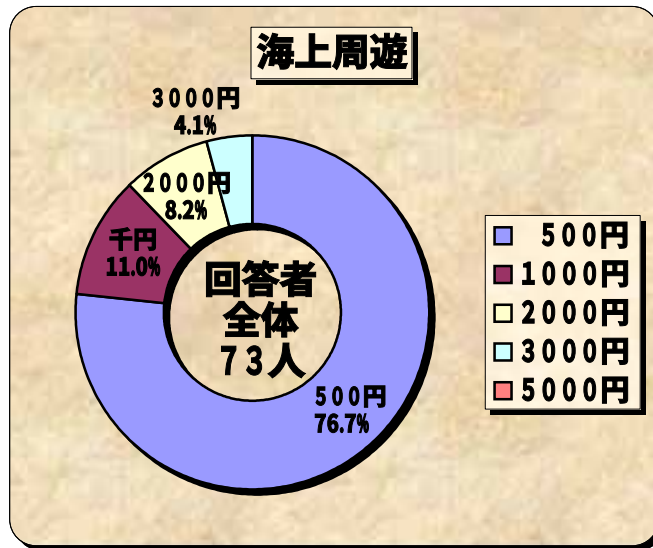


平均額					
	500	×	47	=	23,500
	1000	×	11	=	11,000
	2,000	×	1	=	2,000
			59		36,500
	36,500	÷	59	=	619
					600円

	500円	1000円	2000円	3000円	4000円	5000円	無回答	全体
全体	47	11	1	2	2	7	72	142
20歳未満	21	3	0	1	1	0	28	54
20～50歳代	24	8	1	1	1	4	37	76
60歳以上	0	0	0	0	0	2	4	6
年齢不詳	2	0	0	0	0	1	3	6

iii) 海上周遊

◇ 「海上周遊」の負担額として、平均で700円程度が適当と回答。



平均額

500	×	56	=	28,000
1,000	×	8	=	8,000
2,000	×	6	=	12,000
3,000	×	3	=	9,000
4,000	×	0	=	0
5,000	×	0	=	0
		73	57,000	
57,000	÷	73	=	781
				700円

(課題)

◇ 遊覧の際、ただコースを周遊するのではなく、見せる場所をつくり、説明や資料を配布するなどの工夫が必要がある。

(対策案)

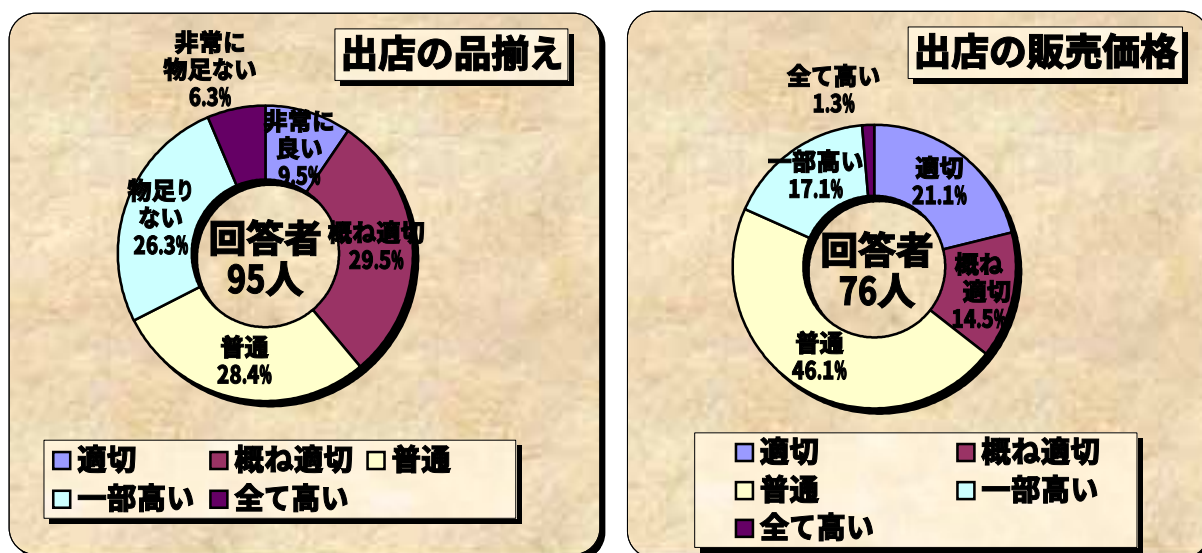
- ・ コースの選定
- ・ 船長の説明等を付け加える

	500円	1000円	2000円	3000円	4000円	5000円	無回答	全体
全体	56	8	6	3	0	0	69	142
20歳未満	18	4	2	1	0	0	29	54
20～50歳代	38	2	3	1	0	0	32	76
60歳以上	0	0	0	0	0	0	6	6
年齢不詳	0	2	1	1	0	0	2	6

7・3 イベント会場の評価

(1) 出店の評価

- ◇ 今回のみなとまつりでは、飲食関係の出店数は3店舗しかなく、物足りない出店となった。アンケート回答者も「非常によい」、「良い」との回答は40%未満となっている。



(課題)

- ◇ 今後は、地元店舗の参加数を増やしていく取り組みが必要である。

(対策案)

- ・ 店舗数を8～10店舗程度に増やす
- ・ アルコールの販売

i) 出店の品揃え

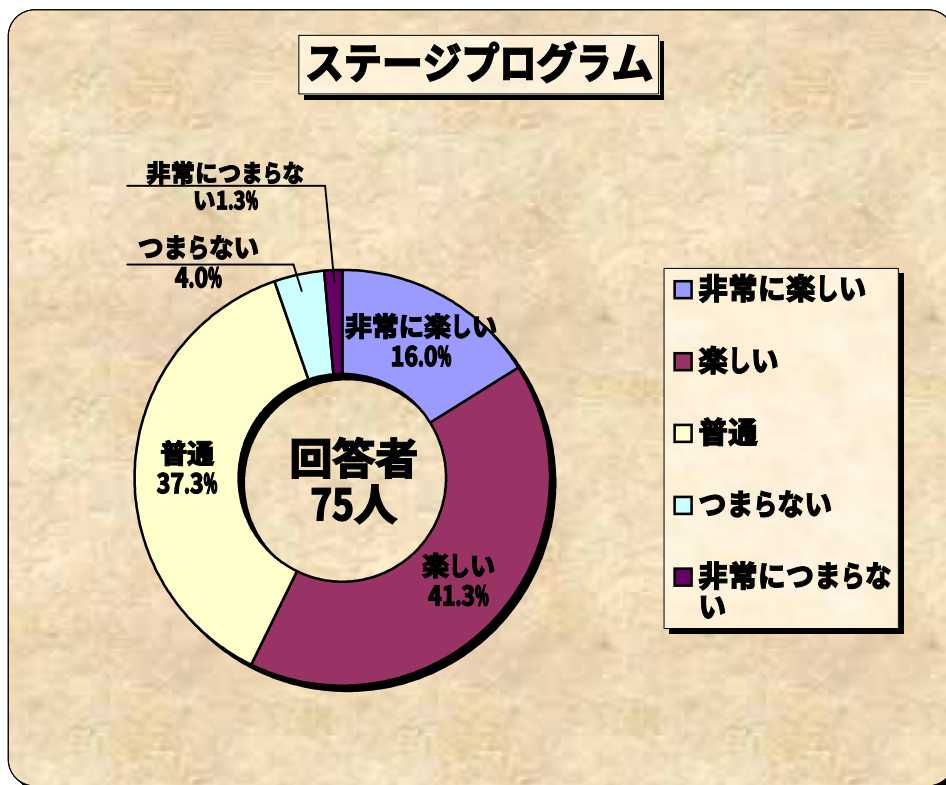
	非常に良い	良い	普通	物足りない	非常に物足りない	無回答	全体
全体	9	28	27	25	6	47	142

ii) 出店の販売価格

	適切	概ね適切	普通	一部高い	全て高い	無回答	全体
全体	16	11	35	13	1	66	142

(2) ステージプログラムの評価

- ◇ ステージプログラムは、午後3時～5時までの2時間となっていた為、物足りないという意見が多く寄せられた。しかし、ライブやブラスバンドが大変好評で多くの参加者から支持を得た。



(課題)

今後の課題としては、「ステージプログラムの充実」また、「午前中からの開催」といった点で、体験プログラムの合間やプログラムに参加しなくても、十分楽しめるステージ内容とする為に、検討を要する。

(対策案)

① ステージプログラム

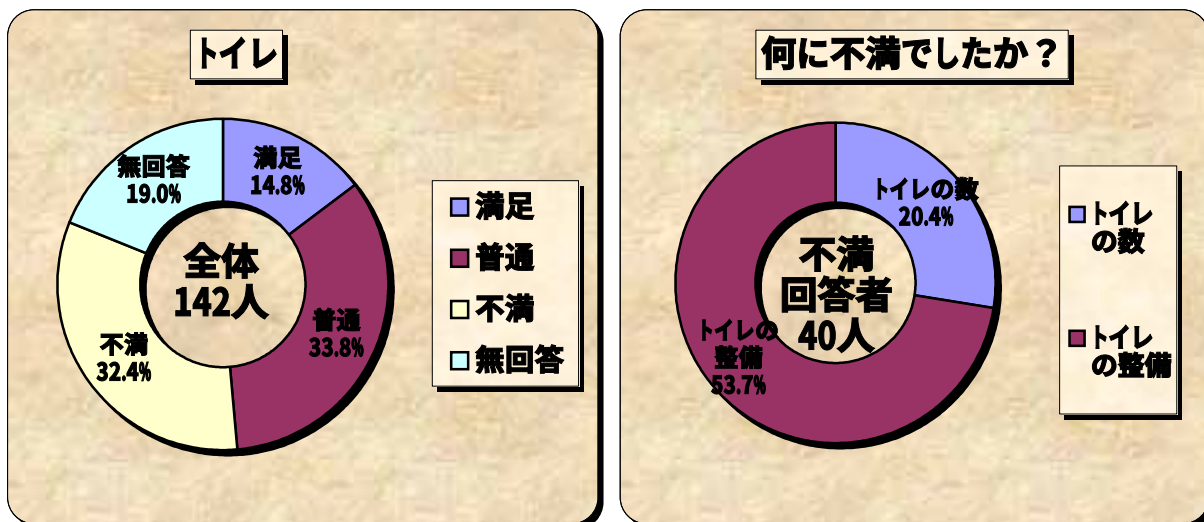
- ・ ステージプログラムの午前中からの開催。
- ・ 内容の一部を、来場者の参加型企画として盛り込む。
- ・ ステージ上でマグロ解体ショーを行い、来場者がセリを行う。
- ・ ビンゴ大会などのゲームを行う。

	非常に楽しい	楽しい	普通	つまらない	非常につまらない	無回答	全体
全体	12	31	28	3	1	67	142

(3) 各施設の評価

① トイレ

- ◇ 今回のイベントで大3基、小3基の仮設トイレが準備され、メイン会場、駐車場、仲伊保港に大小便器1基づつが配置されたが、数・整備ともに不十分という指摘が多かった。



(課題)

- ◇ 今後、みなとの整備とともに、適所にトイレを増設する必要がある。

(対策案)

- ・ メイン会場での仮設トイレの増設。
- ・ 仮設の水洗トイレの検討

① トイレ

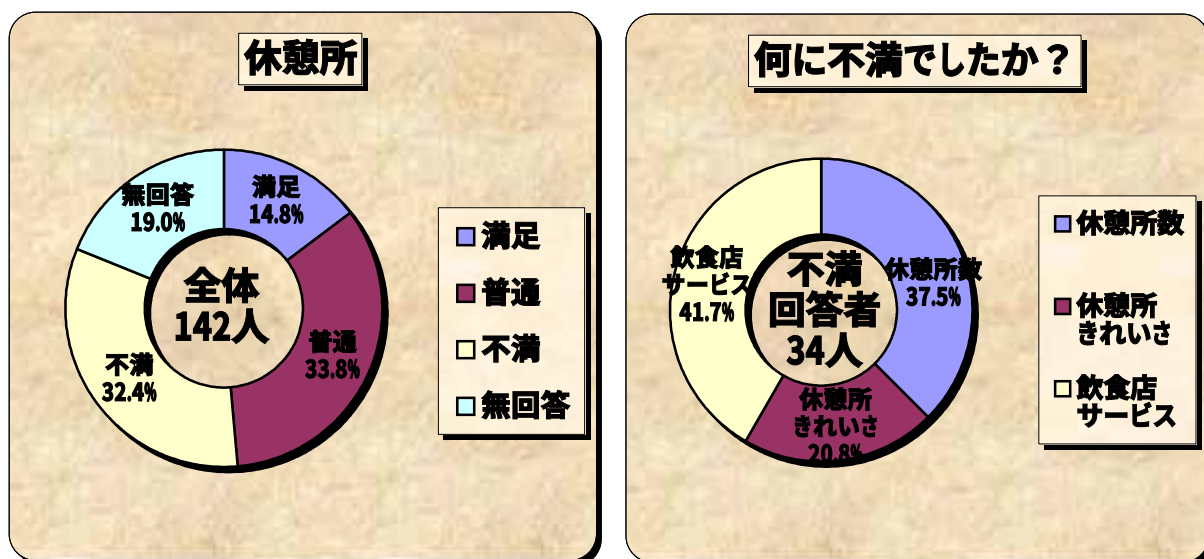
	満足	普通	不満	無回答	全体
全体	21	48	46	27	142

不満と答えた方は、何に不満でしたか？

	トイレの数	トイレの設備	無回答	全体
不満	11	29	14	54

② 休憩所

- ◇ 休憩所施設の評価は回答者の40%の参加者が不満との回答。実際、休憩用のテントとしては2基しか設けていなかった。



(課題)

- ◇ 休憩所もトイレ同様、数及び整備に重点を置き、雨天時の避難場所としても利用できるように、検討が必要である。

(対策案)

- ・ 休憩所の増設
- ・ 雨天時の避難場所の検討

② 休憩所

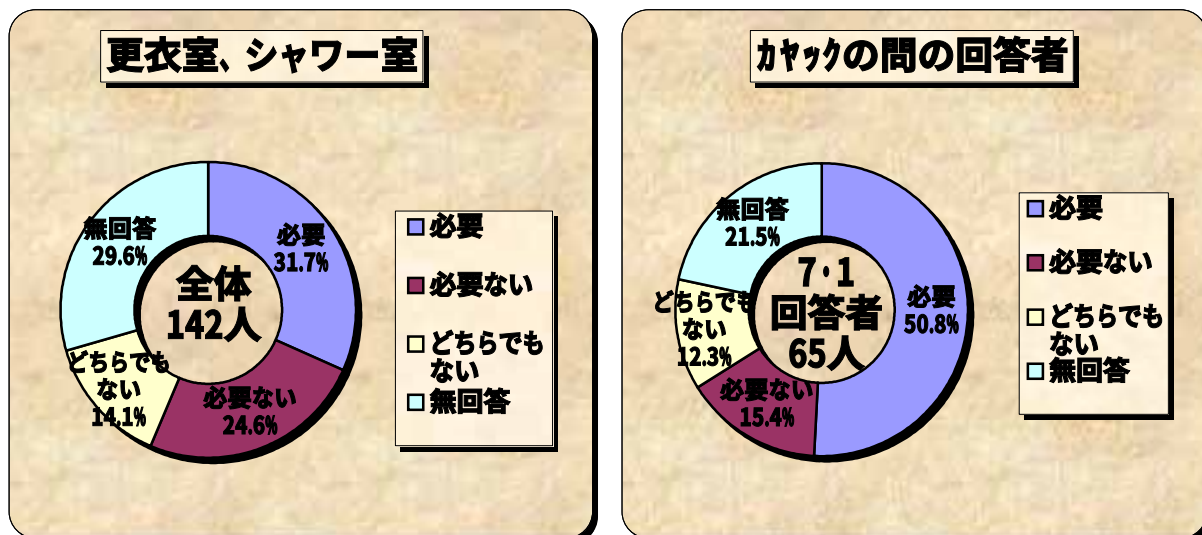
	満足	普通	不満	無回答	全体
全体	21	48	46	27	142

不満と答えた方は何に対して不満でしたか？

	休憩所の数	休憩所のきれいさ	飲食店のサービス	無回答	全体
不満	9	5	10	10	34

③ 更衣室、シャワー室

- ◇ 全体の回答では様々であるが、7・2のカヤック評価の間に回答した人を、カヤック参加者として考えた場合、カヤック体験者の半数は、シャワー室または更衣室が必要と感じている事がわかる。



(課題)

- ◇ 参加者の要望にしよう対処するかが課題である。

(対策案)

- ・ 更衣室・シャワー室の設置（カヤックは一度に最大30人参加可能）

③ 更衣室、シャワー室

	必要	必要ない	どちらでもない	無回答	全体
全体	45	35	20	42	142

7・2の体験プログラムでカヤックの回答者のみ

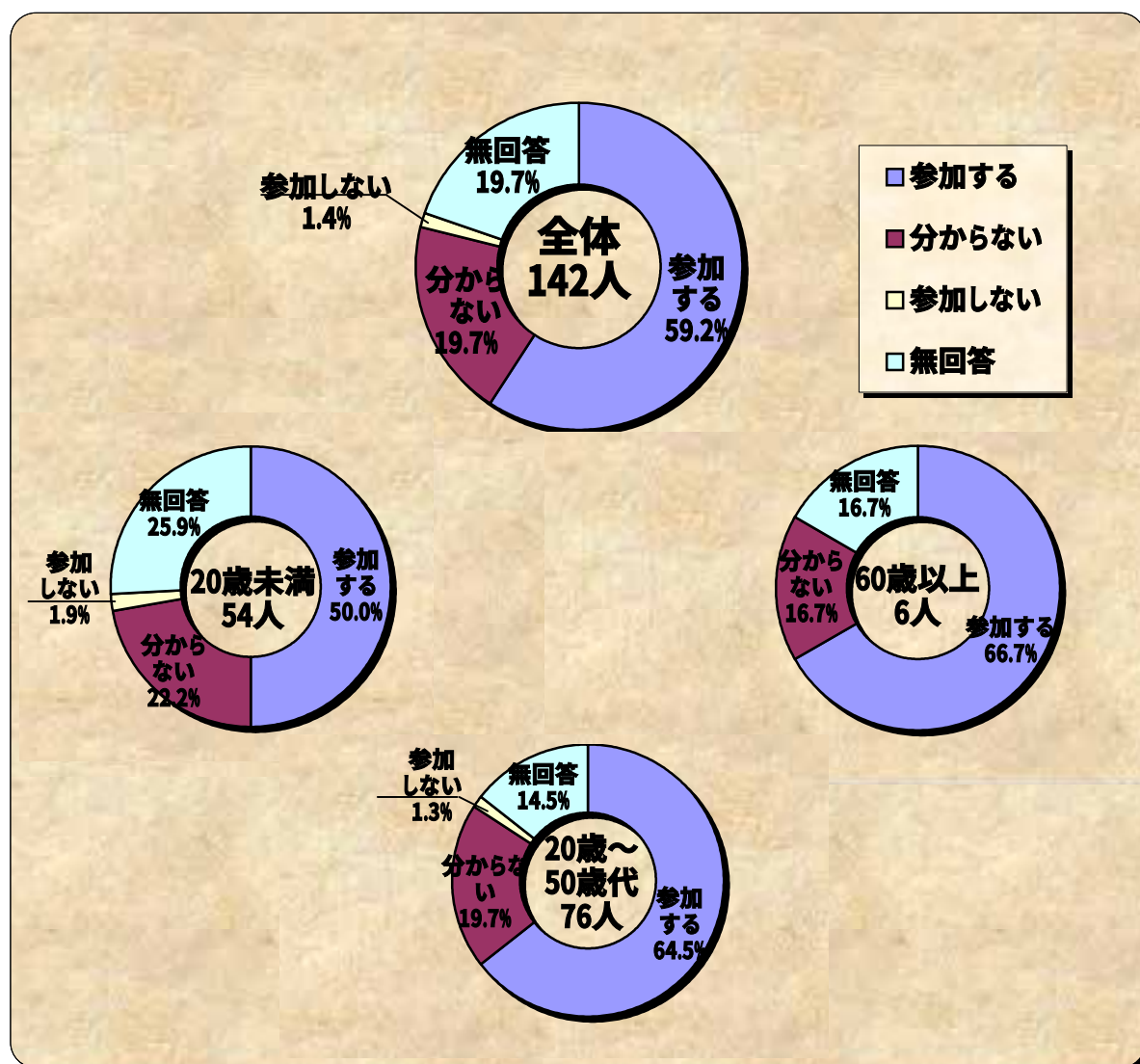
	必要	必要ない	どちらでもない	無回答	全体
全体	33	10	8	14	65

7・4 今後の展望

(1) 体験プログラムの運営施設について

Q. あなたは、このような体験プログラムを楽しめるクラブがあったら、また参加しますか？

- ◇ 全体の回答者の中から「また参加する」との回答が70%を超え、参加者も「みなとのクラブ施設」または「交流スペース」のまちづくり案に積極的なことが伺える。

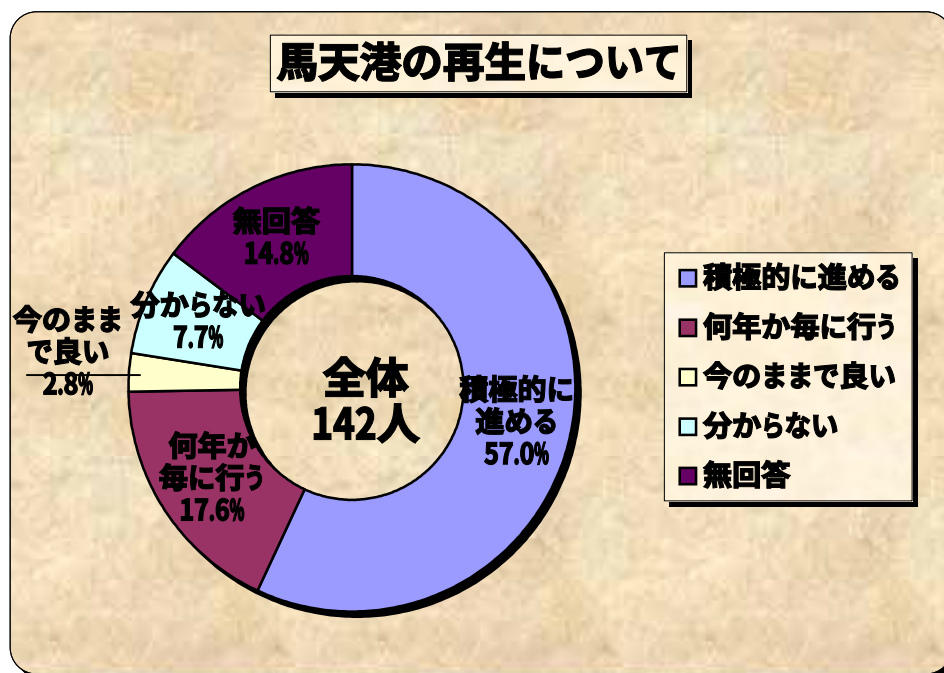


	参加する	分からない	参加しない	無回答	全体
全体	84	28	2	28	142
20歳未満	27	12	1	14	54
20～50歳代	49	15	1	11	76
60歳以上	4	1	0	1	6
年齢不詳	4	0	0	0	4

(2) 馬天港の再生

Q, あなたは馬天港が、このような体験プログラムの拠点として再生されることについて、どのように考えますか？

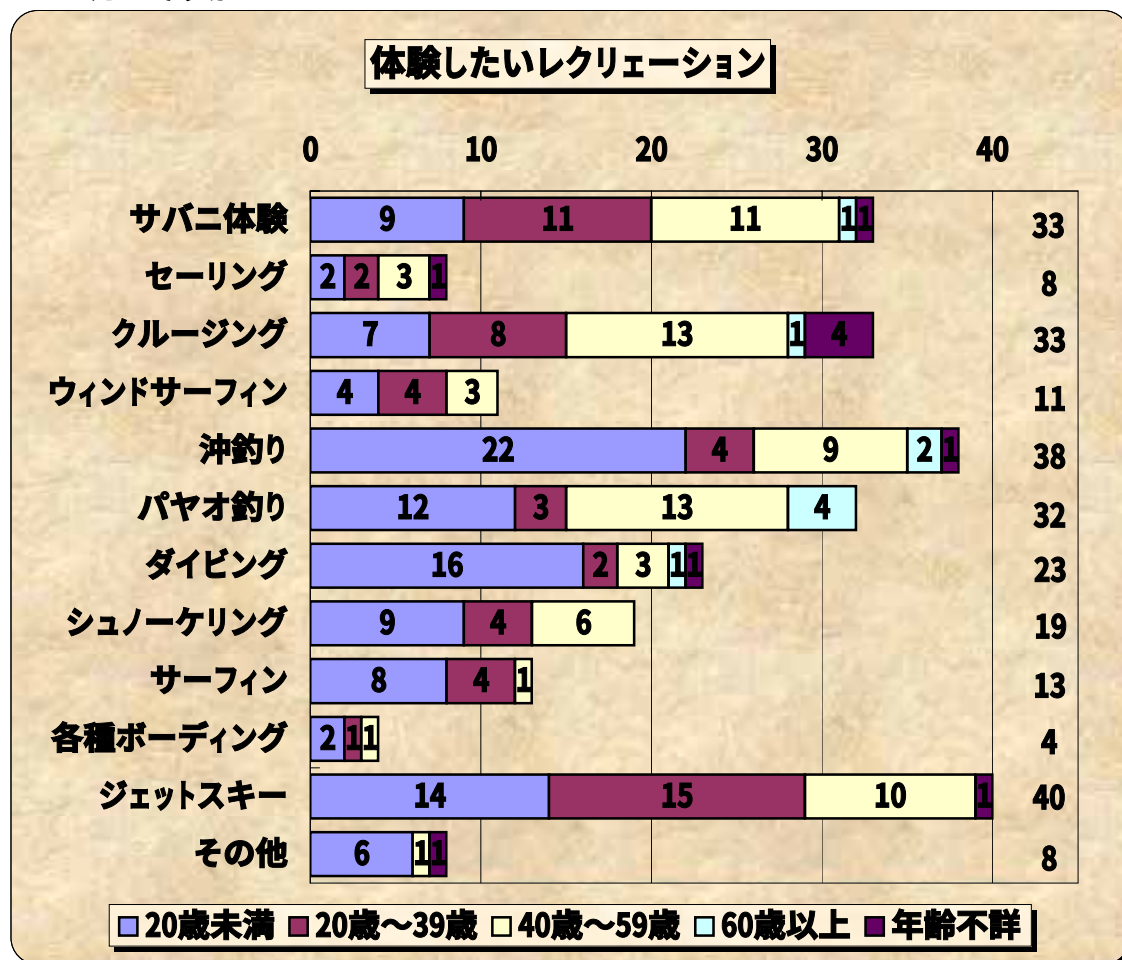
- ◇ 馬天港の再生については、「今のままでよい」と答える人は、2.8%とほとんどおらず、参加者が何らかの形で活性化を望んでいる。アンケートの中でも「自然を生かしたプログラム」、「家族で参加できる体験プログラム」等の意見が多かった。



	積極的に進める	何年か毎に行う	今のままで良い	分からない	無回答	全体
全体	81	25	4	11	21	142

(3) 海のレクリエーション

Q、あなたは、今日の体験した以外のどのような海のレクリエーションを体験したいですか？

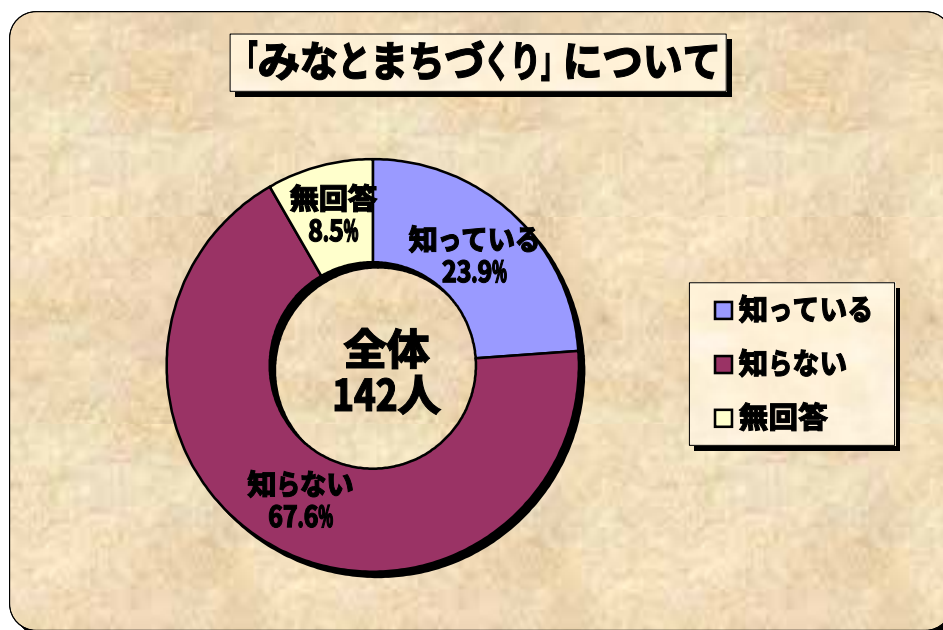


	20歳未満	20歳～30歳代	40歳～50歳代	60歳以上	年齢不詳	全体
サバニ体験	9	11	11	1	1	33
セーリング	2	2	3	0	1	8
クルージング	7	8	13	1	4	33
ウィンドサーフィン	4	4	3	0	0	11
沖釣り	22	4	9	2	1	38
パヤオ釣り	12	3	13	4	0	32
ダイビング	16	2	3	1	1	23
シュノーケリング	9	4	6	0	0	19
サーフィン	8	4	1	0	0	13
各種ボーディング	2	1	1	0	0	4
ジェットスキー	14	15	10	0	1	40
その他	6	0	1	0	1	8

(4) 「みなとまちづくり」についての活動

Q, 馬天港の活性化のために“みなとまちづくり”を進めていきますが、あなたは、“みなとまちづくり”について何かご存知ですか？

◇ アンケート結果からも分かるように、一般には馬天港の活性化活動はあまり周知されていない。



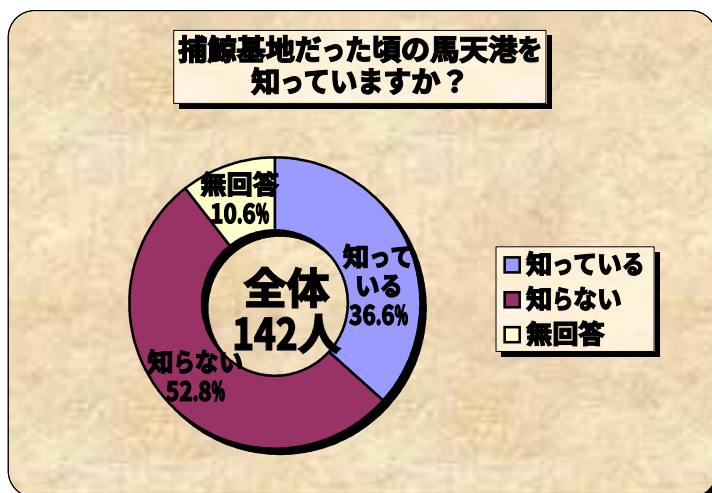
(課題)

◇ 今後、地元の人々が「みなとまちづくり」に参加できる機会を増やすとともに、広報活動の充実が望まれる。

	知っている	知らない	無回答	全体
全体	34	96	12	142

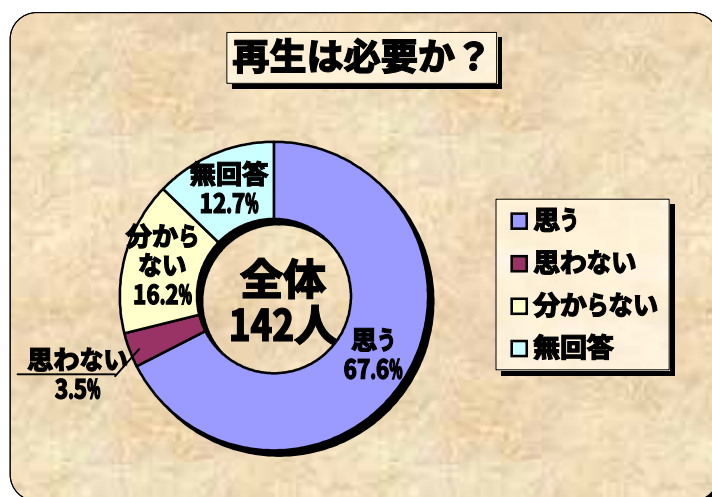
(5) 馬天港の歴史

Q, 馬天港は捕鯨基地でした。あなたは、そのことを知っていましたか？



◇ 昔、馬天港が捕鯨基地だったということは、回答者の1／3以上の人が「知っている」と回答。

Q, また、馬天港の歴史を港の再生に生かしていくことは必要だと思いますか？



◇ 再生は必要か？という問に対しては、「思う」と答えた人は2／3以上にのぼることから、参加者らが、何らかの形で地域再生を望んでいる。

第8章 実効性のある観光振興施策の提案

(みなとまちづくりを意識した提案)

馬天港をストックと捉え、みなとまちづくり（みなとの再開発）による観光産業の展開を推進するためには、

- ① みなとにウォーターフロント施設を整備
- ② 自然と共生するみなとまちづくり
- ③ 交流型体験プログラムの展開のための ” 海のクラブ ” の運営が提案される。

一般に港湾施設等の公共財産を活用する場合には、様々な制約がある。しかし、みなとの活性化に取り組むためには、これらの規制を地元の人々の熱意と積極性を持って、変革していくことが必要である。

8・1 みなとまちづくりの視点

i)

馬天港周辺地域は、沖縄県により「自然保護・保全を図る地域」として指定されているように、豊かな環境が残っている希少な場所である。豊かな自然を残しつつ、ウォーターフロントというロケーションのもと、港湾地域のみならず、周辺地域を含めた人々に親しまれ賑わいと活力をもたらす商業・アミューズメント複合施設の整備をし、自然環境エコロジカルな意識の発進を目指す。

- ii) 南城市域の5分の1を占める旧佐敷町は都心からの交通の利便性もよく、本市にとって活性化をもたらす場所として、開発することがふさわしい土地であり、長期的で総合的な計画の中核に位置付けた開発地として捉える必要がある。

8・2 みなとまちづくりのゾーニング

(1) 賑わいあふれるウォーターフロントゾーン（交流ゾーン）

- i) アメニティーまた自然あふれる親水空間と恵まれた交通立地条件を背景に釣り施設、遊覧船、久高島への連絡船、体験プログラムなどの一体的な広域交流拠点の、形成を図る。
- ii) 賑わいを醸成し、集客力を高めるために、商業者、市民等の参画によるフリーマーケットの開催や地元産品の販売、展示会等の企画・開催の環境整備や支援を行う。
- iii) 環境対応モデル商業施設として、グリーン商品の展示・販売、地元で採れた野菜や魚介類及び有機野菜等の専門販売店、リサイクルショップやオーガニック料理店、環境共生型商業施設の複合的展開を検討する。

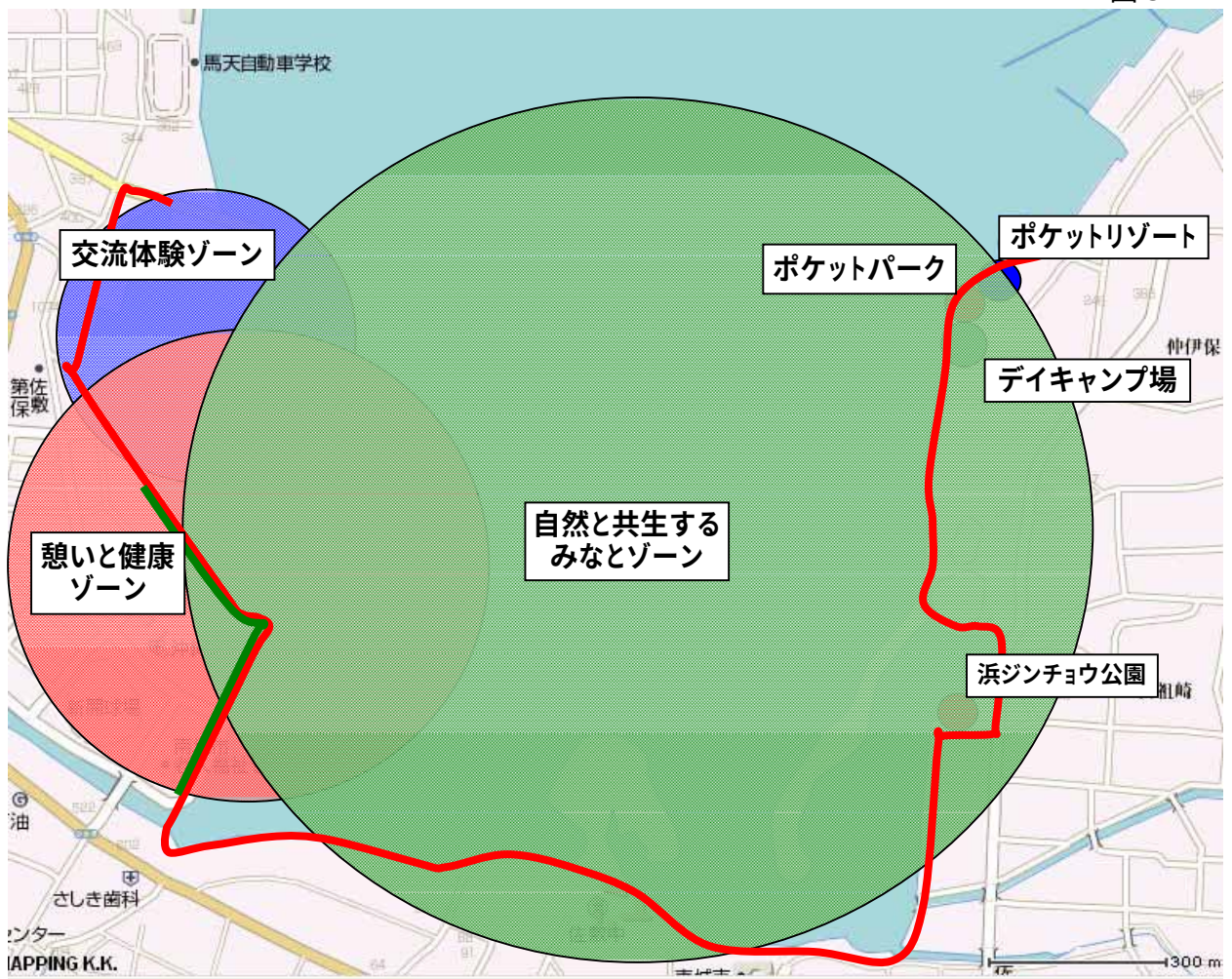
(2) 自然と共生するみなとゾーン（グリーンゾーン）

- i) 大規模な緑地を中心に、新しい都市の生態系シンボルとして、アメニティあふれる豊かな環境空間を創出すると同時に、エコロジカルな環境基盤の創造を目指す。
- ii) 自然に親しみ憩える水際空間を形成するとともに、人や生き物にとって良好な海辺環境を創出し、なぎさに憩う野鳥や海辺の生き物、海浜植物とふれあいを通じて、供たちの環境学習が体験できる場として整備を行う。

(3) 憩いと健康ゾーン

- i) スポーツを軸とした地域づくりの場として、スポーツを通じた市民の健康増進・回復や快適で潤いのあるライフスタイルの創出、さらには自然と調和した人間性豊かな環境を背景に地域コミュニティの促進を図るなど、計画地の特性を生かした魅力的な活動と交流の場を提供する。
- ii) 海で交流型体験プログラムで海と遊んで、海と学ぶゾーニング

図 8・1



8・3 みなとまちづくり方策

第1～第2段階

導入機能	導入施設	概要
交通機能	駐車場	将来的には、スペースを確保する必要がある。
	ポムナート及びサイクリング路	馬天港の敷地が一体となる道路整備。
運営施設	海のクラブ	カヤック・サイクリング等の体験プログラムやマリンスポーツが楽しめる施設。
	学習施設	・自然の保存と学習 ・海のルールと安全の理解増進
	商業施設	海産物直販所・飲食店・オープンカフェ等の施設。
	船舶待合所	馬天港周辺海域や久高島への連絡機能も担う。
	魚釣り施設	安全で快適な水辺空間としての釣り施設。その場で捌ける調理台完備。
	漁協組合事務所	漁組を管理棟内に配置し魚釣り施設等、総合的な管理運営を委託する
交流施設	交流広場	フリーマーケットや交流の場所としての活用。

図8・2



第2～第3段階

導入機能	導入施設	概要
レクリエーション機能	多目的公園	児童公園の代替施設。憩い、交流の空間となる多目的公園。
	ポケットパーク	佐敷マリーナ跡地にバスケやスケボー等が楽しめる施設。
	デイキャンプ場	日帰りで軽微なキャンプを楽しめる施設。
健康機能	緩衝緑地	グラウンドゴルフ場等を配置した、市民の日常的な健康づくりに寄与
	遊歩道	ウォーキングやサイクリングコースとして利用できる、海岸線に沿った遊歩道の整備。
	東屋	遊歩道や植林地、公園等各所での休憩施設。
学習機能	浜ジンチョウ公園	自然を通して、動植物とふれ合いながら、環境学習のできる施設へ整備。

図8・3



8・4 実用化に向けた考慮事項

(1) ソフト事業開発の展開

本方策に位置付けたハード整備は、あくまでもそこで働き、遊び、楽しむ空間である。その空間に人が集まり、空間を有効に活用してこそ、まちの活性化につながる。したがって、整備された施設や、馬天固有の資源を最大限に活用したソフト事業を積極的に展開することが重要である。

- i) 既存イベントと新規イベントを組み合わせ、年数回のイベントを開催
- ii) 馬天の魅力を掲載したガイドマップなどによる情報発信
- iii) 地域に愛着や誇りを持つ市民による情報発信
- iv) 既存施設の積極的な利活用及び遊休地の活用策の公募

(2) 少子高齢化への対応

少子高齢化社会の到来を踏まえ、施設整備に当っては、バリアフリーに配慮するなど様々な人が使いやすいデザイン（ユニバーサルデザイン）を採用するとともに、増加傾向にある高齢者の需要に合致した機能(施設)の配置が求められる。

一方、少子化への対応として、子ども連れの来訪者が快適に過ごすことのできる機能配置についても配慮が必要である。

8・5 実用化の方針

(1) 第1段階に向けた取り組み

現在、港湾計画に基づき事業が進行中であり、交流型体験施設は、図8・4の地元交流ゾーンを利用して進められることになっている。

この区域の広さ(面積)は、十分なものとは考えていないが、県当局をはじめとして、当面はこの区域を活用して交流型プログラムを進めていくこととする。

図8・4



(2) 第2段階に向けた取り組み

本方策の実現化に向けて、第2段階に位置付けられている事業の中から活性化の起爆剤と成り得る以下の事業を「先導的事业」と位置付け、実現に向け集中的に推進を図ることが重要である。更に、比較的早急な対応が可能な「観光モデルコースの設定」、「案内板整備」、「市民参加による観光案内への取り組み」及び「環境教育と一体的緑化活動や清掃活動」については、速やかに取り組んでいく必要がある。

◇導入機能◇

- ・ 体験プログラム
- ・ マリンスポーツ
- ・ 遊覧船
- ・ 海産物直売
- ・ その他の商業施設
- ・ 緑地・地元交流ゾーン
- ・ 駐車場

(3) 第3段階に向けた取り組み

第2段階に位置付けた事業について、早期の実現が可能であると判断される場合は、整備の前倒しを行ったり、経済情勢や住民ニーズに変化があった場合は、随時導入機能の見直しを行ったりするなど、積極的と柔軟性をもって実現化を推進する必要がある。

◇導入可能な施設◇

- ・ マリーナ
- ・ シーサイドホテル&レストラン
- ・ プール
- ・ プチホテル

(4) 長期的な取り組み

- ・ まちなみの景観づくり
(県営団地等の建てかえ時期等に実施)

8・6 具体的な取り組み方法の提案

■馬天港海のクラブ■

海の馬天港体験型交流プログラムを活用した海の観光産業の実現方策としては、地域の関係者の協力の下、地元の人々も観光客も入会できる海のクラブを設立することが提案される。馬天港の立地位置の優位性は、那覇市に隣接し、穏やかな海域と優れた自然環境を有する海域があることである。また、最近の観光客はリピーター型となっていることを考えると、地元及び那覇市民と観光客の交流空間として港が活用できる可能性が高いことを示唆している。つまり、馬天港を、従来のような周遊型の観光地でなく、海及びその周辺を楽しむ活動型の観光産業の空間とすることが大事である。この実現のための問題点は、

① 地元の人の参加できる体制づくり

沖縄の現状の体験型プログラムは、観光客の体験型として初心者を対象としたプログラムである。このため次のような問題がある。

- ・参加費用が、表 8・1 に示すように高く、アンケート結果からも理解される地元の人々の参加費用（平均 1,000 円程度）とは乖離している。
- ・海の遊びは自己責任であるが、観光客を対象とするため安全管理に、非常に配慮している。（経費の増加）
- ・経験の再現性、発展性、習熟性があまり期待できない。
（リピーター、経験者への対応が不備となりがち）

表 8・1 体験シーカヤックの料金表

ショップ	料金	時間
A	5,800 円	2 時間
B	7,000 円	3 時間
C	6,000 円	2.5 時間
D	5,500 円	1 時間

② 単一メニューの提供と地場産業の企業力

エコツーリズム、ブルーツーリズム、ダイビングショップ等の営業体は個人経営もしくはそれに近い形で行われている。このため、参加プログラムも一種目であり、多様な海の体験型プログラムを経験できない。また、一回の参加人員も限られ、使用機材等の負担が利用料金に加算される。

地元には、一方多様な海の体験型プログラムメニューを用意して、海の体験型プログラムを提供する、海のジスラス的な企業は存在しない。

したがって、従来型の零細な形で、体験型プログラムを導入しても、馬天港地域の活性化やまちづくりと結び付く可能性は小さく、また、馬天港で、そのような個人ベースの企業の運営をしていくには、ある意味で非常に厳しいと考えられる。

③観光地としての立地の不適切性

立地的には、通過型の道路に面しているわけでもなく、今以上のコストをかけ集客施設を作れるわけでもないと考えられますので、不特定多数の来客を期待する事業も不可能と考えられる。

④公共の協力と支援

地域の産業の転換を進め、新たな起業を奨励するためには公共の協力と支援が不可欠ですが、港湾等の公共施設や用地を直接利用しようとする、たとえその施設や用地がストック化していても、公共の協力と支援を得ることは非常に困難である。

したがって、しかし、公共の協力と支援を得るための工夫と知恵が、自治体と民間に必要となる。

したがって、多様な海の体験型プログラムを活用し、地域の活性化を図る方策として提案されるのは、地元および那覇市民等だけでなく観光客をも対象とし、海を活用した多様でローコストのメニューを持つ会員制クラブ事業を立ち上げ、時間をかけ、そのクラブを大きく育てて行くことである。

【海のクラブ事業の概要】

対象者 ：小学生以上

提供プログラム：

- ① 若い夫婦＋子供：ローボート、カヌー、ヨット、・・・
- ② 小学生 ：カヌー、D Y、サイクリング、スケボー、・・・
- ③ 若者 ：カヌー、D Y、サイクリング、スケボー、・・・
- ④ ファミリー ：クルージング、釣り、カヌー・・・
- ⑤ 高齢者層 ：カヌー、サイクリング、釣り、サークル活動

D Y：ディンギーヨット

このような“海のクラブ”の運営は、当初はインストラクター等の確保も必要であるが、長期的にメンバーが育てば、クラブ自体で確保していくことが可能になる。クラブでは、教える方も自分のレクリエーション活動となるのである。

▼ 収支目標：5年後：3千万円

会員数に左右されるが、設定としては、

会員数：1,2000人 （最終目標：3,000人）

会 費：1,000／月 （年会費 12,000 円／1人）

施設・用具使用料： 1人 1回 500 円／2時間

$150 \text{ 日} \times 4 \text{ 回転} \times 50 \text{ 人} / \text{回転} \times 500 \text{ 円} = 1,500 \text{ 万円}$

保管料：50隻 （年間 12,000 円／隻）

とし、タイムシェアリングで、海のことを遊びながら学ぶことができるクラブとする。

このようなクラブの運営は、多様な海の体験型プログラムを提供出来るとともに、カヌーやＤＹ等の保管も事業となる。置場のスペースは、ラック等の利用により、それほど広いスペースは必要ない。

収入の安定はサービスの向上へとつながり、多様なプログラムを可能とする。

“ 貧すれば鈍する ” の循環を断ち切るためには、高級志向のリゾート開発を進めるのではなく、より大衆性を持たせたプログラムの提供に依らなければならない。海に触れ、海に接する人口を多くすることが、また、海のスポーツの大衆化が、将来のマリン事業の拡大（馬天港のマリンレクリエーション拠点化）へと結びつくと同時に、様々な人が訪れることにより、港の振興やみなとまちづくりを推進する原動力となると考えられる。

馬天港みなとまちづくり活性化の施設整備のイメージ

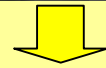
馬天地区周辺活性化構想図



現況とイメージ写真①

多目的広場としての利用

現況

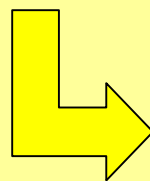


イメージ



シーカヤック

現況

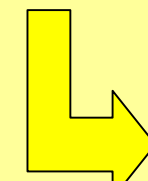


イメージ



グランドゴルフ場

現況

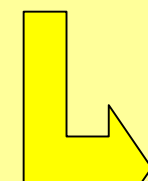


イメージ



歩道橋

現況

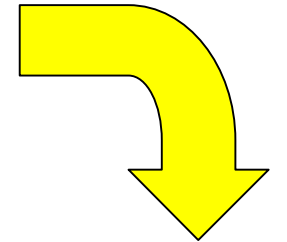


イメージ



現況とイメージ写真②

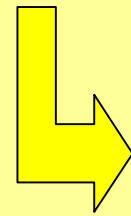
佐敷マリーナ 現況



デイキャンプ場



現況



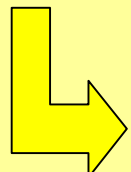
イメージ



遊歩道



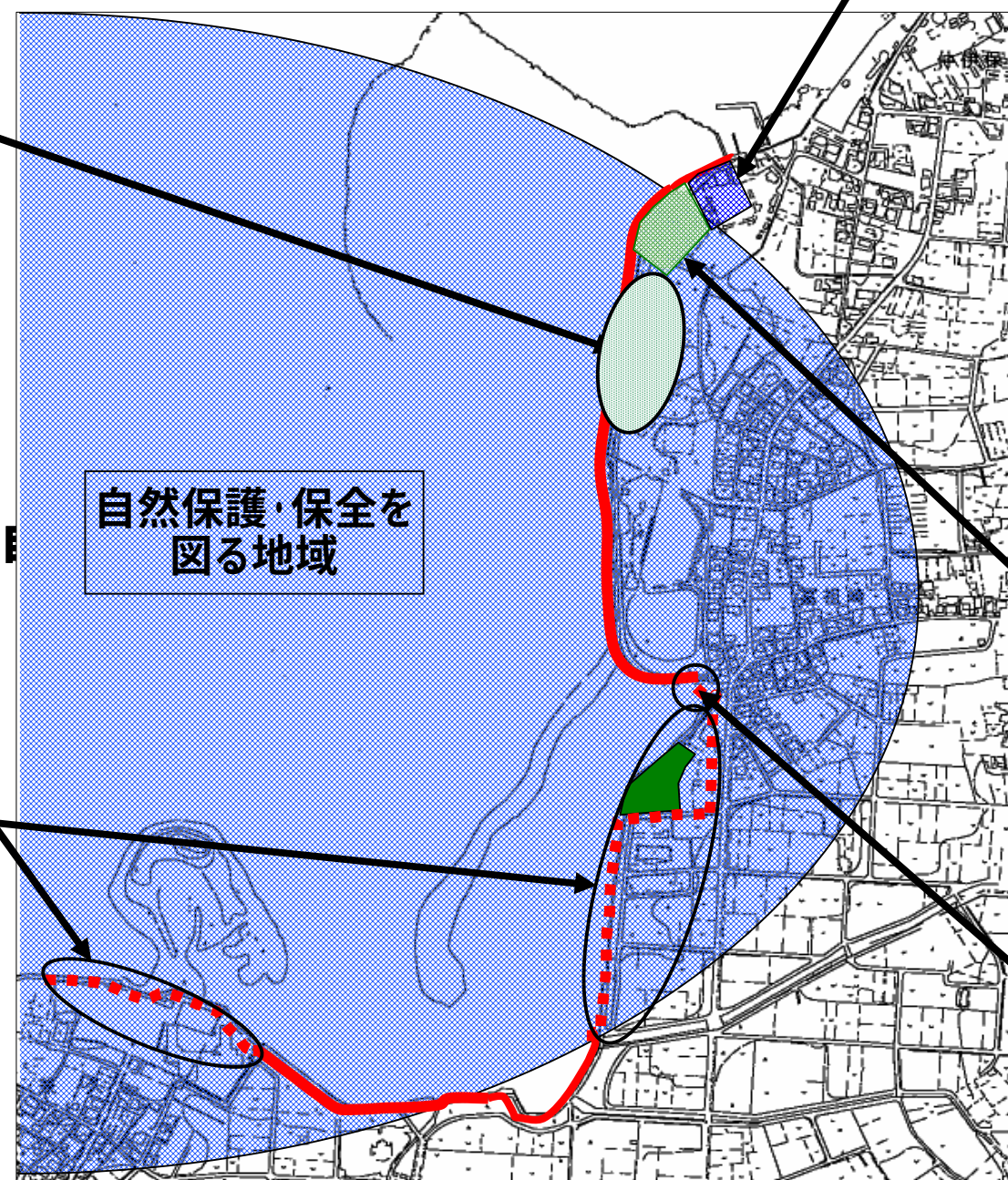
現況



イメージ



自然保護・保全を
図る地域



ポケットリゾート イメージ



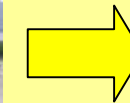
ポケットパーク イメージ



スケボーパーク 現況



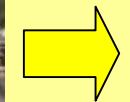
イメージ



歩道橋 現況



イメージ



第9章 環境施策の環境面に配慮した持続性の評価

経済活動の進展に伴い複雑多様化する現代社会において、21世紀が環境の時代と言われる中で、あらゆる場面において環境の負荷の軽減が求められている。提案した施策は

- (1) 自然と共生するまちづくり
- (2) 環境負荷の少ない住みよいまちづくり

という点に配慮したものであり、環境面において持続性を十分に持つものである。

(1) 自然と共生するまちづくり

- ・ 生き物の生息空間の確保 馬天港周辺の生き物の生息実態を把握し、それらを生態系を守るため、多くの生き物の生息している地域の保全に勤める。
- ・ 緑や水辺の保全と創造 みなと周辺にある樹林地、農地などの緑地の保全や、緑の機能、地域の特性を生かした緑地推進を図るとともに、市民、事業者の主体的な緑化活動を支援する仕組みの整備を図り、開発事業に際し、事業地内の豊かな緑の確保が図れるよう、誘導する。さらに、水辺の持つ多様な生き物の生息空間としての機能を生かしながら、自然とふれあうことのできる水辺空間整備を進める。
- ・ 学習機会の提供及び情報の整備・活用 自然環境の保全に関する正しい理解や知識の普及・啓発を図るため、市民が自然とふれあい、学ぶ機会を提供するとともに、自然環境の整備や活用に努める。
- ・ 自然保護活動への支援 市民、事業者などの自主的な自然保護活動への支援に努める。



(2) 環境負荷の少ない住みよいまちづくり

- ・ 環境美化の推進 市民、事業者、関係機関と連携を図り、違法屋外広告物の撤去活動やポイ捨て等の防止の啓発に努め、環境美化活動を推進する。
- ・ 環境衛生の充実 生活排水などによる水質汚濁を防止し、良好な水環境を保全するため、市民や事業者とともに、水環境をよくする取組を推進します。
- ・ リサイクルの推進 ゴミの減量・リサイクルの徹底が図れるように努めるとともに、リサイクルプラザとの連携により、新たな資源化方策等について研究する。また、ゴミの減量・リサイクルに関する市民、事業者の自主的な取組に対して支援する。



〔添 付 資 料〕

- ☐ 馬天港みなとまつり調査検討委員会委員名簿
- ☐ 馬天港みなとまつり委員会議事録
- ☐ 馬天港みなとまつりパンフレット
- ☐ 馬天港みなとまつりアンケート調査票
- ☐ 馬天港みなとまつりアンケート個別意見

馬天港みなとまちづくり検討委員会

南城市商工会

検 討 委 員 会 委 員

委員長	潮 平 隆	南城市商工会 会長
委 員	山入端 孝 雄	佐敷・中城漁業協同組合 組合長
委 員	大 城 正 幸	南城市津波古区 区長
委 員	福 田 宗 男	前佐敷町商工会副会長 （現南城市商工会理事）
委 員	仲 間 美智秀	前佐敷町商工会副会長 （現南城市商工会理事）
委 員	平 田 美智子	街づくり実践者 （津波古区書記）
委 員	赤 嶺 敏 明	街づくり実践者 （海翔 代表）
委 員	嶺 井 敬 子	街づくり実践者 （浜珍丁 代表）
委 員	西 平 守 正	南城市産業建設部都市建設課 課長
実務者	山 川 晃 敬	// 都市計画係長
	上 原 忠 敬	// 都市計画・港湾係
委 員 実務者	佐 藤 和 幸	南城市総務企画部まちづくり推進課 地域再生マネージャー
オブザーバー 実務者	吉 田 繁 翁 翁 長 正 勝	県土木建築部港湾課 計画調査班長 計画調査班主任

運 営 事 務 局

専門委員	浦 野 光 央	建設コンサルタント(業務委託) 港湾関係技術士
専門委員	宮 城 富 夫	// 一級建築士
技術員	呉 屋 忍	// 一級土木施工管理技士
技術員	屋嘉比 智 仁	// 二級建築士
商工会事務局	糸 数 昌 也	南城市商工会 事務局長
商工会事務局	平 良 肇	// 経営指導員
商工会事務局	喜屋武 聡	// 経営指導員

第1回検討会議事録

第 1 回						追番 1 - 1 頁																																
委託者印	会長	理事	理事	事務局長	担当者	受託者 検 印	管理技術者	照査技術者																														
	潮平	福田	仲間	糸数	平良,喜屋武		浦野	宮城																														
委託者名	南城市商工会					受託者名	上城技術情報株式会社																															
件 名	「馬天港みなとまちづくり」形成 のための基礎調査					整理番号	0701																															
出席者	委託者側	糸数昌也事務局長、平良 肇 喜屋武 聡				日 時	'07/10/24(水)PM4:																															
						場 所	南城市商工会会議室																															
	受託者側	浦野、宮城、呉屋				打合方式	● 会議 ● FAX ● Eメール ● 電話																															
1. 委員出席者 <table border="0"> <tr> <td>委員長</td> <td>潮 平 隆</td> <td>南城市商工会 会長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>山入端 孝 雄</td> <td>佐敷・中城漁業協同組合 組合長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>大 城 正 幸</td> <td>南城市津波古区 区長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>福 田 宗 男</td> <td>前佐敷町商工会副会長（現南城市商工会理事）</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>仲 間 美智秀</td> <td>前佐敷町商工会副会長（現南城市商工会理事）</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>平 田 美智子</td> <td>街づくり実践者（津波古区書記）</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>嶺 井 敬 子</td> <td>街づくり実践者（浜珍丁 代表）</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>山 川 晃</td> <td>南城市産業建設部都市建設課 都市計画係長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>上 原 忠 敬</td> <td>南城市産業建設部都市建設課 都市計画・港湾係</td> </tr> <tr> <td>オブザーバー</td> <td>翁 長 正 勝</td> <td>県土木建築部港湾課 計画調査班主任</td> </tr> </table> 2. 議題 1. 交流型体験プログラム試行に向けた基本方向の確認 コンサルタント説明、質疑、確認 2. 交流型体験プログラムの検討 交流型体験プログラムに関する委員提案									委員長	潮 平 隆	南城市商工会 会長	委員	山入端 孝 雄	佐敷・中城漁業協同組合 組合長	委員	大 城 正 幸	南城市津波古区 区長	委員	福 田 宗 男	前佐敷町商工会副会長（現南城市商工会理事）	委員	仲 間 美智秀	前佐敷町商工会副会長（現南城市商工会理事）	委員	平 田 美智子	街づくり実践者（津波古区書記）	委員	嶺 井 敬 子	街づくり実践者（浜珍丁 代表）	委員	山 川 晃	南城市産業建設部都市建設課 都市計画係長	委員	上 原 忠 敬	南城市産業建設部都市建設課 都市計画・港湾係	オブザーバー	翁 長 正 勝	県土木建築部港湾課 計画調査班主任
委員長	潮 平 隆	南城市商工会 会長																																				
委員	山入端 孝 雄	佐敷・中城漁業協同組合 組合長																																				
委員	大 城 正 幸	南城市津波古区 区長																																				
委員	福 田 宗 男	前佐敷町商工会副会長（現南城市商工会理事）																																				
委員	仲 間 美智秀	前佐敷町商工会副会長（現南城市商工会理事）																																				
委員	平 田 美智子	街づくり実践者（津波古区書記）																																				
委員	嶺 井 敬 子	街づくり実践者（浜珍丁 代表）																																				
委員	山 川 晃	南城市産業建設部都市建設課 都市計画係長																																				
委員	上 原 忠 敬	南城市産業建設部都市建設課 都市計画・港湾係																																				
オブザーバー	翁 長 正 勝	県土木建築部港湾課 計画調査班主任																																				

第1回検討会議事録

追番 1 - 2 頁

委員からの意見等

(嶺井)

- ・南部地域での地理的に位置もよいが、ただの通過点になっていて、山手のウェルサンピア宿泊施設などもあるが、（海手の）馬天までは下りてこない。
（斎場御嶽などの）世界遺産への通り道なのでリンクさせられないか
- ・海の駅のような、さしみ・天ぷらなど、海産物が集まる街並みになって欲しい。
- ・漕ぐだけの（競争ではない）ハーリー体験をしたいと思っている人も多い

(大城)

- ・（天然の）海水を使った豆腐作りを企画しているグループもある。

(山入端)

- ・馬天港独自の雰囲気、他の地域との差別化
- ・サバニレース
- ・手作りイカダレース
- ・西原祭りや、中城祭りなどの花火を見る遊覧船（の出港拠点）
- ・海の幸を堪能してもらう

(潮平)

- ・シーカヤックも素直に体験したい。
- ・数年前に商工会青年部で企画したハーリー大会における「手作りイカダレース」もよい

(平田)

- ・南城市体験プログラム
- ・馬天港通りのむかしの町並作り、砂利道などにしてみても（復元）
＜村おこしのケーススディーとして＞
 - ・熊本県のある村では「ポルトガル伝来の旧カルタ遊び」
 - ・四国のある村では廃校で、音楽家によるスチールパンを利用した「やぶ椿祭り」いずれも地道に時間を要しているが、全国的に口コミで次第に定着化している。

(上原)

- ・ハーリーやサバニを使って、久高島まで行ってみる
- ・やかた船
- ・レトロな町作り

(宮城)

- ・過去にあった地引き網の体験なども老若男女が一体感で楽しめて、定期的の実施可能
- ・流木を使った工作など、地元「木工芸職人」の体験教室

第 2 回検討会議事録

第 2 回						追番 2 - 1		頁
委託者印	会長	理事	理事	事務局長	担当者	受託者 検 印	管理技術者	照査技術者
	潮平	福田	仲間	糸数	平良,喜屋武		浦野	宮城
委託者名	南城市商工会					受託者名	上城技術情報株式会社	
件 名	「馬天港みなとまちづくり」形成 のための基礎調査					整理番号	0702	
出 席 者	委託者側	糸数昌也事務局長、平良 肇 喜屋武 聡				日 時	'07/11/7(水)PM2:00	
						場 所	南城市商工会会議室	
	受託者側	浦野、宮城、呉屋				打合方式	会議 Eメール FAX 電話	
1. 委員出席者 委員長 委員 委員 委員 委員 委員 委員 潮 平 隆 山入端 孝 雄 福 田 宗 男 仲 間 美智秀 嶺 井 敬 子 西平 守正 上 原 忠 敬 南城市商工会 会長 佐敷・中城漁業協同組合 組合長 前佐敷町商工会副会長（現南城市商工会理事） 前佐敷町商工会副会長（現南城市商工会理事） 街づくり実践者（浜珍丁 代表） 南城市産業建設部都市建設課 都市計画課長 南城市産業建設部都市建設課 都市計画・港湾係 2. 議題 1. 交流型体験プログラムの検討								

第2回検討会議事録

追番 2 - 2 頁

委員からの意見等

(嶺井)

- ・イベント会場は、港だと危険も多いので、鯨公園でも良いのでは
- ・屋台などは、田舎風でシンメナーアービィで作る天ぷらなどが、情緒があってよい
- ・赤貝は、砂を吐かすのに一日程度必要なので、採ったものではなく、事前に準備したほうがよい

(山入端)

- ・シーカヤック体験後、佐敷マリーナ付近で、赤貝を採ってもいい、海にふれてもらう
- ・漁船（遊覧船）の定員は、12人程度で、チャーター料も燃料代程度でお願いできるだろう
- ・シーカヤック体験は、小学校5年生程度からとする
- ・シーカヤックの安全管理は、漁船を伴走又は東部消防の水上バイク

(潮平)

- ・交流会で振る舞うのは、地域のものがいい
- ・遊覧船は一隻
- ・飲食などの出店は、本業の出店などは入れず、地元のもの（出来るだけ地元産品）が望ましい
- ・飲食は有料とする
- ・シーカヤックは二人乗りで十隻程度（二十名程度）が安全管理上望ましいのでは
- ・豆腐作り体験も行ってみたい
- ・イベントメイン会場は、荷さばき場とし、盛り土などしてステージを作る

(西平)

- ・港内を使った釣り大会（商品を設ける）

(上原)

- ・佐敷マリーナからの帰り（自転車）に専門家を招き自然観察を行う

(喜屋武)

- ・県港湾課からイベント的なことも行って欲しいとの要望あり

(浦野)

- ・シーカヤックは三十分程度講習を行い、万が一の場合は自己責任の一筆
- ・ルートは馬天港～佐敷マリーナで、シーカヤック＆自転車の組み合わせで行う

(宮城)

- ・目島氏の玩具に出店依頼

第3回検討会議事録

第 3 回						追番 2 - 1 頁																																
委託者印	会長	理事	理事	事務局長	担当者	受託者 検 印	管理技術者	照査技術者																														
	潮平	福田	仲間	糸数	平良,喜屋武		浦野	宮城																														
委託者名	南城市商工会					受託者名	上城技術情報株式会社																															
件 名	「馬天港みなとまちづくり」形成 のための基礎調査					整理番号	0702																															
出 席 者	委託者側	糸数昌也事務局長、平良 肇 喜屋武 聡				日 時	'08/2/29(金)PM3:00																															
						場 所	南城市商工会会議室																															
	受託者側	浦野、宮城、屋嘉比				打合方式	会議 FAX Eメール 電話																															
1. 委員出席者 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">委員長</td> <td style="width: 30%;">潮 平 隆</td> <td style="width: 40%;">南城市商工会 会長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>大城 正幸</td> <td>南城市津波古区 区長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>福 田 宗 男</td> <td>前佐敷町商工会副会長（現南城市商工会理事）</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>仲 間 美智秀</td> <td>前佐敷町商工会副会長（現南城市商工会理事）</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>赤嶺 敏明</td> <td>街づくり実践者（海翔 代表）</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>嶺 井 敬 子</td> <td>街づくり実践者（浜珍丁 代表）</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>山川 晃</td> <td>南城市産業建設部都市建設課 都市計画係長</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>上 原 忠 敬</td> <td>南城市産業建設部都市建設課 都市計画・港湾係</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>佐藤 和幸</td> <td>南城市総務企画部まちづくり推進課 地域再生 マネージャー</td> </tr> <tr> <td>オブザーバー</td> <td>翁長 正勝</td> <td>県土木建築部港湾課 計画調査班主任</td> </tr> </table> 2. 議題 1. 「馬天港みなとまちづくり」形成のための基礎調査のとりまとめについて									委員長	潮 平 隆	南城市商工会 会長	委員	大城 正幸	南城市津波古区 区長	委員	福 田 宗 男	前佐敷町商工会副会長（現南城市商工会理事）	委員	仲 間 美智秀	前佐敷町商工会副会長（現南城市商工会理事）	委員	赤嶺 敏明	街づくり実践者（海翔 代表）	委員	嶺 井 敬 子	街づくり実践者（浜珍丁 代表）	委員	山川 晃	南城市産業建設部都市建設課 都市計画係長	委員	上 原 忠 敬	南城市産業建設部都市建設課 都市計画・港湾係	委員	佐藤 和幸	南城市総務企画部まちづくり推進課 地域再生 マネージャー	オブザーバー	翁長 正勝	県土木建築部港湾課 計画調査班主任
委員長	潮 平 隆	南城市商工会 会長																																				
委員	大城 正幸	南城市津波古区 区長																																				
委員	福 田 宗 男	前佐敷町商工会副会長（現南城市商工会理事）																																				
委員	仲 間 美智秀	前佐敷町商工会副会長（現南城市商工会理事）																																				
委員	赤嶺 敏明	街づくり実践者（海翔 代表）																																				
委員	嶺 井 敬 子	街づくり実践者（浜珍丁 代表）																																				
委員	山川 晃	南城市産業建設部都市建設課 都市計画係長																																				
委員	上 原 忠 敬	南城市産業建設部都市建設課 都市計画・港湾係																																				
委員	佐藤 和幸	南城市総務企画部まちづくり推進課 地域再生 マネージャー																																				
オブザーバー	翁長 正勝	県土木建築部港湾課 計画調査班主任																																				

第3回検討会議事録

追番 2 - 2 頁

- 1, 平成19年12月9日に開催された交流型体験プログラムは、大成功だったということが確認された。
- 2, 平成18年3月に定められた、中城湾港湾計画（馬天地区）を考慮した「みなとまちづくり」を提案していくことが確認された。
- 3, 港湾施設の利用に際しては、様々な規制があるが、地域住民が現在の状況にこだわらず、観光産業・商業施設等が、展開できる様に積極的に取り組んでいく必要があるとの意見があった。
- 4, 住民のニーズを港湾計画に取り入れる事が再確認されたが、地域の活性化を軸に計画を進め、その中に住民のニーズを取り入れる形が望ましいとの意見があった。

馬天港みなとまつり

港まちづくりイベント
(交流体験プログラム)

と き：平成 19 年 12 月 9 日(日)9:00~17:00

ところ：南城市馬天港(メイン)及びその周辺



シーカヤック体験者募集中(限定 128 名)商工会で受付

南城市商工会(電話 947-1283・FAX 947-6559)

交流型体験プログラム

シーカヤック (馬天港⇄仲伊保のわくわくドキドキ体験)
サイクリング (// 海岸線の活き活きロード)
自然観察(じっくり・ゆっくり自然を満喫・観察・体感)
馬天港周辺の遊覧船 (海から佐敷の景観をお楽しみ下さい)
つり大会(超大物ゲット・・・ それとも数で勝負！)
手作り玩具(手先の器用な人・不器用な人だれでもトライ)

交流イベントプログラム

コンサート(尚巴志太鼓、佐敷中学校ブラスバンド、s s バンド他)
海産物料理(とにかくうまい料理が一番一番)
海産物直売等(ミニミニバザールでお買い物)
ソデイカ解体ショー・販売

※プログラムは変更する場合があります。

馬天港みなとまちづくり実行委員会(南城市津波古区、佐敷・中城漁業協同組合、南城市商工会、南城市)

ウラ：詳細プログラム&申込申請書

アンケート表

問1	☐ 男性	☐ 女性	職業 ()			
	☐ 10歳以下	☐ 10歳～15歳	☐ 15歳～19歳	☐ 20歳代		
	☐ 30歳代	☐ 40歳代	☐ 50歳代	☐ 60歳以上		
問2	あなたのお住まいはどちらですか？					
	☐ 南城市	☐ 那覇市	☐ 南部	☐ 中部		
	☐ 北部	☐ 県外				
問3	あなたは誰と来ましたか？					
	☐ 家族 () 人	☐ 友人 () 人	☐ 同僚 () 人	☐ その他 () 人		
問4	あなたがここまで来た交通手段は？					
	☐ 自動車	☐ バイク	☐ 自転車	☐ 徒歩		
	☐ その他					
問5	馬天港に何回来たことがありますか？					
	☐ はじめて	☐ ほぼ毎日	☐ 週2～3回	☐ 週1回		
	☐ 月1回	☐ 年数回				
問6	本日の企画を何で知りましたか？					
	☐ 南城市広報誌	☐ 南城市HP	☐ 南城市商工会HP	☐ 友人から		
	☐ 会社	☐ ホテルの案内書	☐ その他 ()			
問7	交流型体験プログラムに参加してどう思いましたか？					
	■ カヤックと自然体験					
	☐ 非常に楽しかった	☐ 楽しかった	☐ 普通	☐ つまらなかった	☐ 非常につまらなかった	
	感想 ()					
	■ 釣り体験					
	☐ 非常に楽しかった	☐ 楽しかった	☐ 普通	☐ つまらなかった	☐ 非常につまらなかった	
	感想 ()					
	■ ウォーキング体験					
	☐ 非常に楽しかった	☐ 楽しかった	☐ 普通	☐ つまらなかった	☐ 非常につまらなかった	
	感想 ()					
	■ 遊覧船体験					
	☐ 非常に楽しかった	☐ 楽しかった	☐ 普通	☐ つまらなかった	☐ 非常につまらなかった	
	感想 ()					
問8	問7で楽しかった体験プログラムをまた楽しみたいと思いますか？					
	☐ 思う	☐ 思わない	☐ どちらでもない			
	また、体験プログラムの実施時期は、いつごろがよいと思われますか？					
	☐ 週末ごと	☐ 月1～2回	☐ 年数回			
問9	このようなプログラムについて幾らかの負担が適切だと思いますか？					
	■ カヤックと自然体験					
	☐ 500円	☐ 1,000	☐ 2,000	☐ 3,000	☐ 4,000	☐ 5,000以上
	■ 釣り体験					
	☐ 500円	☐ 1,000	☐ 2,000	☐ 3,000	☐ 4,000	☐ 5,000以上
	■ 遊覧船体験					
	☐ 500円	☐ 1,000	☐ 2,000	☐ 3,000	☐ 4,000	☐ 5,000以上

問10	出店について
	■ 出店内容 (品揃えなど)
	☐ 非常に良かった ☐ 良かった ☐ 普通 ☐ 物足りなかった ☐ 全く物足りなかった
	意見 ()
	■ 出店内容 (販売価格について)
	☐ 適切であった ☐ 概ね適切であった ☐ 普通 ☐ 一部高い物があった ☐ 全て高かった
	意見 ()
問11	ステージプログラムについて
	☐ 非常に楽しかった ☐ 楽しかった ☐ 普通 ☐ つまらなかった ☐ 非常につまらなかった
	特に良かったものは何ですか？ ()
	意見 ()
問12	あなたは、このような体験プログラムを楽しめるクラブがあったら、また参加しますか？
	☐ 参加する ☐ わからない ☐ 参加しない
問13	あなたは、今日体験した以外の、どのような海のレクリエーションを体験したいですか？ (複数回答可)
	☐ サバニ体験 ☐ セーリング ☐ クルージング ☐ ウインドサーフィン
	☐ 沖釣り体験 ☐ パヤオ釣り ☐ シュノーケリング ☐ 各種ボーディング
	☐ ダイビング ☐ ジェットスキー ☐ その他
問14	あなたは馬天港が、このような体験プログラムの拠点として再生することについて、どのように考えますか？
	☐ 積極的に進める ☐ 何年か毎に行う ☐ 今のままで良い ☐ わからない
	意見 ()
問15	馬天港の活性化のために“みなとまちづくり”を進めていきますが、あなたは“みなとまちづくり”について何かご存じですか？
	☐ 知っている ☐ 知らない
問16	馬天港は、昔は捕鯨基地でした。あなたはそのことを知っていましたか？
	☐ 知っている ☐ 知らなかった
問17	馬天港の活性化について何かご意見がありますか？
	()
問18	トイレの数は十分でしたか？またきれいでしたか？
	☐ 満足であった ☐ 普通 ☐ 不満である
	不満と答えた方は何に対して不満でしたか？
	☐ トイレの数 ☐ トイレの設備
問19	休憩所の数は十分でしたか？また、きれいでしたか？飲食のサービスはあったほうが良いと思いますか？
	☐ 満足であった ☐ 普通 ☐ 不満である
	不満と答えた方は何に対して不満でしたか？
	☐ 休憩所の数 ☐ 休憩所のきれいさ ☐ 飲食店のサービス
問20	更衣室、シャワー室は必要でしたか？
	☐ 必要 ☐ 必要ない ☐ どちらでもない
問21	最後にお気づきの点がありましたら、ご記入ください。
	()

アンケート調査結果資料

馬天港の活性化について意見

- ・ もっとゴミ箱を設置してほしかった。
- ・ 定期的に実行すること。(毎年行う)
- ・ 地域の人が積極的に参加しないとダメだと思う。
- ・ イベントを何回かやってほしい。
- ・ 自然体験(サイクリング) で町・海のゴミが目につきました。
- ・ トイレの設置
- ・ 久高島への定期便が残っていた方が良かった。
- ・ ハーリーや今日の企画はとても良かったです。若い人にも今回のような企画を行うと家族で体験が行え参加が増えると思いました。
- ・ 子供からお年寄りまで多くの人が集まる場を近くに設置したらどうか？
(公園、公民館、ゲートボール場等)
- ・ 継続的なイベントの開催。
- ・ 次のイベントまで、継続的にフリーマーケットやアマチュアバンド(ギャラ無)等のイベントが実施されれば市外へのPRになる。
- ・ 活性化についてはいいと思いますが、一部の人しか参加しないので、その人達が負担になるのでは…
- ・ 沖縄の人達への認識度。県外との協力活性化活動にたいしてどう取組み、考えているかが見えてこない。
- ・ 活性化するための施設、場所、ここに来ると海のものを食べる楽しみ、ゆっくり休めて、語れる場所。活性化は施設ではこたえられないことを付け加える。
- ・ 南城市には何度も来ていますがこんなに歩いたのは初めてで自然の良さが残っている所を守り、そのことを広めていくことも (PR)いいかと思います。
- ・ 馬天港のまわりを整備して欲しい。
- ・ 魚の直売店が欲しい。
- ・ 古老に昔の馬天港のことなど、体験談を観光客に語ってもらってから体験させるととても良いと思う。
- ・ 港の地域のことや歴史のことに詳しい方の話を聞く機会があればいいと思う。
- ・ 新鮮な海の幸を提供できる市を定期的で開催して欲しい。
- ・ 以前は「馬天」というと高齢の方はしっていますが若い人になると知らない人が多いので、もっと馬天を周知させるための広報やイベントが必要だと思います。

まつり参加者が気づいた点

PR

- ・ 事前の周知が足りなかった。
- ・ もっとアピールが必要。
- ・ 広告をもっとすべきだと思います。

体験プログラム

- ・ カヤックが楽しかった。
- ・ カヤックとかもあったけど、他に遊ぶのも増やして欲しい。
- ・ レンタサイクルは子供用が必要。
- ・ 今回のカヌー体験コースは再検討を要する。
- ・ シーカヤックの服装はもう少し募集時に知らせておいたほうがいいと思う。
その他はすごく楽しめました。
- ・ 船釣りがしたい。
- ・ パソコンで遊びたい。

イベント会場

- ・ 看板や案内が少なかった。
- ・ もっと親切な案内と休憩する場所の確保が必要。
- ・ イカ、即売品を購入したが、氷も準備されていればなお良かった。
- ・ トイレが詰まっていて使用不可でした。浜珍丁横のほう。

総合

- ・ 子供達も気軽に参加できるように。
- ・ 港に対して商業的、文化的、歴史的な事に対してははっきりせず、普段の姿とイベント(内外) に対しての取り組みを明確にして欲しい。
- ・ 最初に気づきました。何をするのか一見して分からなかった。何かしないとアンケートに答えられないようになっている。パネルで見やすく表示してたらい(実際のを写真集で)。出席したら何が楽しみなのか。もっと工夫すべきと考える。体験のためのイベントだけのように思う。
- ・ せっかくのイベントなので後につなげる、また周りの人も呼びかけたい、そう思えるインパクトが欠けていると思いました。
- ・ 行事は継続的に開催して欲しい。

その他

- ・ おもしろい。
- ・ 今日は楽しかった。
- ・ とても楽しませていただきました。ありがとうございました。

- 今日の企画は素晴らしいと思います。南部で体験できて良かったです。スタッフのみなさんありがとうございました。
- 頑張っていきましょう。
- とても良かったのでまたやって欲しい。
- 進行係、スタッフの指導は本当に良かったです。
- 今日はいろいろなプログラムに参加できたことを感謝しています。スタッフのみなさんありがとうございました。

調 査 編 集：南城市商工会

事務局住所：〒901-1403 沖縄県南城市佐敷字佐敷43

電 話：(098)947-1283